SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.144　/　2018 APR.

平成30年度入学式を挙行しました

入学生を代表して遠藤学長に宣誓をする渡邊稜太さん

4月4日（水）、本学第五体育館で平成30年度第52回体育学部第21回大学院入学式が執り行なわれました。

学長告辞として、遠藤保雄学長は新入生に対し「今日入学する皆さんはこの4年間で何を極めようとするのか、今この時から考え、身近な人々との交流、支援の輪を育みながらじっくりと取り組みましょう。」と激励しました。続いて、理事長挨拶として朴澤泰治理事長・学事顧問が「仙台大学の建学の精神は実学と創意工夫であります。入学生の皆さんには、特に創意工夫を駆使し、大いに様々な学びにチャレンジして頂きたいと思います。」と挨拶されました。特に理事長は「本年度は新入生の中に、32歳という他の皆さんより更に10年以上の年輪を重ねているサッカー元日本代表FWでFC東京やベガルタ仙台でも活躍された平山相太さんがいます。この度、スポーツ指導者として第２の人生を歩むセカンドキャリアの勉学のため本学に入学されました。この挑戦を心から讃え、入学を歓迎をします。仙台大学としても責任の重大さを受け止め、平山さんと共に切磋琢磨して参ります。」と付言されました。

入学生代表宣言は渡邊稜太さん（体育学科1年-福島県立安達高等学校出身）で「私達が3年生の時には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。体育大学の一員として何らかの形で参画できるよう、学びを通して自己研鑽に励んでまいります。」と力強く宣誓文を読み上げました。

今年は新入生693名（体育学科345名、健康福祉学科105名、運動栄養学科90名、スポーツ情報マスメディア学科43名、現代武道学科41名、子ども運動教育学科48名、編入学生　5名、大学院生16名）が大学生活の第一歩を踏み出しました。多数の広報関係者を前に平山相太さんは「学生生活の中でスポーツマネジメントや指導者としてのコミュニケーション能力、指導方法などを学びたい。」と話してくれました。

新入生1人1人の大学生活が豊かで充実したものになることを教職員一同、心より祈念申し上げます。

〈目　次〉

平成30年度入学式を挙行	1
大学院新入生歓迎会を開催 春の県民交通安全総ぐるみ運動	2
第10回元気!健康！フェアinとうほく 「元気体操の楽しみ方」を実演 「留学生歓迎お花見会」を開催！！	3
株式会社ベガルタ仙台とアカデミック パートナーシップを締結 「放課後先生」から「未来先生」へ	4
第12回仙台大学体育施設管理士認定証 授与式を開催	5
第63回中日本レガッタ男子エイト優勝、 女子舵手付きクォドは準優勝	6
フランス研究教育機関国立応用科学院 リヨン校ラグビー部と本学ラグビー部が 合同トレーニングを実施しました 「運動栄養サポーター認定証授与式」	7
「本学研究員・村上泰司（平成28年運動栄養学科卒業ー旭川南高校出身）さんがハワイ大学院へ進学」	8･9
「高校スポーツの安全を守る」	10･11
平成30年度　新任者紹介	12～15

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通　0224 - 55 - 1802

参加者での記念写真

大学院新入生歓迎会を開催

4月4日に挙行された入学式終了後、学生食堂なちゅらを会場に「平成30年度仙台大学大学院新入生歓迎会」が開催され、新入生16名、教職員と大学院生含め約70名が参加しました。

新入生の挨拶では自己紹介やそれぞれが研究したいテーマなどを発表し、これから始まる大学院生活に期待を寄せていました。

歓迎会は終始和やかな雰囲気で行われ、歓談中は大学院生と教職員の会話している様子が多く見られました。

平成30年春の交通安全県民総ぐるみ運動（柴田町）

4月6日から春の交通安全運動が全国一斉にスタートしたことを受け、「春の交通安全県民総ぐるみ運動」交通事故防止街頭キャンペーンが9日朝、船岡駅前を中心に行われました。

本学から学友会の学生6名、滝口柴田町長、大河原警察署、柴田町交通安全協会など計6団体から総勢約40名が参加し、ポケットティッシュやチラシを配りながら駅前を歩く町民の方々に交通安全を呼びかけていました。

本学では毎年春と秋に行われている全国交通安全運動期間に合わせてイベントに参加しており、地域の方々と共に交通安全を呼びかけています。また、4月と9月中は授業開始に合わせて大学近隣の交差点などで学友会と教職員が一緒に、学生の交通マナーアップ運動も行っています。

第10回元気!健康！フェアinとうほく「元気体操の楽しみ方」を実演

3月31日（土）、仙台国際センター（仙台市青葉区）で「第10回元気！健康！フェアinとうほく」（主催：東北大学・河北新報社・東北放送/共催：仙台大学他）が開催されました。同フェアは、東北大学を中心とした多くの企業や団体が参加し、最新・最先端の健康情報について、講師陣が幅広い視点で分かりやすく紹介する講演やセミナー、その他、健康イベントが数多く出展されていました。

参加者と楽しく元気体操を行う松浦新助手

本学からは、橋本教授と松浦新助手が参加しました。橋本教授が「100歳まで元気に生きるコツ」と題して講演し、「健康に生活するためには、運動、食事、休養をバランスよくとることが重要で、普段から、意識して歩き、特に下肢筋力を鍛えることが大切です。また、炭水化物をとるほどに死亡率は増加し、脂質をとるほどに死亡率は低下します。」と研究について話しました。「和食は60%が炭水化物ですが、できれば50%を切るような比率が望ましいと考えられています。最近筋肉からインターロインなどのホルモンのような物質が分泌されることが発見され、糖尿病予防などへ応用されるでしょう。」と最近の話題についても話しました。

松浦新助手は「元気体操の楽しみ方」について、指先や体を使った頭の体操やいつまでも自立して歩くことができるように下肢の筋力トレーニングを行いました。「本ステージには約60名～70名の方に足を運んでいただき、子どもから大人まで楽しみながら体を動かしました。運動中は、頷きながら話を聞いてくださる方やメモを取りながら参加されているかたも多くいらっしゃいました。今回のイベント参加がきっかけとなり、運動実施や継続に繋がってほしいと思っております。今後も多くの方々の「心身ともに健やかな生活」の実現に向けて、個人だけではなく地域の健康づくりに尽力していきたいです。」と語りました。

＜報告：橋本実教授・松浦里紗新助手＞

「留学生歓迎お花見会」を開催！！

楽しく交流を深める本学の学生と留学生の様子

4月11日（水）に、毎年恒例の留学生歓迎お花見会が学食で開催されました。

この会は、本学の学生と国際交流締結校の中国、台湾、韓国を中心とする留学生の交流を主な目的としています。参加者は留学生22名、教職員13名、ボランティア学生及び、国際交流サークルの学生10名の総勢45名でした。今年度は、中国の瀋陽師範大学から2名、上海体育学院から2名、韓国の龍仁大学から2名の計6名の新入留学生が日本語と、自分の専門分野を学ぶため本学に参りました。留学生や、ボランティア学生たちは、最初は緊張した様子でしたが、韓国人留学生の申原旭（シン　ウォン　ウク）さん、崔　充榮（チェ ユンヨン）さんのダンスをきっかけに和やかな雰囲気になり、その後は学生ボランティアの皆さんも少しずつ留学生と交流し、学生間の結びつきが強くなったように感じました。

今後も留学生が少しでも日本の学生生活に親しんでいけるように、本学の学生とできるだけ多くの時間を過ごすためのサポートをしていきたいと思います。

＜報告：学生支援室　大久保成実＞

株式会社ベガルタ仙台とアカデミックパートナーシップを締結

締結式に参加した朴澤理事長・学事顧問と

ベガルタ仙台の西川社長（右から3人目）ら

4月27日（金）本学LC棟1階において、学校法人朴沢学園仙台大学は、株式会社ベガルタ仙台と「アカデミックパートナーシップ」を締結しました。

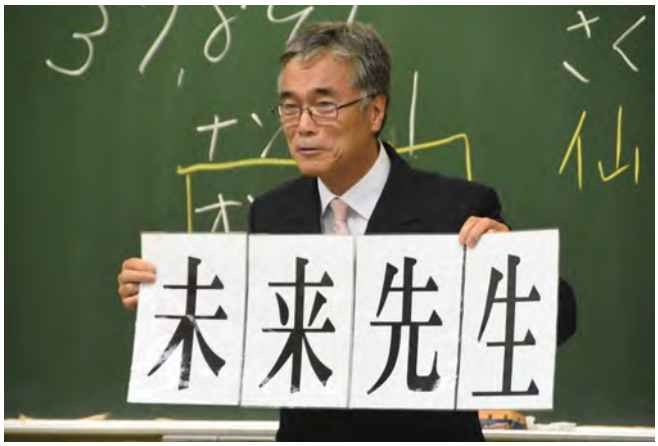
本協定は、両者の保有する各々の有形無形の資産の相互活用により、人材育成を通じて相互に地域創生・地域貢献を図っていくことを目的とした包括的なパートナーシップとなります。具体的なプログラムとして、仙台大学学生の専門コースの実践研究の場として学生がプロサッカーチームの現場を学ぶことや、技術指導を手始めに、今後様々な取り組みを行っていく方針です。

株式会社ベガルタ仙台の西川社長は「朴沢学園を通じて仙台大学と明成高校とは密接な関係があります。来年はクラブ25周年を迎えることとなり、改めて市民クラブとしての役割を見直したいと思っています。地域のみなさんとのつながりを深めていくうえでも、今回のパートナーシップ締結は重要な意味を持ちます。今後は仙南地域に注力したクラブ事業の展開を検討していき、絆づくりを推進するために知恵を絞っていきたいと思っております。」とご挨拶されました。

また朴澤理事長・学事顧問は「現在、元ベガルタ仙台で有名なサッカー選手でもあった平山相太氏が入学しております。選手のセカンドキャリアを引退後ではなく、現役時代から考えていくこと、教育課程内外を通じて学生時代からプロスポーツの現場で学べることは非常に貴重な人材育成の機会となりますので、具体的にベガルタ仙台と共に取り組んでいけることに感謝しております。」とコメントしました。

今年度は本学の学生がプロサッカーの現場にて、コーチング、トレーニングや興行運営などを体験学修いたします。本日のパートナーシップ協定締結により、Bリーグ89ers、プロ野球楽天イーグルスに次いで在仙プロスポーツ３球団とのパートナーシップを締結したこととなります。

「放課後先生」から「未来先生」へ



「未来先生」について説明をする柴田町教育長　船迫邦則先生

4月18日（水）、「放課後先生」の開校式を実施しました。柴田町教育長　船迫邦則先生をはじめ町内9校の小中学校の担当の先生方にご出席いただきました。教育長先生から、「今年で4年目を迎える事業だが、過去3年間の実績を踏まえ、名称を『未来先生』に変えます。」というお話があり、教員を目指している14名の参加学生の目がひときわ輝きました。

「未来先生」は今月から早速活動に入り、その様子はHPなどで紹介して参ります。

現在、20名の学生が登録しておりますが、今後も登録は受け付けますので、希望する学生は教職担当の先生にお申し出ください。

なお、「放課後先生」は、文化のまち・教育のまち「しばた」の教育資産（仙台大学）の活用を図り、児童生徒の学力や体力・運動スキル向上と仙台大学と柴田町の小中学校の交流を図ることを目的として始められたものです。「未来先生」と名称変更した今、教員志望の仙台大生が空き時間や放課後を利用し、授業補助・放課後の学習支援・部活動指導に意欲的にあたることが期待されます。

＜お問い合わせ先：末永精悦教授＞

認定証を授与された学生

第12回仙台大学体育施設管理士認定証授与式を開催

－49名が資格取得

4月13日(金)A棟2階大会議室において第12回仙台大学体育施設管理士認定証授与式が行われました。授与式では、遠藤保雄学長が平成２９年度に合格（平成30年2月発表）した49名のうち授与式に出席した33名に対し認定証を一人一人に手渡されました。

－この資格が実社会で活きたエピソード

認定証授与後の講評の中で、遠藤学長は一人の本学の卒業生の社会に出てからの活躍を引き合いに出して話をされました。そのエピソードとは…。

“その卒業生は本学の部活では正選手にはなれなかったものの、地元に戻り信用金庫に勤めることとなり、営業で回っていた地域の学校の体育館で練習するママさんバレーに部活で身に着けたバレーボールのテクニックを、たまたま伝授する機会を持つこととなった”、“加えて、その学校の体育館などの施設管理に関し「体育施設管理士」としての知見・知識を生かしたアドバイスを自然に行うようになった”、“このようなボランティア的な貢献が思わぬ効果、すなわち、自分の仕事の成績アップに繋がっていった”…というもの。

遠藤学長は、そのエピソードの締めくくりとして、「是非この資格の意義をよく考えて皆様が身に付けたノウハウを活用して自信を持って社会に役立ててほしい」と話されました。

－本学の授業で修得できる資格

体育施設管理士は体育施設の維持管理・運営に必要な知識・技能を認定する資格です。この資格に必要な科目は本学において習得することができ，科目修得後、公益財団法人　日本体育施設協会が学内で実施する資格認定試験に合格した者に『公認体育施設管理士』の資格が付与されます。日本体育施設協会は今まで62回の養成講習会（50余年間）を通してこの資格者を約11,000名認定してきました．本学は同協会の体育施設管理士認定校になって今年度で13年目となります。累計531名の有資格者を養成し、授業を通して資格認定者の養成を継続しています。

－就職試験等への活用を

資格を取得した皆さんは、これから就職活動が待ち構えています。その際、この資格取得により得られた①施設の安全管理　②顧客満足度を高める維持管理方法　に関する知見に加え、　③施設を経営管理していく判断力をも学んでいる点も、会社訪問の際や就職試験の際に説明できるよう準備して、就職活動のツールの一つとして活用していくことが期待されます。

＜報告：体育施設コンサルタント　小島文雄＞

遠藤学長に結果報告をする漕艇部の学生とスタッフ

第63回中日本レガッタ男子エイト優勝、女子舵手付きクォドは準優勝

4月20日から22日まで愛知県愛知池で「中日本レガッタ」が開催されました。本学からは「男子エイト」と「女子舵手付きクォド」の2種目にエントリーし、見事男子エイト優勝、女子舵手付きクォドは準優勝を勝ち取りました。5月1日に行われた学長挨拶では中日本レガッタの報告とU23日本代表候補の一瀬卓也選手（体育4年）とU19日本代表に選ばれた阿部亮平選手（体育1年）がそれぞれ以下のコメントをしてくれました。

男子エイト　渡部湧也主将のコメント
「予選ではスタートが空回りしてしまいまいたが、レース後の話し合いで本音を語り合い、レース毎に課題を解決しました。その結果決勝では、スタートから僅かなリードを奪い、ゴール前200mからスパートで強豪社会人を引き離し優勝することができました。」

女子舵手付きクォド　原　織江主将のコメント
「自分たちの課題に集中して試合に臨むことができ、その結果が準優勝につながりました。」

U23日本代表候補の一瀬卓也選手
「アジア大会に派遣されるメンバーがまだ決まっていないので、アジア大会に向けて選ばれるようにしっかりとトレーニングを積み、優勝を目標に頑張ります。」

U19日本代表の阿部亮平選手
「日本代表になれたことに満足せず、次のアジア選手権に出場し、活躍できるようにもっと質の高い練習に励んでいきたいです。」

それを聞いて遠藤学長は、「男子は本音を語り合えたこと、女子は課題に集中できたことが良い結果につながりました。これをベースに更なる飛躍を期待しています。」と激励されました。

合同トレーニング前に笑顔で記念写真

フランス研究教育機関国立応用科学院リヨン校ラグビー部と本学ラグビー部が合同トレーニングを実施しました

4月17日（火）仙台大学第2グラウンドにてフランス研究教育機関国立応用科学院リヨン校ラグビー部38名と本学ラグビー部6名、東北医科薬科大学ラグビー部3名、仙台高校ラグビー部18名の合同トレーニングが行われました。遠藤保雄学長は集まった学生に対し、「仙台大の皆さんを代表して心から歓迎します。日本では4～5年前まではラグビーの関心が少なかったのですが、ワールドカップで日本代表が南アフリカに勝利したことなど、大衆も関心を持ち始めてきました。本学のラグビー場の芝はしっかりと管理されておりますので今日の合同トレーニングを是非、有意義な時間にしてください。」とフランス語を交えながら英語で歓迎しました。

17：00～18：30と短い時間ではありましたが、フランスのラグビーを体験し、本学ラグビー部　向谷地　保主将（体育学科3年生）は「日本のラグビーとは違いパスが多く、他の国のラグビーを体験することができてチームにとっても個人としても勉強になりました。」と答えてくれました。

またフランス研究教育機関国立応用科学院リヨン校ラグビー部の主将　ウジェ　ウリスさんは「仙台大学と練習をさせていただきとても光栄でした。次回は日本のチームの皆さんが、フランスに来ていただき、また一緒にプレイしたいです。」と笑顔で語りました。

認定証を授与された学生

「運動栄養サポーター認定証授与式」

4月27日（金）第5回運動栄養サポーター授与式を開催致しました。運動栄養サポーターは4年前から本学の運動栄養学科学生対象に設けられた学内認定資格です。運動栄養サポーターは運動・スポーツの現場及び教育の現場（小学校・中学校・高校など）、健康づくりの現場（子ども、高齢者など）において、運動・スポーツを行う人に対し栄養指導ができる人材を育成する目的があり、階級は初級、中級、上級の3つがあります。

今回の授与式では初級14名、中級9名、上級5名に対して認定証書が授与されました。上級資格を認定された学生（4年生・高橋彩さん）は、「私は選手の目線から考えて主体的に企画や運営を行うことで、より様々な知識を身につけることができました。将来栄養士として働く際も身に着けたスキルを活かしていきたいと思います。」と話していました。

運動栄養サポーター取得者はこれまで延べ73名となりました。一昨年までは運動栄養サポート研究会会員のみの取得となっていましたが、昨年度からはより多くの学生が取得できるように、運動栄養サポーター取得カリキュラムの一部を1年生の授業に取り込みました。授業の中で運動栄養サポーター及び、運動栄養サポート研究会に興味を持ってもらい、今後もさらにサポーター取得者が増えるように工夫をしていきたいと思います。

＜報告：新助手　山上はるか＞

写真はアスレティックトレーナールームのヘッドであるエリック・オカザキ氏に指導を受けながら実践を積む村上さん

「ハワイ大学マノア校教育学部のNathan M. Murata学部長から
”村上泰司くんの大学院進学誠におめでとうございます。
心より歓迎します”という　お祝いメッセージも届きました。」

「本学研究員・村上泰司（平成28年運動栄養学科卒業ー旭川南高校出身）さんがハワイ大学院へ進学」

本学を卒業後、ATC（全米アスレティックトレーナー協会が公認するアスレティックトレーナー資格）取得を目指しハワイ大学マノア校にて学んでいた村上泰司さんが、このたび見事ハワイ大学院への進学を果たしました。日々勉学に励む村上さんに喜びの声・今後の抱負をおたずねしましたのでご紹介致します。

・今後、いつから大学院生活が始まりますか？
大学院の授業は7月の第一週目から本格的に始まります。

・毎日どのような授業を受けるのですか？
最初の夏学期の授業は応急処置等を中心に受ける予定です。秋学期以降からは、スポーツ外傷・障害に関する知識、評価方法などを学期ごとに部位別に学ぶことに加え、物理療法やアスレティックリハビリテーションの知識等も学んでいく予定です。

・すでにAT　Rmで実習し始めているそうですね？
現在はアメリカンフットボールを中心にサポートしております。ヘッドアスレティックトレーナーのテーピングの試験にも合格し、練習前の足関節のテーピングも任せてもらえるようになり、より一層のやりがいを感じるようになってきました。また、フットボール以外にも、ビーチバレーボール、野球や女子ソフトボールの試合のサポートもさせて頂く機会もあり、競技特性や競技に関連する外傷・障害を学ぶ良い機会となっております。

・UHのハレマノア寮に住んでみての感想
勉強とAT roomの活動を両立するのに理想的な環境であると感じました。かつて通学に充てていた時間を勉強に使うことが出来るため、より勉強に集中できるようになりました。また、AT roomでの活動が遅くなっても、徒歩圏内にあるため帰り道の危険性も心配することもなくなりました。そして、なによりもAT roomでの活動の幅が広がりました。アメフトの練習は早朝で、以前は家から大学まで時間がかかるため行く機会が限られていましたが、現在はほぼ毎回練習に参加することが出来ています。
普段の生活では、中国人の学生とルームシェアをしており、文化的な交流もできてとても楽しく過ごしております。ホームステイと同様に常に英語を話すことが出来るため、スピーキングスキルを養う良いきっかけともなっております。

・ATCを取得後の進路は？
資格取得後はアメリカで経験を積みながら興味のある研究分野を絞って、最終的にアメリカで博士号取得し研究職につくことを目指しております。脳震盪の対応は特に興味のある分野のため、そこに焦点を合わせながら経験を積んでいきたいです。

・晴れてUH大学院生になれたことに仙台大学で学んだ事柄はどのように活かせましたか？

AT部での活動が大いに役に立ったと思います。帯同、啓蒙活動やブース活動を通して、様々な現場を経験できたこと、学んだ知識を実際に活かせたことは現地の学生と比べ大きなアドバンテージとなったと思います。さらに、これらの知識を踏まえ、入学に至るまでの約一年間、ハワイ大学のボランティアを通してアメリカのATの現状やスポーツ現場について様々なことを考えることが出来ました。両国のスポーツ現場を経験し、比較できたことは自分自身ならではの経験であり、自分の目標を改めて明確にするうえで重要なものとなりました。

プログラム願書の提出にあたり、アメリカ式のGPA3.0以上が必須条件でした。しかし、AT部で学んだことを仙台大学の授業でも生かすことが出来たため、良い成績を残すことにつながり、自信をもって提出することが出来ました。さらに、プログラムが求める必須科目では栄養士過程とAT過程をとっていたことで、ほぼすべての科目をカバーしました。

・ATCを目指す後輩たちへのアドバイス

ATCのプログラムに入るためにはまず、TOEFLの取得が必須です。そのため、日々コツコツと英語を勉強することをお勧めします。現在は、様々な言語学習アプリも開発されているため、それらを用いながら工夫して勉強するとより効率的に覚えていくと思います。英語の勉強と並行して、仙台大学に来る留学生と積極的にコミュニケーションをとって練習すると徐々に上達していくと思います。

また、日本スポーツ協会公認ATの取得も同時に目指すこともお勧めします。ATC過程に入った際に、日本で得た知識がとても役に立つからです。私自身も、ATCに関わる授業を受けて初めて、身をもって実感しております。英語で復習することに加え、得た知識を深めていくためにも資格取得は今後の勉強の助けになります。これらを乗り越えていくのは大変だと思いますが、あきらめず頑張ってください。乗り越えた先には自分自身にしか見えないもの・体験できないものがたくさんあります。第二言語での勉強はタフな経験ですが、同時にとても楽しいことですので、英語での勉強を通して新たな発見や、理解が深まることが多くあるからです。これらの過程で得た知識や出会いは資格取得以上の価値を生み出してくれるでしょう。私自身も、これからが本番ですので皆さんと一緒にこれからも頑張っていきたいと思います。

村上さんは、アスレティックトレーナー研修（ビギナーコース・アドバンスコース）に参加する本学の学生たちがハワイ大学を訪れた際には、毎回親身になって世話をして下さり、後輩たちからも目標にする先輩として慕われています。村上さんが初志貫徹しATCになる日が待ち望まれます。

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」

こんにちは！仙台大学川平キャンパスの助手です！（写真左から浅野、白坂、小野）
私達の活動をみなさまにご紹介したく今回からMonthly　Reportに「川平キャンパスAT・S&Cレポートを書かせていただくこととなりました。

私達はアスレティックトレーナー（AT）2名とストレングス＆コンディショニングコーチ（S&C）1名、日本体育協会公認スポーツドクター1名という体制で仙台大学川平キャンパスにあるアスレティックトレーニングルームを運営しています。普段から青葉区に位置する川平キャンパスで勤務をしているため船岡キャンパスの皆様と交流する機会が少なく、たまに皆様とお会いする時に「どんなことをしているの？」と聞かれます。「明成高校と高大連携事業をしています」「高校生を対象にスポーツトレーナー活動をしています」といったお返事をしていますが、このような質問の後は「もっと学内の方々に知ってもらわなければ！」と感じていました。ということで、川平キャンパス設立から5年が経とうとしているこの節目の時期に、「川平での活動をもっと学内の皆様に知ってもらうことが本来の活動目的である“学外普及”の原点ではないか」と振り返りました。私達はミッションに『高校スポーツの安全を守る』を掲げ、姉妹校である明成高校の運動部活動を対象にスポーツ傷害予防を目的としたそれぞれのトレーナー活動をしています。これからこの川平AT・S&Cコーナーで私達の活動や明成高校生の部活動の様子、各種スポーツイベントそして部活動で発生するスポーツ傷害などを通して、高校レベルで行う『アスレティックトレーニング』と『ストレングス＆コンディショニング』という分野の目的やビジョンを皆様と共有していきたいと思っています。宜しくお願いします。

初回は川平キャンパスの施設紹介です。船岡キャンパスよりもかなり小規模ですが、充実した施設があります。アスレティックトレーニングルームは明仙フィールドに隣接していて、フィールドで部活動をしている生徒たちがよく見渡せます。春から秋にかけては気候に合わせて施設の前にベンチとパラソルを置き、生徒たちはアイシングやアイスバスをしたり、フィールド使用者が熱中症予防に休憩をしたりと賑わいます。

川平ATR外観

明仙フィールド

フィールドは人工芝のサッカーフィールド、サブグラウンド、陸上競技場、クレイグラウンドがあります。普段は明成高校生の部活動の利用が多いですが、週末や長期休暇中は地域の小学校やスポーツクラブなども日常的に利用しています。多くの年代が同じフィールドでそれぞれの競技をする、多様性あふれる運営がされています。遠くには泉ヶ岳が見える開放感あるフィールドです。

川平ATR内観（アスリハ室）

川平ATR内観（処置室）

アスレティックトレーニングルームは 現在1日に平均25名の生徒が利用しています。アスレティックリハビリテーションをはじめ、怪我の状態に合わせたウォームアップやクールダウンの指導、怪我を繰り返さないための予防トレーニングなど、スポーツ傷害に関わる予防から復帰までの様々なトレーニングを指導しています。S&Cは奥に設置されているオリンピックスタイルのプラットフォームを使い、競技力向上を目指したトレーニングを指導しています。隣は処置室となっていて、怪我の評価をしたり、リハビリ計画を話し合ったり、トレーニング中の補食や水分補給をする多目的な部屋です。高校生対象の教育的な指導であるため、丁寧さとわかりやすさを追求し、骨格模型や筋肉模型を使いながら怪我の説明をしています。多くの高校生は模型に興味を示し、見たり触ったりして人体について日々理解を深めています。

皆様、法人事務局に御用の際や、お近くにお越しになる際は是非立ち寄って下さい。元気な明成高校生とお待ちしています。

次回は高校総体に出場する男子サッカー部の試合帯同について紹介予定です。（担当　小野）

平成30年度　新任者紹介

教員10名　事務職員6名　新助手5名　臨時職員10名　計30名の皆さんが着任いたしました。

教員

おおみや　いさお 大宮　勇雄　教授 （幼児教育） 	「専門は保育・幼児教育。幸福感や学ぶ意欲の基礎は、乳幼児期にその身体・感覚のレベルで形作られるもの。子ども運動教育学科の皆さんといっしょに仕事ができるのが楽しみです。
はらだ　けんじ 原田　健次　教授 （幼児教育） 	人はみんな違います。足の速い子もいれば遅い子も、運動の得意な子もいれば不得意な子も、すべての子どもが楽しいと思える「幼児体育」を伝えることができる指導者・保育者になってほしいと願っています。
えじり　まさひこ 江尻　雅彦　教授 （生徒指導論） 	本学１０期生です。３８年間福島県立高等学校に勤務しておりました。その経験を踏まえ、私の後輩でもある学生の皆さんの課題にしっかり向き合い、サポートしていきたいと思います。
くさか　みつお 日下　三男　准教授 （スポーツ情報マスメディア） 	河北新報社で記者を36年やってきました。取材や紙面編集、あるいはコラム執筆が主な仕事内容でした。日々考えたこと、学んだこと、失敗したことなどを学生の皆さんに伝え、共有できたらと思っています。
ささき　かず 佐々木　和　講師 （幼児教育） 	34年間、幼稚園・認定こども園でクラス担任として勤務してきました。今年からは、保育実習、幼稚園教育実習を担当させて頂きます。健康第一に、学生さんと共に学んでいきたいと思います。疲れた時には、抹茶を点てて差し上げます。

はやし　なおき 林　直樹　講師 （スポーツ計量学） 	バドミントンのコーチングに関する科目とスポーツ計量学を担当します。体育・スポーツを通して社会に貢献することができる人材の育成を目指して指導していきたいと思います。
くぼ　よしこ 久保　佳子　助教 （運動栄養学科） 	給食委託会社での勤務経験を通して、将来、学生達が充実した社会人になれるよう微力ながら尽力して参りたいと思います。また運動栄養学科の特色である運動栄養サポート研究会の更なる活性化の為、自らのスポーツ経験を活かし貢献していきたいと思います。
おのでら　かずや 小野寺　和也　助教 （コーチング論） 	仙台大学の皆さまこんにちは。本年度より助教としてお世話になります。野球部のコーチも務めさせていただきます。精一杯精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。
みぞかみ　ひろし 溝上　拓志　助教 （スポーツ情報マスメディア） 	昨年度までの3年間、新助手を務めていました。主に、スポーツ情報マスメディア学科関連授業を担当します。責任感を持って教育研究に取り組みます。よろしくお願いいたします。
かわと　ゆうや 川戸　湧也　助教 （体育科教育学） 	昨年10月より新助手として勤務をさせていただいておりましたが、この度、助教としてお世話になることとなりました。専門は柔道コーチングと体育科教育学です。学生の皆さんの学びを支えられれば幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

職員

よしだ　きょう 吉田　京　さん （健康管理センター） 	病院勤務時代は内科病棟やリハビリ病棟を経験、3月までは訪問看護師をしていました。学生生活のサポートができるよう頑張ります。ケガや体のことで気になるところがあるなど些細なことでもよいので、気軽にE棟1階の健康管理センターまでいらしてください。
さとう　みき 佐藤　実季　さん （健康管理センター） 	６年間病院勤務を経た後、２年間ウガンダでJOCVとして業務遂行してまいりました。皆様の健康維持増進に加え、学生の良き道しるべのサポートをしていけたらと思っております。不慣れな部分が多々ありますが精一杯職務に励んでいきます。
むらまつ　あつひろ 村松　敦大　さん （入試創職室） 	今年度より教職支援室で勤めさせていただきます村松敦大です。早く仕事を覚え、仙台大学の発展に貢献していきたいと思います。一生懸命頑張りますのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

さくらば　かずおみ 櫻庭　一臣　さん （営繕管理室） 	営繕管理で勤務しております櫻庭一臣です。自衛隊勤務での経験を活かし、教職員等皆さまの勤務環境が更によくなるように努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。
こんの　まこと 紺野　誠　さん （労務職員） 	1月1日付けで労務職員としてお世話になります。 皆様方の顔と名前を早く覚えて大学に貢献できるよう努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
たのうえ　しんじろう 田上　紳二郎　さん （広報室） 	今年度より広報室で勤務させていただくことになりました田上紳二郎です。精一杯精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。多くの情報をお待ちしております 。

新助手

田中（たなか）　慎之助（しんのすけ）　さん （漕艇部コーチ） 	今年度より新助手としてお世話になります。田中慎之助です。漕艇部のサポート、大学の職員として、さまざまなことに貢献できるようにしていきたいと思っております。よろしくお願いします。
田中（たなか）　亨（りょう）　さん （健康福祉学科） 	今年度より新助手としてお世話になります。主な業務は健サポ業務です。大学職員として貢献できるよう積極的に取り組んでいきたいと思います。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。
佐藤（さとう）　悠大（ゆうだい）　さん （ウエイトリフティング） 	この度新助手として勤務することになりました佐藤悠大と申します。 新社会人として元気にバリバリ働いて、仙台大学に貢献し自分をより大きく成長できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いします！

山田（やまだ）　未来（みく）　さん （運動栄養学科） 	本年度より運動栄養学科新助手として勤務させて頂きます。 様々な業務を通して成長することが出来るよう精進して参ります。 仙台大学に貢献できるよう努力して参りますのでご指導の程よろしくお願い致します。
梅津（うめつ）　龍（りゅう）　さん （運動栄養学科） 	今年度から新助手として働くことになりました梅津龍です。1日1日を大切にし、自分の出来ることを精いっぱいやっていきたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

臨時職員

黒澤（くろさわ）　怜（りょう）　さん （女子サッカー） 	今年度より臨時職員として実践機構で働くことになりました黒澤怜です。一日も早く業務に慣れ、精一杯努めていきたいと思いますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。
尾崎（おざき）　皇士郎（こうしろう）　さん （スポーツ健康科学研究実践機構） 	スポーツ健康科学研究実践機構で臨時職員として勤務させて頂くことになりました。機構での仕事はまだまだ分からないことばかりでご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、精一杯努力していきたいと思いますのでご指導の程宜しくお願い致します。
佐野（さの）　友紀（ゆき）　さん （教職支援室） 	教員を目指す学生へより良いサポートが出来るように、仕事に取り組んでいきたいと思っております。また、母校である仙台大学に貢献できるように日々努力して参りますので、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。
真山（まやま）　大輝（たいき）　さん （学生支援室） 	今年度から学生支援室で働くことになりました真山大輝です。職員として仙台大学の為に務めさせて頂きます。どうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。
櫻井（さくらい）　一樹（かずき）さん （学生支援室） 	本年度より学生支援室にて働くことになりました櫻井一樹です。学生がより良い大学生活を送れるよう、サポートなどを精いっぱい頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願いします。

冨澤（とみざわ）　光生（こうせい）　さん （学生支援室） 	今年度から、学生支援室で臨時職員として勤務させていただくことになりました。冨澤光生です。大学生活がより良いものになるよう、精一杯サポートしていきたいと思います。ご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。
山家（やまか）　あずさ　さん （保育室） 	今年度より保育室でお世話になります山家あずさです。 よろしくお願いいたします。
兪（ユウ）　宜箴（イージャン）　さん （外国人特例研究員） 	今年度より臨時職員として勤めさせて頂くことになりました兪宜箴です。仕事は初めてのためご迷惑をお掛けしてしまうと思いますが精一杯努めていきたいと思います。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。
蘇（ス）　琬庭（ワンティン）　さん （外国人特例研究員） 	今年度より外国人特例研究員として勤めさせて頂くことになりました蘇琬庭です。スポーツ健康科学研究実践機構で健康づくり運動サポーターの事業の業務を行います。ご指導の程、よろしくお願い致します。
郭（カク）　宏志（コウシ）　さん （外国人特例研究員） 	今年度より臨時職員として働かせていただくことになりました郭宏志と申します。 仙台大学の発展に貢献できるよう、一生懸命頑張っていきたいと思います。ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.145　/　2018 May.

東北初　仙台大学女子クリケット部発足

写真左から、鹿野あかり選手（主将）、小笹優奈選手、小林みなみ選手、遠藤学長、仲野部長、伊藤未玖選手、皆川雛選手、小林七彩主務

5月18日（金）に本学の管理・研究棟（A棟）2階大会議室にて東北初となる仙台大学女子クリケット部の発足と5月3日から6日に栃木県佐野市で行われたクリケット女子日本強化選手団とナショナルアカデミーの練習報告会が行なわれテレビ局・新聞社計5社が来訪しました。

クリケットとはバットとボールを使う野球の原型とされる競技であり、英国発祥で上流階級が楽しむ「紳士のスポーツ」として各国に広がっています。競技人口もサッカーに次ぎ世界2位で南アジアなどで盛んに行われていますが、日本の競技人口は少なく、大学女子の部活動では全国で7校目。本来1チーム11人の競技ですが、本学のクリケット部は現時点で6名（選手は5名）。鹿野あかり主将は「全員が初心者で、試合ができる人数を集めることが目標。試合時間は5時間を超えることもあるハードな競技ですが、もぐもぐタイム（試合の合間に軽食を取ること）もあるので私達からクリケットを広めていきたい。」と普及に意欲を燃やしました。

5月3日から6日に「クリケットの町」栃木県佐野市で行われたクリケット女子日本強化選手団とナショナルアカデミーの練習はすでに5名が参加し、鹿野あかり主将と小笹優奈選手は日本強化選手団にも選抜されるなど、2月に行われる国際大会の出場を目指す。小笹優奈選手は「日本代表候補に選ばれたからには、世界のテッペンを目指したい。また 早く世界の選手達と試合をしたい。」とコメントし、部長の仲野教授も「部員数を確保できたら、単独チームを作って、他大学と試合がしながら焦らずゆっくりと着実に部として発展していければと思います。」と 抱負を述べました。

〈 目　次 〉

東北初　仙台大学女子クリケット部発足	1
内閣総理大臣主催「桜を見る会」へ遠藤学長と佐々木琢磨新助手、星泰雅選手が招待される 「平成29年度春季海外留学・研修報告会および平成30年ど海外留学・研修合同説明会」を開催しました	2
「第28回仙台国際ハーフマラソン大会 国際姉妹都市交流会」に参加 2年ぶりの全国大会でのチャレンジ！ ～仙台大学塾～ 「新任者事務研修会」を実施	3
仙台89ERS2017-2018シーズン スポンサー感謝の集い	4
「宮城県警察官募集に関するイベント」を開催 学校法人朴沢学園「永年勤続表彰式」がおこなわれました	5
スポーツ情報サポート研究会活動 報告会を開催 「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会」「全国体育系大学学長・学部長会議総会」が開催～体育系大学に今、求められているものとは～	6
仙台大学同窓会「社員総会」開催 健康づくり運動サポーター-認定証授与を開催	7
健康管理センター佐藤実季さん ～青年海外協力隊看護師として医療支援、職場環境改善（以下：5S 活動）をウガンダ共和国「カバレ地域中核病院」で実践～	8
「高校スポーツの安全を守る」	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通　0224 - 55 - 1802

桜を見る会に招待された佐々木選手（左）星選手（右）

内閣総理大臣主催「桜を見る会」へ遠藤学長と、佐々木琢磨新助手、星泰雅選手が招待される

４月２１日（土）新宿御苑において内閣総理大臣主催の「桜を見る会」が催され、遠藤保雄学長及びデフリンピックで活躍した佐々木琢磨新助手と星泰雅選手（体育学科２年）が招かれ出席しました。両名と会場で合流した遠藤学長は、デフリンピックで活躍した他の選手たちとも懇談しました。

佐々木琢磨新助手は「安倍首相をはじめ、平昌五輪メダリストや芸能人など有名な方々とお会いでき光栄でした。2019年３月にエストニアで行われる第１回世界ろう者室内陸上競技選手権への出場権を獲得できるよう今後も精進します」と決意を述べ、星泰雅選手は「このような会へ招かれ一生の思い出になりました。3年後のデフリンピックでも成績を残し、再び招待いただけるような活躍ができるよう日々頑張ります」と話しました。

遠藤学長は「オリンピック・パラリンピックに注目が集まる中、デフリンピックで活躍した日本代表選手たちが会へ招かれたことは大きな意義がある。この分野で日々、耳が不自由ゆえにその壁と向き合う若者に対し、日本政府としても彼らの日常を見つめ理解と協力を求めていることを実感した。青空の下、デフリンピックで活躍した選手らの明るい笑顔は、聞こえぬ壁を乗り越えていこうとする、その心意気が示されている。」と話しました。

研修報告会の様子

「平成29年度春季海外留学・研修報告会および平成30年度海外留学・研修合同説明会」を開催しました

4月24日（火）に「平成29年度春季海外留学・研修報告会および平成30年度海外留学・研修合同説明会」を開催しました。今回の春季海外留学・研修では、8つのプログラム（韓国・龍仁大学校/中国・瀋陽師範大学/台湾・台東大学/アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校/アメリカ・ハワイ大学/デンマーク・ノアフュンス国民大学、リレベルト大学/フィンランド・カヤーニ応用科学大学/ニュージーランド・カンタベリー大学、CCEL）が実施され、それぞれのプログラムに派遣された学生から研修成果について報告がありました。また、国際交流センターから、平成30年度に実施が予定されている海外留学・研修プログラム内容について参加を検討している学生に対し説明しました。

＜報告　事業戦略室＞

参加者で記念撮影

「第28回仙台国際ハーフマラソン大会 国際姉妹都市交流会」に参加

5月13日（日）に江陽グランドホテルにて、「第27回仙台国際ハーフマラソン大会 国際姉妹都市交流会」が開催されました。姉妹都市からは、長春市（中国）、ダラス市（アメリカ）、光州広域市（韓国）、台南市（台湾）リバサイド市（アメリカ）、レンヌ市（フランス）、ミンスク市（ベラルーシ）、アカプルコ市（メキシコ）、の8都市の参加がありました。本学は、中国長春市にある東北師範大学および吉林体育大学と連携しており、交換留学生などの交流を行っています。ベラルーシのミンスク市とは、2020東京オリパラ事前合宿地として、ベラルーシ新体操チームの誘致が決定され、今年7月に第一回目の事前合宿を本学で実施する予定です。

今回の仙台国際ハーフマラソン大会の招待選手の中、ミンスク市のユリア・タラセヴィチ（Yuliya Tarasevich）選手（女子）が47位という順位を獲得しました。

懇親会は終始和やかな雰囲気で、本学からの参加者が参加選手団の方や宮城・日中友好協会、ベラルーシ協会、韓国領事館の方々とも交流を深めることができました。

＜報告　馬佳濛准教授＞

宮城県代表の仙台大学柔道塾

2年ぶりの全国大会でのチャレンジ！

～仙台大学柔道塾～

5月5日（土）こどもの日に、柔道家たちの憧れの場所であり、日本柔道総本山である『講道館』において、『第38回全国少年柔道大会』が開催され、厳しい宮城県予選を勝ち抜いた仙台大学柔道塾のちびっこ柔道家たちが県代表として大会に出場してきました。

この大会は、数ある少年柔道大会の中でも最も歴史があり、過去には本学教授である南條充寿塾長も出場し、入賞した経緯があります。

試合は5年生、6年生で5人のチームを組み、団体試合により勝利を争います。

結果は熊本県代表に0－3、新潟県代表に1－4で敗れ、惜しくも予選リーグ敗退でしたが、頼もしく成長した塾生たちを見て、この全国大会での経験が今後の子供たちの自信となり、もっと「柔道を頑張ろう」「柔道が好きになった」につなげていこうと、柔道塾スタッフ一同決意を新たにしているところであります。

＜報告　南條充寿現代武道学科長・教授＞

午後から明成ラボの施設を見学する様子

「新任者事務研修会」を実施

4月25日（水）学校法人朴沢学園法人事務局会議室にて、本学園に新規任用された事務職員7名に対して、SDの一環として職務上必要となる資質涵養及び業務遂行等の基礎知識の習得を目的とする研修会が行われました。

始めに朴澤理事長・学事顧問から、これまでの本学園の歴史を話され、まもなく140周年を迎えるにあたり「学生の人口が減っていく中で教職員1人1人何が必要か考え、それぞれの分担と仕事を持ち、視野を広く持って常に大学や高校の流れを頭に入れて仕事に取り組んでほしい」と訓示を頂きました。

午後は、明成バスケラボやATルーム（川平キャンパス）などの施設見学なども行い、充実した1日となりました。

89ERSの選手と記念撮影

今シーズンで引退された志村選手と朴澤理事長・学事顧問

「仙台89ERS 2017-2018シーズン　スポンサー感謝の集い」

5月15日（火）勝山館にて開催された「仙台89ERS 2017-2018シーズン　スポンサー感謝の集い」に朴澤理事長、佐野常務理事と出席させていただきました。会場には約80社ある公式スポンサーの中からおよそ50名の方々が集まりました。

今シーズンを振り返るとシーズン前半は勝率5割に留まり、1月にはヘッドコーチが解任されました。シーズン後半新任ヘッドコーチのもと巻き返しをはかりましたが、なかなか勝率を上げられず、最終的には勝率3.5割という厳しいシーズンとなり、B1リーグへ1年で復活、と目標を掲げて始まったシーズンですが、残念ながら来季もB2リーグで戦うことが決まっています。4月には球団代表の中村氏の退任、新社長には楽天野球団部長の渡邊氏が就任することが発表され、そしてその数日後には仙台89ERSの顔であり続けた志村雄彦選手の引退も発表されました。とても変化の多い、怒涛のようなシーズンだったのではないでしょうか。

感謝の集いは中村社長の挨拶から始まり、スポンサー企業へ感謝の言葉を述べられていました。その後新社長の渡邊氏の挨拶もあり、来季に向けての覚悟と意気込みをお話されていました。乾杯のご発声は朴澤理事長・学事顧問がされました。ご挨拶のなかで朴澤理事長・学事顧問は、明成高校卒業生であり現在アメリカでプレーをする八村選手が所属するゴンザカ大学があるワシントン州スポケーンという小さな町の紹介をし、「20万人しかいない小さな町でバスケットボールを応援している。100万人都市である仙台であればもっとバスケットボールを応援できる。」とスポンサー企業として来季へかける期待をお話されていました。

感謝の集いは選手がスポンサー企業のテーブルを回り挨拶をする、という形がとられていますが、明成高校卒業生の宮本選手と白戸選手も朴澤理事長・学事顧問に挨拶をしていました。二人は来季も仙台89ERSに所属することが決まっています。朴澤理事長・学事顧問は二人に「来季はもっと活躍しているところが見たい」と激励されていました。石川選手とは話ができませんでしたが、「来季も仙台89ERSで活躍して欲しい」と期待されていました。朴澤理事長・学事顧問は他にも新体制の経営陣とお言葉を交わしたり、他企業の皆様とご歓談されていました。私も個人的に交流する時間を頂き、筆頭株主となった株式会社ボディープラスインターナショナルの須磨氏、今野不動産社長の今野氏、河北新報社スポーツ事業部の森田氏とお話をさせて頂きました。

今回の集いで球団側は来季に向けての具体的な方針を発表することはありませんでしたが7月より本格的に新体制となる、ということで、どのような新生89ERSとなるのか楽しみです。筆頭株主のホルトン会長はカナダ出身の日本人ハーフの方で、日本の文化や風土を理解しながらも海外仕込の斬新な企画をどんどん形にしている、とても有能な経営者です。私も仙台89ERSに所属していたころからご支援を頂いており、ホルトン会長がこれからどのようなチーム作りをしていくのか、楽しみでありながら、きっと今までにない、最高の形を作り上げるであろうという期待に心が弾みます。

仙台89ERSを離れて5シーズンが過ぎ、元チームメイトはもういなくなってしまいました。しかしながらフロントスタッフは残留するとのことで、やはり数名の同僚がこれからもチームを支えていきます。私としても彼らスタッフと新経営陣をこの先も一スポンサー企業の関係者として、そして一バスケットボールファンとして応援し続けようと思います。最後になりましたが、今なおチームとこのような交流を持たせていただける環境と、このような素晴らしい会に出席させて頂く機会をくださいました朴澤理事長・学事顧問をはじめ関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

＜報告　白坂広子助手＞

パトカーを体験する学生

宮城県警察官募集の話を聞く学生

「宮城県警察官募集に関するイベント」を開催

5月16日（水）11：30から学生食堂前にて、宮城県大河原警察署主催で「宮城県警察官募集に関するイベント」が実施されました。当日は、5月にもかかわらず気温がぐんぐん上がり、正午までに28度に達しました。学生食堂入り口付近では、強い日差しが降り注ぐ中、学生たちが楽しそうにパトカーに乗車し、サイレンを鳴らしたり、拡声器を使用するなどして乗車体験を行いました。また、来学された13名の警察官の方には様々な制服姿でおいで頂き、業務によって服装も異なる警察官の仕事がさらに身近に感じられました。特に志望度が強い学生については、学生食堂１階に設置した個別の相談コーナーにおきまして、たっぷりと時間を掛けて説明を頂きました。ある学生は、「これまで、近寄りがたいイメージがありましたが、とても身近な存在として感じられました」と話をしてくれました。平成30年3月の卒業生で宮城県警察に就職した卒業生は8名でした。現在、警察官希望者の減少が取り沙汰されておりますが、このようなイベントを通じ将来警察官を志す学生が1名でも増えてくれることを願っております。
＜報告　入試創職室＞

学校法人 朴沢学園「永年勤続表彰式」がおこなわれました

5月15日（火）法人事務局において永年勤続者への表彰式が執り行われました。永年勤続表彰は朴沢学園に25年勤務し学園の発展に寄与された教職員へ授与されるもので、本学園の創立記念日（5月6日）にちなみ5月に行われています。

今年度の永年勤続表彰授与者は、栗木一博教授、高橋弘彦教授、永田秀隆教授、番匠一隆事務局長補佐・兼スポーツ健康科学研究実践機構事務室長、松野礼子営繕管理室担当課長、佐藤裕子学生支援室グループマネージャー、土生佐多広報室担当課長の7名と、同法人で姉妹校の明成高等学校の教職員3名あわせて計10名で、朴澤理事長・学事顧問から表彰状と記念品が手渡されました。

式終了後は、朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長、明成高等学校佐々木稲生校長先生、法人事務局の常任理事の方々と昼食をとりながら懇談し、四半世紀にわたる想い出話に花が咲きました。

当日大学の講義のため、やむをえず表彰式に参加することのできなかった永田教授と高橋教授には後日遠藤学長から表彰状と記念品が授与されました。

情報分析を行う普段の様子

スポーツ情報サポート研究会活動報告会を開催

5月1日（火）LC棟1階において、スポーツ情報サポート研究会の前年度（平成29年度）活動報告会を開催しました。本研究会には、情報分析や映像制作に役立つスキル獲得を目指すとともに、情報活用を通して部活動支援に取り組む学生約40名が所属しています。報告会当日は、日常的に活動している8グループ（硬式野球、メディア、男子ハンドボール、女子ハンドボール、男子バレーボール、男子サッカー、女子バスケットボール、男子バスケットボール（発表順））に分かれて発表しました。

情報戦略領域のグループは春季大会と秋季大会の比較を中心に、情報分析の手法や秋季大会までのプロセス、新年度の目標等を報告しました。マスメディア領域からは、学内だけでなく、開学50周年記念行事や地域スポーツイベント等の取材・制作活動を基に、1年間の成果と今後の改善点について報告がありました。

本研究会は発足して4年目を迎え、それぞれのフィールドにおける活動が定着してきました。現在は価値ある情報提供を目指し、週1回グループの枠を越えて実践事例を共有するなど、日々試行錯誤しながら活動しています。＜報告　溝上拓志助教＞

全国体育系大学学長・学部長会議総会の様子

「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会」「全国体育系大学学長・学部長会議総会」が開催

～体育系大学に今、求められているものとは～

5月24日、新横浜において桐蔭横浜大学を幹事校とし、一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会の総会（会長日本体育大学　松浪健四郎理事長）が開催されました。この協議会は、体育系大学の経営者等で構成され、体育系大学全国体育系大学学長・学部長会議とともに体育系大学における教育研究並びに管理運営等に関連する事項について協議し、相互の連絡・理解・親睦を図り、体育の向上発展に寄与することを目的に活動しています。（事務局：日本体育大学）

総会では、近年、大学スポーツの活性化とそれを通じての大学の一体化の醸成などを狙いとした日本版NCAAの議論が高まりを見せていることから、スポーツ庁の幹部による「日本版NCAA」に関する講演が行われ、学生アスリートの学業充実化、スポーツを行う上での安全安心の確保、日本版NCAAのマネジメントの在り方、特に、その担うべき役割や大学スポーツにとってのメリットなどについて講話が行われました。

この講演を受け、総会において、松浪会長から、日本版NCAAの在り方とその機能については、、体育スポーツ系大学にとり大きな関心事項であり、協議会として検討協議していくことが必要との問題提起があり、今後、研究会を発足させて対応していくことが了承されました。

また、松浪会長から2040年には介護医療費が190兆円に達するとの見通しが出される中、そのコスト削減のためには健康年齢の引き上げ、元気な高齢者群の形成が急務であり、体育スポーツ系大学として「健康年齢引き上げのための研究会」の発足が提案され満場一致で了承されました。

なお、この総会において、機能に類似性・重複性のある「全国体育スポーツ系大学協議会」と「全国体育系大学・学部長会」の統合の検討を行うべきではとの問題提起があり、今後の検討課題になりました。

同じく、翌5月25日に全国体育系学長・学部長会議（事務局：順天堂大学）の第５1回総会が開催され、加盟する３３大学から３０大学５９名が参加しました。今回はスポーツ庁オリンピック・パラリンピック課長勝又正秀氏が「２０２０体育系大学に期待すること、求めていきたいこと」と題し講演され、その中で、スポーツ系大学に期待したいこととして、①学生アスリート支援、②2020東京オリパラでの、スポーツを見る、する、支えるという視点での学生ボランティアによる参画、③2020年後の東京オリパラのレガシーとしてのスポーツ参加人口の拡大への貢献という点を強調なさいました。特にその際、学生ボランティアの参加の必要性が大会成功に不可欠である旨、力説されましたが、ボランティアには交通費、宿泊費は手当てされないとのことから、地方の学生は安価な宿舎を確保し得ないならば対応しかねる等の問題が提起されるなど、活発な論議が展開され、抱える課題が浮かびあがりました。

来年は大阪体育大学を幹事校として総会が開催される予定ですが、関西地区では日本版NCAAの体制が他の地域に先駆けて整備されつつあること、オリンピック・パラリンピックという国家的行事が翌年に迫っており、体育スポーツ系大学の果たす役割について、重要な論議が展開されることが期待されています。

参加者での記念撮影

仙台大学同窓会「社員総会」開催

今年度の「社員総会」が5月12日（土）に仙台ガーデンパレスで開催されました。
全国26支部中、17支部の支部長、事務長、新設予定の1支部、同窓会本部からは理事、役員など11名、総勢29名が出席しました。 総会では、平成29年度の同窓会事業の他、50周年事業に関する報告並びに会計報告、平成30年度事業計画、予算について提案がありました。協議事項では同窓会として継続の事業計画、奨学金、同窓会館建設の件、支部活動、活動費等について議論がなされ、3月で任期満了の理事改選及び同窓会館建設に関しては支部の意見を集約し､同窓会の理事会で検討することになりました。

引き続き行われた懇親会では、朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長も出席し、各支部の活動状況などの報告もあり、和やかな雰囲気の中で同窓生相互の交流が深められ、盛会のうちに閉会となりました。

＜報告　同窓会事務局＞

資格認定証書を授与された学生

健康づくり運動サポーター認定証授与式を開催

5月29日（火）に本学独自の認定資格である「健康づくり運動サポーター」（以下、健サポ）の資格認定授与式を開催しました。今回は平成29年度に養成講座と実習を終え、平成30年5月の臨時審査会で資格を認定された初級3名、中級1名の計4名に対して認定証書が授与されました。新たに資格を取得した学生は「参加者に寄り添ってサポートしていきたい。」「これから中級の資格取得を目指し、知識を深めていきたい。」「今回、教職員や地域の方々のおかげで中級を取得することができた。今後は、上級取得を目指していきたい。」など、感想や抱負を述べました。

健サポ養成は、これまで述べ554名が資格を取得しました。学内で実施される養成講座を受講後、現場実習として地域の健康づくり教室に参加します。行政区で開催される健康づくり教室に参加することで、地域の住民や高齢者と関わることができ、コミュニケーションスキルや指導力の向上が期待できると考えております。今回、資格取得した学生は次の級を取得するための講座を受講中で、今後も多くの学生がサポーターとして地域や社会で活躍できるように尽力してまいります。

＜報告　松浦里紗新助手＞

健康管理センター佐藤実季さん
～青年海外協力隊　看護師として医療支援、職場環境改善（以下：5S活動）をウガンダ共和国「カバレ地域中核病院」で実践～

公立カバレ地域中核病院の前で（右から6番目が佐藤さん）

青年海外協力隊（2016年１月～2018年1月）の2年の任期を経てこの4月に本学の健康管理センターの看護師として着任した佐藤実季さんに、派遣国「ウガンダ共和国」での青年海外協力隊活動のお話を伺いました。

佐藤さんは加美町出身で看護師を目指し白石女子高等学校看護科へ入学。早い段階から看護師として国際貢献することに興味を抱いていたそうで、看護師免許取得後は国内の病院勤務を数年経験したあとJICAボランティアへ挑戦。3回目の応募で「ウガンダ共和国」への派遣が決まりました。

ウガンダ共和国は、ナイル川の源流を有し、マウンテンゴリラ、ウガンダキリンなどの野生動物が多数生息し「アフリカの真珠」と謳われる緑豊かな内陸国です。国民の約40%が貧困とされ、乳幼児の死亡率や多産である妊産婦の死亡率が高いことから、保健医療の改善は国家の重要課題の一つです。

ウガンダ共和国で看護師として働くには、現地の看護師免許を取ることが必須であるため、ウガンダ人研修生などと英語に悪戦苦闘しながらも、3か月の実地研修（小児科・外科・内科・外来）を重ねウガンダ看護師免許を取得し、ルワンダ国境近くの「公立カバレ地域中核病院（日本が建設）」へ配属が決まったそうです。

病院には国からの一定の支給品があるものの慢性的なモノ不足から佐藤さんを通じ何とか支給が多くならないかと、「トイレが欲しい」「医療器具が欲しい」といった訴えが、はじめは多く寄せられたそうです。

しかしながら佐藤さんは、雑然とした薬品棚や倉庫、掲示板、一角には段ボールの山などが置かれた状況に、文化的な違いはあるものの、多くの「無駄」が散見していること、効率的な活用に至っていない現実があることこそが、慢性的なモノ不足ではないか？と考え、**「5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躾）」**こそが、この病院にまず必要なことと感じ、まずは、この活動の推進に着手することにしました。活動の必要性を何度も繰り返し説くうちに、看護師で同僚でもあるピドソンさんが理解を示し、彼と5S活動の普及活動を始めたそうです。はじめはパワーポイントで作っていた指導教材も、インフラ設備が不安定な環境を考慮し、英語の「紙芝居」を作成し、看護学校など様々な場所で説明するなど病院の協力者とともに活動への理解を求めました。

当初は全く関心を示さない人、菓子を準備していないと参加しない人など研修会は毎回苦労しながらも自発的な5S活動を促し続けました。佐藤さんが挫けず必要性を伝え続けたことで、1年半が経過した頃には、効率的な仕事が定着しはじめ、整理整頓や分別をしたことで埋もれていたトイレも出現したり徐々に目に見える成果が現れ、医師・看護師長・事務職員・警備員など職種も年齢も様々な「カバレ病院・5S推進チーム」が発足することとなります。

紙芝居で５Ｓ啓発活動

その後も佐藤さんは、日本人が去ってもウガンダ国内で5S活動を実践し続ける病院への2泊3日のスタディツアーを行い取組みの素晴らしさを知ってもらいました。ツアーを通じ学んだことは活動を継続していく上でとても大きな自信となったそうです。

帰国間際には、ウガンダ共和国で開催された「Quality　Improvement学会」で推進チームの皆と５Ｓ活動実践に関するポスター発表も行いました。

帰国後、活動のキーパーソンとなった、ピドソンさんとのメールのやり取りの中で「公立カバレ地域中核病院」が5S活動の見本の病院として紹介されることも多くなったことを聞き、佐藤さんはとても嬉しいと話します。今後も国際貢献の活動報告や講演の依頼も多く予定されているそうで、学生へも、ひろく国際貢献活動の素晴らしさを伝えたいと意欲を示しています。

また、自然豊かなアフリカの大草原でイキイキと暮らす野生の動物のことなども、地域の子どもたちや学内の保育室の子どもたちなどに紹介出来る機会があったら嬉しいとも話してくださいました。

５Ｓ活動推進チームが発足

学会でピドソン氏が活動発表

カバレの街並み

ウガンダキリン

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.2

「高校スポーツの安全を守る」をテーマに川平AT・S&Cレポート第2弾です。（担当：小野勇太）

新年度が始まり5月現在、川平ATRが対象とする明成高校運動部学生達は、高校総体に向けて練習に更なる意欲をもって取り組んでいます。本気で頑張るからこそ、スポーツ活動中には「ケガ予防」や「体調管理」の対策が非常に重要になります。そこで、川平ATRでは、川平ATRの利用の仕方のオリエンテーション(写真①)に加え、年に4回計画している傷害予防講習会の内の第1回として、対象部活動毎に開催しました。講習会のテーマは「コンディショニング」(写真②)です。コンディショニング(パフォーマンス発揮のためのすべての準備)について、運動・栄養・休養の3要素の重要性、ウォーミングアップ・クーリングダウンの目的、セルフケア(アイシング・ストレッチング)など具体的な例を用いて高校生に理解しやすく実施しました。ATはスポーツ傷害発生後の対応に関する専門家とも言えますが、私たちが特に意識していることは、『傷害予防』という、傷害の前にできることをいかに指導していくかということです。

①オリエンテーション

②傷害予防講習会

③試合帯同

また、私が担当している男子サッカー部では高校総体の仙台地区予選が始まり、正式な依頼を受け、試合帯同をしてきました(写真③)。試合帯同時のAT業務は、試合前のテーピング、試合中の緊急対応、試合後のケア、熱中症対策が主な活動です。今回の地区大会(3試合)では、コンタクトプレーに伴う鼻出血や大腿部打撲への対応はあったものの、大事に至る傷害発生はなく、無事県大会出場を決めました。また暑熱環境であったため、水分や塩分補給、クールダウン(アイシング)などの熱中症対策により、相手チームでは熱中症症状が疑われる選手が数名発生する中、十分な対策を行った明成高の選手たちは発生を抑えることができました。県大会ではまだまだ暑さが予想されます。暑熱環境下によるコンディション低下という事態を防ぐ為に、引き続き様々な「予防」活動を継続し、「高校スポーツの安全を守る」を念頭に活動を広げていきたいと思います。

川平ATR施設は日本スポーツ協会(旧日本体育協会)公認アスレティックトレーナーを目指す本学AT学生の現場実習地としての目的も担っています。私はその有資格者ということもあり、ATを志す仙台大学学生の指導(試験対策)にも昨年関わり(写真④、⑤)先日その試験結果が発表されました。難関資格ということもありこれまでなかなか複数の現役合格者の輩出が達成できていなかったのですが、平成29年度日本体育協会アスレティックトレーナー認定試験において、仙台大学ではこれまで最高の「現役合格3名輩出」することができました。仙台大学にはAT関連教員が9名在籍し、ATルームが大学・高校に存在する国内でも数少ない施設が整っており、ATを志す学生にとっては非常に素晴らしい環境であるため、今回の結果は必然とも思っています。これからの時代を担うATを教育していくことも、私たち川平ATRとしても重要な使命であります。今年度はこの結果を超えれるよう大学生指導についても精進して参ります。

④船岡ATRにて理論試験対策

⑤川平ATRにて実技試験対策

次回は、高校Strength & Conditioning の目的と実際について紹介予定です。（担当：浅野勝成）

SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.146　/　2018 JUN.

商工会女性部定例研修会にて遠藤学長が講演を実施

遠藤学長と柴田町商工会大槻裕喜会長と商工会女性部役員の方々と記念写真

6月28日（木）10：30～商工会女性部仙南地区連絡協議会平成30年度定例研修会が本学で行われました。初めに商工会女性部仙南地区連絡協議会の相澤きよの会長より開会の挨拶があり、来賓として柴田町商工会大槻裕喜会長が挨拶。次いで柴田町商工会船山良子部長からの感謝の言葉の後、遠藤学長が「オリンピックのロマン～2020年を迎えるにあたって～」と題して講演しました。2020東京オリンピックの特徴、テロや暑さ対策などの課題について触れ、古代オリンピック、近代オリンピックと歴史を振り返りつつ、「1964年東京オリンピックでは根性が大切と言われ、気持ちだけが先行していたスポーツの時代から、Discover Tomorrowをテーマとする2020年東京オリンピック・パラリンピックでは科学的トレーニングや動作解析、情報分析と戦略、栄養と休養などの科学の枠を集めた競技の取り組みが必要となり、いまや科学と科学が戦う時代となりました。そこにロマンがあります。」と熱く語りました。

また遠藤学長の講演後に松浦新助手の指導の下、ストレッチや「グーパー運動」や「指先体操」といった頭と体を使った体操を行い、今回参加された約70名の参加者の皆さんからは常に笑いや拍手が起こり、大いに盛り上がりました。

講演する遠藤学長の様子

健康体操を行う松浦新助手

〈 目　次 〉

・商工会女性部定例研修会にて遠藤学長が講演を実施	1
・「東京おもちゃショー2018」に出展 ・村山蔵王町長と竹泉荘の方々が来訪されました。	2
・平成30年度みやぎ県民大学開放講座 ・楽天イーグルス広報マネージャーの講義を行いました。	3
・第2回仙台大学・学内アスレティック・トレーナー・プログラム認定証書授与式を開催 ・学術会「平成30年度新任教員発表会（第96回学術集会）・総会・新任教員を囲む懇親会」	4
・三宅義信氏文化功労者受章を祝う会 ・根室釧路同窓会・卓球講習会 ・東船岡小学校でレクリエーションダンスを指導	5
・中国瀋陽師範大学来訪体育教育短期研修プログラム ・女子バスケットボール部員たちへの感謝	6
・「留学生日本文化体験ツアー開催」 ・第1回AOFC(アジア・オセアニアフロアボールカップ)3位入賞	7
・第52回東北大学バレーボール男女リーグ戦男子バレーボール部2季連続の優勝 ・第26回北海道・東北高等学校体育学・コース連絡協議会総会研究大会について	8
・台湾からの留学生、呂蔡 瑜倫（ローサイ　ユーリン）さん ・今年も恒例の学科一日体験会が開催されます。	9
・「高校スポーツの安全を守る」	10

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学　広報室
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

おもちゃショーの様子①

おもちゃショーの様子②

「東京おもちゃショー2018」に出展

「東北こども博」の特別協力先である一般社団法人日本玩具協会が主催する「東京おもちゃショー2018」が、6月7日～10日（一般公開は9日と10日）の日程で東京都江東区有明の東京ビッグサイトにおいて開催されました。これは国内外のおもちゃを一同に集めた展示会で、一般公開日の来場者は2日間で141,139人という盛況ぶりでした。その中で子ども文化の発展に賛同する企業や団体を集めた「キッズライフゾーン」に、今回で6回目となる本学のブースを出展しました。

今年は、スラックラインとバランス平均台を展示し、本学ブースを訪れた家族づれにそれぞれ体験をしてもらいました。中にはスラックラインをテレビで見たことのある方やすでに経験した方もいらっしゃり、子どもから大人まで、本気になって取り組む方々でにぎわい、本学ブースの推定来場者は2日間で2,000人～2,500人に上りました。実にたくさんの方々に来場いただき、常にスラックライン体験を待つ行列が絶えることなく閉場を迎えました。また、出展社のほとんどは玩具メーカーや卸業者、遊興関係者で、学校の出展は本学のみで、「来場者の中にはなぜ大学が出展しているのか」との質問も多数ありましたが、日本玩具協会との協業によりこども博を開催していること、そのつながりから出展を続けていることを説明し、大学がそのような活動をしていることに驚きを感じている方もいらっしゃいました。このような幅広い本学の活動に対し、大山さく子センター長、高崎義輝学科長、スラックライン部学生スタッフ5名のご協力により多くの方々にPRができたものと確信をしております。

＜報告：学生支援室　近江康宏室長＞

来訪された村上蔵王町長・竹泉荘の方々と記念写真

村山蔵王町長と竹泉荘の方々が来訪されました。

6月6日（水）、ホストタウン事業を展開する蔵王町長とともに竹泉荘オーナーの李社長、村井総支配人が本学に来訪しました。村上蔵王町長はパラオと東京オリンピック事前合宿の招致を蔵王町で行うことと、本学は施設利用を通じての支援をそれぞれ約束しています。朴澤理事長・学事顧問との会食後、李社長を含む中国関係者7名、村上蔵王町長を含む蔵王町関係者6名が遠藤学長を表敬訪問し、馬准教授や留学生の金瑞年（現東北大大学院）とともに本学施設を視察しました。

＜報告：学生生活室　渡邊一郎室長＞

開講式での学長挨拶の様子

講義の様子①

講義の様子②

閉講・修了書授与の様子

平成30年度みやぎ県民大学開放講座

5月11日（金）～6月1日（金）の期間で毎週金曜日、全4回の講義を健康福祉学科の先生方が担当しました。今年度のテーマは「百歳まで歩く！転ばぬ先の筋肉運動のすすめ！」です。今回、初めてこのような開放講座を受講するという方も多い中、本学の施設を使用し、楽しい運動や講義と充実した時間を過ごされました。受講者の方からは「学生と一緒に運動をしたことが楽しかった」や「人生百年時代にふさわしい内容だった。百歳目指して頑張ります。」などの声が聞かれました。

全4回の講義は以下の内容で行われました。

●第1回目：「加齢に伴う筋肉の変化について」　笠原教授・・・5/11（金）

●第2回目：「楽しく身体を動かそう－1」～レクリエーションで筋肉の活性化～　小池教授・・・5/18（金）

●第3回目：「楽しく身体を動かそう－2」～正しい歩き方で筋肉の活性化～　高崎教授・・・5/25（金）

●第4回目：「身体を動かすことの大切さ」　橋本教授・・・6/1（金）

全4回の講義のうち3回以上出席した受講者には、最終日の閉講式にて青沼副学長より修了書が授与されました。

＜報告：事業戦略室　鈴木美生＞

授業の様子

楽天イーグルス広報マネージャーの講義を行いました。

スポーツ情報マスメディア学科の発展科目である「スポーツ広報論」（担当：池田敦司教授）において、6/18（月）は株式会社楽天野球団 広報部広報グループマネージャーの村上修二氏にお越しいただき、プロ野球の現場における広報業務の在り方や苦労をお話しいただきました。特に、監督・選手やマスコミの人々とのコミュニケーションをしっかりととることが最も大事であるとのコメントには聴講した学生も大きくうなづいていました。

聴講した学生からは、「普段会うことのできない特別な方に直接お話を聞くことができて、とてもうれしかったです。自分も将来はスポーツ広報を目指していきたいです。」といった感想もありました。

この取り組みは3/15に仙台大学と株式会社楽天野球団で締結したアカデミックパートナーシップの一環として行われており、今後も様々な形でプロスポーツの現場現実の学習プログラムが実施されます。

＜報告：池田敦司教授＞

記念写真の様子

第2回仙台大学・学内アスレティック・トレーナー・プログラム認定証書授与式を開催

6月12日（火）本学にて、第2回学内アスレティック・トレーナー・プログラム(IC-SUAT.P＝Internal Certification to Sendai Univ. AT Program)認定証書授与式を開催いたしました。
遠藤学長の挨拶では、本プログラムの難しさや、専門性確保の重要性、また資格取得後の道のりの険しさなどをお話しいただき、その上で大変有意義な活動であると激励のお言葉をいただきました。
AT部部長である朴澤泰治理事長・学事顧問は支えるスポーツの重要性について、自分たちのやっている事を周囲にアピールしていく重要性に触れられました。
2年次からAT部に入部し、初級・中級と同時進行で勉学に励んでいた体育学科3年三浦千穂（みうらかずほ）さんは、「授業と初級・中級の同時受験は、勉強するのが大変でしたが、無事にどちらも合格することができました。これを励みに、これからのAT活動や日本スポーツ協会AT試験に向けて更にがんばっていきます。」とコメントしています。
本プログラムは平成27年度よりアスレティックトレーナー部の学生を対象とし、学生らの知識・技術のレベルを担保する目的で実施されております。平成29年度はIC-SUAT.P初級9名、IC-SUAT.P中級5名、合計14名の学生が認定されました。今年度から上級講座の実施が予定されており、学生らのさらなるレベルアップが期待されます。
＜報告:鈴木のぞみ助手＞

紹介を行う原田健次教授

学術会「平成30年度新任教員発表会(第96回学術集会)・総会・新任教員を囲む懇親会」

6月15日(金)16：00～からＬＣ棟１階において「新任教員発表会(第96回学術集会)並びに総会」が開催されました。新任教員発表会は、高橋徹運営委員の司会により進行され、学術会会長である遠藤保雄 学長の挨拶後、早速発表会が行われました。今回の新任教員は、教授(江尻雅彦教員、大宮勇雄教員、原田健次教員)、准教授(日下三男教員)、講師(林直樹教員、佐々木和教員)、助教(小野寺和也教員、川戸湧也教員、久保佳子教員、溝上拓志教員)、助手(船岡アスレティックトレーニングルーム：鈴木のぞみ教員・内野洋材教員・遠藤皓樹教員、仙台大学トレーニングセンター：白坂牧人教員・小野雅洋教員、川平アスレティックトレーニングルーム：白坂広子教員・小野勇太教員・浅野勝成教員)合わせて18名となり、一人5分以内という限られた時間での発表ではありましたが、各教員の自己紹介を含め、研究歴・研究内容、業務内容等についてそれぞれ工夫がなされた発表が行われました。(※大宮勇雄教授及び川平アスレティックトレーニングルームは業務の都合上欠席。アスレティックトレーニングルーム及びトレーニングセンターからの発表は各代表者が発表しました。)
引き続き総会では平成29年度事業報告・収支決算報告(会計監査報告含む)並びに平成30年度事業計画（案）・収支予算（案）の審議があり、すべて承認されました。また、総会終了後には17：40～から管理研究棟2階大会議室において、青沼一民副学長の乾杯の発声のもと「新任教員を囲む懇親会」があり、朴澤泰治理事長・学事顧問、遠藤学長出席のもと、教員各位においては有意義な懇談が行われました。
＜報告：学術会運営委員会・事務局＞

左から2番目、三宅義信氏と記念写真

三宅義信氏文化功労者受章を祝う会

6月3日（日）12：00～東京都の明治記念館において三宅義信氏（村田町出身）文化功労者受章を祝う会が催され、来賓として麻生財務大臣、小池東京都知事、橋本聖子日本オリンピック委員会副会長、竹田日本オリンピック委員会会長、三宅義行(村田町出身)日本ウエイトリフティング協会会長など多数の方が参列され盛大に行われました。本学からは、遠藤保雄学長、ウエイトリフティング部監督として壹岐優新助手が参列しました。三宅義信氏、義行氏とも挨拶を交わし、激励のお言葉をいただきました。三宅義信氏は、挨拶の中で「文化功労章受章は、皆様が私を導いてくれたおかげで皆様がもらったものと一緒であります」と述べ、2020東京オリンピックでは、メダルを獲得させると宣言しました。

＜報告：壹岐優新助手＞

指導を行う馬准教授

根室・釧路支部同窓会の様子

根室釧路同窓会・卓球講習会

6月22～23日北海道中標津スポーツの町宣言30周年記念イベントとして卓球講習会および根室釧路同窓会が開催されました。卓球講習会では、馬佳濛准教授が講師を務め、地域の小・中学生および成人の卓球愛好者約90名に対して指導を行いました。実施内容は基本技術や試合の戦い方などで、指導者および参加者からの質問コーナーも設けられ、大盛況の中終えることができました。参加者一人ひとりが卓球に対する熱意があふれ、一生懸命吸収しようとする姿が印象に残りました。

同窓会には、朴澤理事長・学事顧問をはじめ大河原同窓会事務局長、金賢植講師、同窓生の9名が出席し開催されました。朴澤理事長・学事顧問が仙台大学の現状を伝え、同窓生の方々が昔の仙台大学の様子などについて懐かしく語り合い、終始熱気に包まれました。また、朴澤理事長・学事顧問は標津町長を表敬訪問し、町長は、現在仙台大学のOBが6名も標津町にいて、それぞれの職域で活躍され、仙台大学との結びつきが強いと語っていらっしゃいました。

卓球講習会および同窓会の開催にあたり、尽力して頂いた根室・釧路支部事務局長の林良彦氏（第 8期，卓球部）におん礼を申し上げます。

＜報告：馬佳濛准教授＞

集合写真

東船岡小学校でレクリエーションダンスを指導

～ 18名の学生スタッフが参加～

6月23日（土）東船岡小学校で全校児童328名を対象とした「レクリエーションダンスによるコミュニケーション能力の向上を図るイベント」を学校支援ボランティアとして、本学の学生18名が行いました。このイベントは、本大学の学生が全校の児童にダンスを指導することで、児童同士の信頼関係や、円滑なコミュニケーションのとり方を学ばせるという趣旨で実施致しました。

初めにアイスブレイクで「方向音痴」や「じゃんけん列車」などのレクリエーション後、縦割りで14班に分かれてダンスをしました。本学の学生たちも小学生の関わりを通して、大勢の子どもたちを動かすことの難しさや、子どもたちとの接する上で、表情や指示の仕方などを学んだようです。学生たちがそれぞれの進路や将来の夢を達成するために、子どもたちと関わる機会が学生たちのスキルアップに繋がるよう、今後も支援をしていきたいと思います。

＜報告者：学生支援室 大久保成実＞

開校式の様子

研修の様子

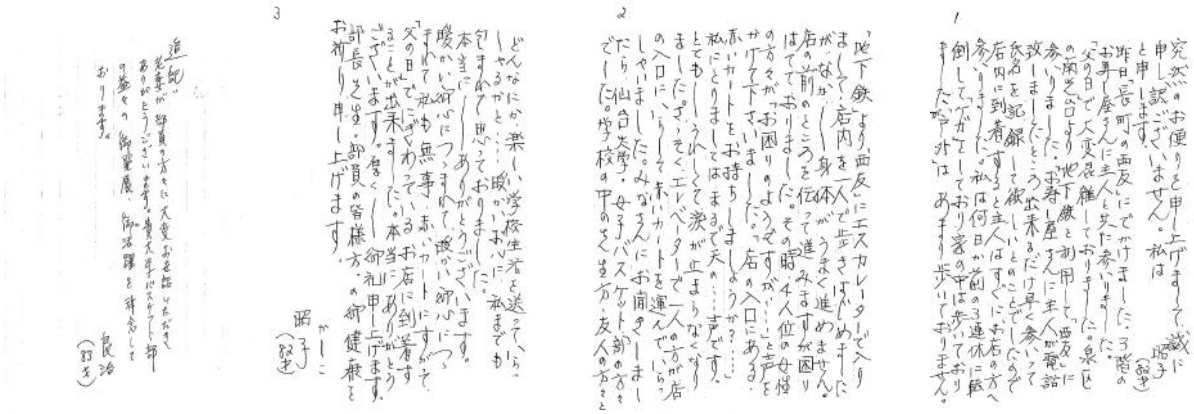
中国瀋陽師範大学来訪　体育教育短期研修プログラム

6月23日～7月2日の間、瀋陽師範大学から3名の教職員および9名の学生が来訪しました。このプログラムは仙台大学との協定10周年記念事業の一環として行われ、今回の参加学生全員が瀋陽師範大学体育科学学院の所属で、ほとんどが体育教師志望であることから、プログラムは幼稚園から小・中・高校での研修、大学でも実技の授業や大学院の授業見学をメインとなりました。文化体験は楽天野球観戦及びこけしの絵付け、また、中国語を勉強している学生たちとの交流を行いました。

参加学生から引率教職員まで、それぞれの施設を見学する際に真剣に説明を聞いたり、積極的に質問をしたりして、熱心に勉強する姿が見られました。また、開講式ではほとんど日本語を話せなかった学生が、10日間の交流で、閉講式の際に簡単な挨拶から感想までも言えるようになりました。閉講式で瀋陽師範大学体育科学学院の李春革書記が「今回は日本の教育制度や方法を肌で感じることができて大変有意義な研修になりました。プログラムに尽力頂いた仙台大学の教職員に感謝の意を表します。」参加学生からは、「日本では学力より実践重視の教育方法であり、中国と違うところです。戻ったら日本で学んだことを回りの人に伝えたいです。」と熱く語りました。

瀋陽師範大学とは協定10年目になり、教員間の共同研究、交換留学生等の交流を盛んに行ってきました。今後さらに両大学の交流が深まっていくことを確信しています。

＜報告：馬佳濛准教授＞



女子バスケットボール部員たちへの感謝

～仙台市在住の方から女子バスケットボール部員たちへ、お褒めの言葉がありました～

6月18日、青葉区在住のご高齢の女性から本学の女子バスケットボール部員に大変親切にしていただいたとお礼のお電話及び、後日、同じ方とご主人さまより心のこもったお礼状を頂戴しましたのでご紹介致します。

その方が6月17日、仙台市内のスーパーマーケットで具合が悪くなった際、たまたまそこに居合わせた本学の女子バスケットボール部員たちが異変に気が付き「大丈夫ですか？」と声をかけ「これにつかまって歩くと良いですよ」とすぐにカートを持ってきてくれたそうです。おかげさまで夫婦で無事に帰宅することができました。見ず知らずのわたしのようなおばあちゃんに親切にしてくれた素晴らしい学生さんたちにへぜひ、ありがとうと伝えていただきたくて、電話をしてしまったのです。と電話口で涙ながらに語られました。

女子バスケットボール部の久能部長よりすぐ、部員全員へ伝えると心あたりのある学生たちは、その方が大事にいたらず帰宅され元気になられたこと。自分たちのささやかな行為がそのように感謝され喜こばれたことに対し、感激していたそうです。

「留学生日本文化体験ツアー開催」

今年度も、本大学客員教授の伊達宗弘先生にご案内いただき、登米市の歴史を通して、日本文化のよさを実感してもらうという趣旨のもと、6月16日に日本文化体験ツアーin登米市が開催されました。今回は、語学支援ボランティアの学生4名にも同行し、教職員、留学生を含む23名が参加しました。

登米市に到着後、国指定重要文化財である尋常小学校へ向かうと、留学生は手動のミシンなど、当時を再現した教室や昔の道具等に大変興味を示しているようでした。昼食後、登米懐古館へ向かい、武具や絵画を真剣な表情で見ており、武家屋敷・春蘭亭では、抹茶と和菓子をおいしくいただきました。又、和を感じることができる室内や庭園を探索して楽しんでいました。一通り資料館を見て回った後に、伊達先生のご自宅を拝見し、登米伊達家に代々伝わる、歴史ある品々をたくさん見せていただきました。

尋常小学校での集合写真

武家屋敷・春蘭亭での一枚

～学生・留学生の感想～

・留学生と文化の違いを発見し合えました。日本の教育について深く理解できるため、もっと知ってもらいたいです。（語学支援ボランティア学生　福澤大和）

・今回の日本文化体験はとても面白く、仙台地区の歴史を学ぶだけでなく、登米市に行って有意義で楽しい一日を過ごせました。昼の料理や茶道など食べ物もおいしく、伊達先生の家の養蜂場や庭の風景も印象的でした。（台湾　留学生　許　潔）

・日本文化体験はとても楽しかったです。特に日本伝統の武家屋敷で抹茶を飲んだのが印象的です。機会があればまた行きたいです。（韓国　留学生　申　原旭）

今回は、あいにくの曇り空で肌寒く天候に恵まれませんでしたが、古き良き歴史に触れ、昔ながらの街並みを感じ、心身共に良い1日を過ごすことができました。ボランティア学生と留学生も普段とは違った環境での交流のおかげでより仲が深まったと思います。留学生と日本人学生の交流もこのような機会を通し増えれば嬉しいです。

＜学生支援室：語学支援担当　冨澤光生＞

第1回AOFC(アジア・オセアニアフロアボールカップ)3位入賞

試合前日本代表の様子

6月17日～6月24日にシンガポールで開催された、第1回AOFC(アジア・オセアニアフロアボールカップ)に日本代表として参加してきました。今大会には、本学卒業生の泉幸(平成24年度卒業)と早坂優子(平成29年度卒業)も参加しました。

フロアボールとは、スティックを使ってプラスチックのボールを相手のゴールに入れる得点競技です。アイスホッケーを体育館（フロア）で行うイメージで、コート上は１チーム６人で対戦します。１９７０年代にスウェーデンで発祥し、フィンランド、スイス、チェコなどではとても盛んです。アジアでフロアボールを広めていくためにも、今回の大会に参加したことはとても意味のあることでした。また、高校生や大学生など今後のフロアボール競技を担う若手の参加で、大きな経験を積むことができたと思っています。また、6月21日～6月30日に開催されている世界学生選手権大会には本学の学生も参加していて、今後も仙台大学から選手を輩出できるように今回の経験を活かしていきたいと思います。

＜報告：松浦里紗新助手＞

第52回東北大学バレーボール男女リーグ戦男子バレーボール部2季連続の優勝

4月21日～5月20日にかけて第52回東北バレーボール男女リーグ戦が行われました。バレーボールのリーグ戦は年2回、春季および秋季リーグ戦として行われており、男子バレーボール部は昨年の秋季リーグ優勝に続き、今年度の春季リーグも10戦全勝で優勝することができました。新体制となり初めての公式戦となる大会でしたが4年生を中心に、5週間という長丁場を全員の力で戦い切ることができました。

本学男子バレーボール部はS&C(トレーニングコーチ)、AT(トレーナー)、栄養サポート、情報サポート(アナリスト)など学内の専門的な知識や技術をもった多くの方々のサポートを得ながら強化をしており、このようなチームは全国を見渡してもそうあることではありません。この環境に十分感謝をし、今後もこのようなサポート・強化体制を強みにしながら関東1部のチームや西日本などの強豪チームにも勝てるよう練習に励んでいきたいと思います。

今回のリーグ戦にあたり多方面でご協力、ご声援頂きました大学関係者・部活動関係者はじめ、すべての方々に感謝申し上げます。今後とも応援宜しくお願いします。

試合結果
第1週　予選リーグ
4月21日(土)
対　富士大学　3 - 0　(25－15　25－18　25－21)
4月22日(日)
対　山形大学　3 - 0　(25－20　25－22　25－21)
第2週
4月28日(土)
対　東北福祉大学　3 - 0　(38－36　29－27　25－18)
4月29日(日)
対　福島大学　3 - 1　(22－25　25－18　25－16　25－16)
第3週
5月5日(土)
対　八戸工業大学　3 - 0　(25－10　25－18　25－23)
5月6日(日)
対　青森大学　3 - 0　(25－17　25－22　25－21)
第4週
5月12日(土)
対　東北学院大学　3 - 0　(25－18　25－19　25－21)

順位決定リーグ(上位リーグ)
5月13日(日)
対　東北学院大学　3 - 0　(25－20　25－21　25－12)
第5週
5月19日(土)
対　福島大学　3 - 0　(25－20　25－21　25－16)
5月20日(日)
対　山形大学　3 - 0　(25－15　27－25　25－20)

10勝0敗(2季連続　優勝)

＜報告：中村祐太郎新助手＞

遠藤学長の挨拶の様子

第26回北海道・東北高等学校体育学・コース連絡協議会総会研究大会について

6月29日（金）柴田高校主管で行われている第26回北海道・東北高等学校体育学科・コース連絡協議会総会研究大会の2日目となる研修が行われました。

始めにLC棟にて遠藤学長、入試創職部長の挨拶と入試創職室課長より大学の概要説明が行われ、その後、施設案内として保育室、トレーニングセンター、アスレティックトレーニングルーム、高圧高酸素室、人間環境計測制御室、常圧低・高酸素室を順に見学しました。また前日の研修会では、南條充寿教授による「2016リオ五輪を振り返って一激闘の７日間一」の講演が行われTEAMJAPANを率いて感じたことやリオ五輪を写真で振り返り、最後にトップスポーツの活動と課題を話しました。短い時間ではありましたが、体育大学である仙台大学の魅力が参加された約40名の先生方に十分に伝わる機会となりました。

台湾からの留学生、呂蔡 瑜倫（ローサイ　ユーリン）さん
＜男子バスケットボール部＞

6月2日～3日に行われました第39回南奥羽地区大学春季バスケットボール大会で優勝しました男子バスケットボール部。その中で4月から入学したばかりで優秀賞に選出された、台湾省出身の呂蔡 瑜倫さん（体育学科1年生）をインタビューしました。

Q1.本学に来て3か月が経ちましたが大学生活は慣れましたか？

A. 多少は慣れてはきましたが、日本語はまだまだ難しいところもあり、また寮生活もしているので、台湾が恋しい時も多々あります。

Q2.授業はどうですか？

A. 授業は先生の言葉を理解するまでがすごく大変です。

Q3.部活動はどうですか？

A. バスケットボール部のみんなとバスケットをするのは毎日がすごく楽しいです。

勉強に取り組むローサイユーリンさんの様子

Q4.日本での好きなご飯は？

A. 仙台で食べたつけ麺が一番美味しかったです。

Q5.大学4年間の目標は？

A. 4年間全部で全国大会に出場することです。

Q6.将来の夢

A. 日本でプロバスケットボールプレイヤーになりたいです。
また日本の会社に就職したいと考えています。

男子バスケットボール部集合写真

第39回南奥羽地区大学春季バスケットボール大会
男子バスケットボール部　優勝
1）結果：男子優勝（男子、2年ぶり4回目［2000年度～］）
2）個人賞
・最優秀選手賞　鈴木 亮也（体育学科4年）
・優秀選手賞　半澤 一貴（体育学科2年）
ローサイ・ユーリン（体育学科1年）
・新人賞　郡司 諒（体育学科1年）

今年も恒例の学科一日体験会が開催されます。

毎年恒例となっている学科一日体験会が今年も開催されます。各学科の授業を体験することで仙台大学を知る良い機会です。

● 7月7日（土）

体育学科，健康福祉学科，スポーツ情報マスメディア学科，子ども運動教育学科

● 7月14日（土）

運動栄養学科，現代武道学科

※事前申し込みが必要です。

・どんな勉強をしているの？
・どんな先生がいるの？
・どんな仕事をしているの？

そんな疑問を解決できます。

申し込み・お問い合わせ：入試創職室0224-55-1017

仙台大学HP：https://www.sendaidaigaku.jp/

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.3

今回は、明成高校ストレングス＆コンディショニング（以下S&C）指導活動について紹介します。

（担当：浅野勝成）

【S&Cとは】

S&Cとは米国で誕生し発展しているトレーニング科学の専門分野です。S&C指導を行っているトレーニング指導者を「S&Cコーチ」と呼びます。

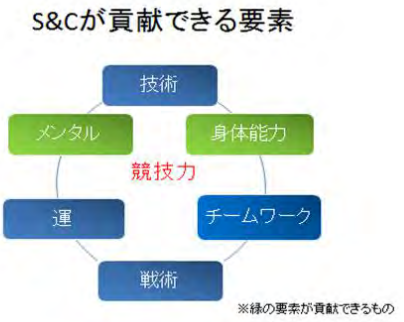
【S&Cの目的】

第一に傷害リスクの減少が挙げられます。スポーツ中の傷害を完全に予防することは難しく、日々の適切なトレーニングで強い身体を作り、傷害の発生率や重症度の減少を目指します。高校生が部活動に取り組める期間はおおよそ2年から3年弱です。長いようで案外短い高校競技において、怪我による長期離脱は大きな痛手となります。チームの主力であれば、怪我による離脱はチーム全体にとてつもなく大きな負の影響を与えます。

第二に身体能力の向上です。トレーニングで向上した身体能力は競技技術の改善に繋がることがあります。ジャンプ力の向上に伴ってバレーボール競技でのスパイクの精度が増すなど、身体能力と技術には密接な関係性があります。しかしながら、身体能力はあくまで競技パフォーマンスの土台であり、「身体能力向上＝競技力向上」とはなりません。培った身体能力を基に競技練習で技術の研鑽に努めることが競技力向上に繋がります。「競技練習だけで必要な身体能力を培えるのでは？」という意見もありますが、競技練習のみで必要とされる身体能力要素に効果的なアプローチをかけることは意外にも難しいものです。例えば、ジャンプやスプリントなどの高い瞬発力が要求されるスポーツが多いですが、競技練習のみで瞬発力の養成を試みても大きな効果は得にくいです。なぜなら瞬発力の土台は筋力であり、競技練習は筋力向上を目的とした特異的なアプローチにはならないからです。競技練習はあくまで技術やチームワーク等の向上を目指すもので、筋力向上の効果的な手段はウエイトトレーニングです。従って、各競技特性の把握と必要とされる身体能力要素の向上を目掛けたトレーニングの指導が要求されるということになります。当然ながら、向上させた身体能力を競技技術に活かせないと意味がないので、競技コーチとの連携を図ってパフォーマンス向上に貢献できるよう努めています。

【トレーニング内容】

筋力、瞬発力、持久力、柔軟性、協調性などの体力要素の向上を目指して、ウエイトトレーニング、ジャンプトレーニング（プライオメトリクス）、ストレッチ・筋膜リリースを軸として指導を施します。



【対象者について】

高い身体能力や怪我に強い身体は全てのスポーツの基礎となります。現在は6つの部活動、約100名強の学生を日々指導しています。指導部活動の競技は①女子バスケットボール、②女子サッカー、③男子バレーボール、④陸上短距離・投擲、⑤陸上長距離、⑥スケルトンです。

【高校S&Cの意義】

上述のように、高校生がスポーツに取り組める時間は2年～3年弱と限られます。その短い期間で“結果”を残し、高校生活を有意義にする者、大学やプロチームから誘いを受けて競技者として熟達していく者と様々です。高校生アスリートに対して「適切なトレーニングによって得られる傷害リスクの減少と身体能力の向上」がS&Cコーチが与えられるものであり、高校S&Cの意義と考えています。

次回は、明成フェスティバルのAT活動について（担当：白坂広子）

SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.147　/　2018 JUL.

「SAKURACAMP2018」ベラルーシ新体操ナショナルチームの公開演技会が行われました。

ベラルーシ団体フープの演技

7月28日（土）13：30～仙台大学第5体育館で「SAKURACAMP2018」ベラルーシ新体操ナショナルチームと仙台大学女子新体操競技部、男子新体操競技部の公演演技会が行われました。

会場には約600名の観衆が世界トップレベルのパフォーマンスを見に来られ、観客を美しさと妖艶さ、人間美の極致の世界に引き込みました。

ベラルーシ新体操ナショナルチームは今年で2回目の事前合宿となり、7月20日～7月31日の滞在中は白石市のホワイトキューブや仙台大学で練習会が行われました。イリーナ・レパルスカヤコーチは「五輪で力を出すには本番と同じ環境でないと困るので私たちにとってありがたい暑さです。」と今回の目的を語りました。

また、昨年の世界選手権の種目別クラブで銀メダルのカチェリーナ・ガルキナ選手は「これから2年という短い期間で練習していかなければいけない。まずはオリンピックに出る権利を手に入れたい。」と意気込みを語ってくれました。

世界トップレベルの「美」に触れながら2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けてベラルーシ新体操ナショナルチームを応援しましょう。

カチェリーナ・ガルキナ選手の演技

仙台大学新体操競技部の演技

〈 目　次 〉

・「SAKURACAMP2018」ベラルーシ新体操ナショナルチームの公開演技会が行われました。	1
・スポーツ庁「大学スポーツ振興の推進事業」に選定されました ・池田敦司教授が日本版NCAA設立準備員会作業部会主査に就任しました ・同窓会宮城仙南支部総会が開催されました	2
・平成30年度海浜実習報告 ・第3回仙台支部総会及び懇親会を開催	3
・3年生対象の就職指導個別面談の実施	4
・2018年シーズンを迎えるに当たり	5
・楽天生命パーク宮城にてスポーツ施設見学会が開催されました ・スポーツ情報マスメディア学科の卒業論文研究計画発表会を開催	6
・上海体育学院卓球競技サマースクールへの参加 ・スペシャルオリンピックス日本　ユニファイドフットボールカップ・シカゴ大会に黒羽秀選手（健康福祉学科2年）が日本選手団として出場しました	7
・第19回「校長職就任祝賀会」 第9回「宮城県、仙台市新規採用教員激励会」を開催 ・今年で3回目「仙台大塾」開講しました。	8
・ボブスレー・スケルトン 競技選手発掘コンバインテスト　（身体能力テスト）を開催 ・キャンパスライフサポートグループによる学生たちとの交流活動	9
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.4	10

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツ庁「大学スポーツ振興の推進事業」に選定されました

スポーツ庁が平成30年3月27日から5月18日まで提案を募集していた、大学スポーツ・アドミニストレーターの配置などの大学におけるスポーツ活動を支援する「大学スポーツ振興の推進事業」に関して、平成30年度として15大学の選定が発表され、東北の大学では唯一本学が選定をされました。

本事業は「日本版NCAA」の設立に向けてモデルとなって大学スポーツの振興を行っていくものであります。本学としては、専門とする体育スポーツ健康科学の教育研究とその一環としてのスポーツ実技教育の高度のノウハウを駆使し、学長直属組織としてスポーツ局を設置し、本学の部活動を統括するとともに「する、みる、ささえる」の視点から本学のスポーツ活性化を図っていきます。

「スポーツ局」は、以下の役割を担っていきます。
①学生アスリートキャリアアップ戦略プログラムの推進
②学生アスリート支援プログラムの拡充と実践
③部活動におけるマネジメント業務の標準化とマネジメントパッケージ作成
④地域貢献を視野に入れた本学ポーツ施設の利用・運営管理
⑤スポーツによる大学ブランドの認知度向上と将来的な大学スポーツのビジネス化
また、本事業の一環で、次の先進的モデルの企画の立案と推進を行っていきます。
①大学スポーツの振興のためのホーム＆アウェイ方式での試験的試合の実施
②スポーツボランティアの育成を通じた学生のキャリア形成支援と地域貢献の展開

池田敦司教授が日本版NCAA設立準備員会作業部会主査に就任しました

講義の様子

スポーツ庁は7月24日に「第１回日本版NCAA設立準備委員会」を開催し、新たな準備組織を立ちあげて来春の日本版NCAA設立に向けて準備を進めることを発表しました。

新たな準備組織は、「学業充実分野」「安全安心・医科学分野」「事業・マーケティング分野」の3分野で15の　テーマを設定、15の作業部会を設置するもので、その各々の作業部会で課題の検討を行っていく体制となります。また、15の作業部会のうち「スポンサープログラム及び賛助制度の策定」部会の主査を池田敦司教授が務めることとなりました。

早速、同日開催の「第1回日本版NCAA設立準備委員会作業部会」において作業部会が取り組む基本方針に関してのプレゼンテーションを行いました。

同窓会宮城仙南支部総会が開催されました

総会で祝辞を述べる朴澤理事長・学事顧問

7月7日（土）に、仙台大学学生食堂「なちゅら」を会場に、仙台大学同窓会宮城仙南部総会並びに懇親会が開催されました。当日は仙南地区に在住・勤務する23名の同窓生に加え、ご多用のところ、朴澤泰治理事長・学事顧問、鈴木省三同窓会会長にもご臨席いただきました。総会では、昨年度の事業報告および決算報告、今年度の事業計画と予算案が原案通り可決されました。今年度、仙南支部が行う目玉事業としては、仙南地区に実家がある現役学生（4年生）を案内した「励ます会」の実施があります。この事業は就職活動においてはもちろん、社会に出てからも仙南地区において各方面で活躍する同窓生との繋がりを卒業前に構築しておくこと等を目的としています。今後、大学からの協力も得ながら、11月の開催に向けて準備を進めていくこととなりました。

また、懇親会では、出席者全員が自己紹介と近況報告をおこなうなど、学生時代の思い出話などに花が咲き、終始笑いが絶えない和やかな会となりました。

＜報告：仙台大学同窓会宮城仙南支部事務局＞

集合写真

実習中の様子

平成30年度海浜実習報告

7月13日（金）から16日（月・海の日）3泊4日の日程で，山形県鶴岡市・由良海水浴場にて海浜実習を実施しました。幸い天候にも恵まれて、晴れ渡る青空の下、学生たちは各々の泳力に応じて水泳技能向上に努めました。実習初日、いざ海を目の前にした実習生の表情は、緊張と不安とやる気が複雑に交錯している様子でしたが、班付きの先生方の細やかな声掛けと指導により、日を追うごとに水泳技能が向上する実習生の顔からは不安の色は徐々に払拭され、「今日は昨日より遠くへ泳げた」という小さな成功体験の積み重ねによる自信が芽生えていくのが、はっきりとわかりました。前日の白山神社へのお参りの甲斐あって大遠泳当日は温かく風もなく、穏やかな海面は絶好の遠泳日和という状況の中、31名の実習生は力強く海に泳ぎだしました。5月時点のプールの練習では、壁を蹴って10m泳ぐのがやっとの学生も、仲間に励まされながらひと掻きひと掻き着実に前に進んで沖に出ていく様子が大変印象的でした。海面コンディションにも恵まれた為、昨年は叶わなかった白山島の沖に出ることに成功。これまでの練習では感じたことのない沖のうねりに、上級班の実習生も少々驚いたようでした。時間にして1時間52分（昨年1時間58分）、由良海水浴場を目一杯使った大遠泳は、今年も一人の脱落者も出すことなく無事に完泳を果たすことができました。

その他の活動では、昨年度に引き続き着衣泳を実施しました。遭遇すれば50%以上の確率で人命にかかわる危機が及ぶ水難事故については，遭遇した時の対処を学ぶより、遭遇しないようにすることの方がむしろ大切ですが、万一有事の際のサバイバルスキルとして知らないよりは知っていた方が良いとの思いから、昨年度から導入したプログラムになります。端から見ているより高く感じる白山島の港の灯台に立ってみると、中には足がすくむ実習生もいましたが、皆覚悟を決めて着衣で落下（ジャンプ）し、岸まで泳いで戻る体験型プログラムを通して水辺安全について考えてもらいました。着衣状態で落水するとどういう感覚が体を襲うのか？泳いで移動することはどれほど困難なのか？もし、泳ぐことが必要となった場合、どのような泳法が適当なのか？体力消耗を抑制し浮いて救助を待つにはどうすれば良いか？など，実習生はそれぞれの状況に応じて水とうまく付き合う方法について学びを深めてくれたことと思います。

実習生が生身の体で自然の驚異に挑む3泊4日の実習では、人命の確保、安全を最優先に実施しなければならず、そのためには適所に人員を配置が必要になります。本実習運営とその実現にご尽力いただきました全ての皆様へ、この場をお借りして深く御礼申し上げます。引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

＜報告　渡邉泰典講師＞

第３回仙台支部総会及び懇親会を開催

参加された方々の記念写真

７月７日（土）18：00からパレス平安を会場に、大学からは遠藤保雄学長、同窓会本部からは大河原則夫事務局長、仙台支部会員４０名が出席し開催されました。総会において岩槻支部長から５月の社員総会の報告と支部の現状について、遠藤学長からは大学の運営についてお話がありました。懇親会では大学草創期の方々の自己紹介と当時の大学の様子などがユーモアにあふれる話で大いに盛り上がり和気あいあいのうちに終了しました。

仙台支部は一昨年設立時の仙台市に昨年仙台市周辺の仙台教育事務所管内も加わり広域の支部となりました。しかし、今総会のように会員、若年層の出席率は低くネットワーク作りに苦労をしていますが、これは仙台だけでなく全支部、全国の大学同窓会の課題でもあります。今後、仙台大学同窓会としては、会員相互の親睦と大学支援という活動目的のために、これらの課題解決と支部の拡充などに全力で取り組んで行かなければならないと思います。

＜報告：同窓会事務局＞

就職担当の教職員が親身になって面談を行う様子

3年生対象の就職指導個別面談の実施

7月17日（火）14：30～F棟303教室にて健康福祉学科、現代武道学科の3年生を対象に、今後の進路を見据えた個別面談を実施しました。
この取り組みは6月26日 体育学科（A,B,Cクラス）、7月10日 体育学科（D,E,Fクラス）7月17日 健康福祉学科、現代武道学科、7月24日 運動栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科の4回に分けて実施し、学生に対して就職担当の教職員が面談を行い、現状の把握やインターンシップの参加促進、卒業後のキャリアを考える際の選択肢を増やすことなどを目的としています。

本学では、正課の授業とは別に火曜日の5時限目などを利用し、年間を通じ課外講座を実施し、就職支援を行っています。夏休み明けからは、より実践的な内容とし、エントリーシートの書き方や面接対策の講座を繰り返し行っていく予定です。

●今回面談を受けた健康福祉学科、現代武道学科の学生の感想

鈴木和馬さん（健康福祉学科3年）

「就職活動がもうすぐそこまで迫ってきており、改めて危機感を感じました。」

飯塚亜美さん（現代武道学科3年）

「書類の書き方や進路について先生方が考えてくださり、とても励みになりました。」

貝田憲哉さん（健康福祉学科3年）

「担当された先生が本当に親身になって進路のことを考えてくれました。今後に生かしていきたいです。」

金智佑さん（現代武道学科3年）

「先生の話を聞いて挑戦することは大切で、興味のある所へどんどんチャレンジしていきたいです。」

仙台89ERS 2018年シーズンを迎えるに当たり

仙台89ERSの日本人選手の体力・運動能力測定と食事サポートを7月29日（日）に本学で実施し、8人の選手及び4人のスタッフの方々が来訪しました。

バスケットボールに重要とされる体力・運動能力（スピード、アジリティー、パワーなど）をチェックし、今回の結果を踏まえ年間を通して戦えるフィジカルの強化に本学としても全面的にサポートしていきたいと考えております。

当日は体力・運動能力測定終了後に、本学の運動栄養学科によるバランスのとれたアスリートのための食事を提供することで、シーズン中の良好なコンディショニングを維持するための栄養などについて理解を深めていただきました。仙台大学卒業後、管理栄養士の資格を取得して、2017年9月から89ERSを食事面をサポートしてきた新助手の菊地遥が今回は、試合期に向けて身体づくりや、疲労回復を目的としたメニューを考案いたしました。

〇提供したメニューは以下です。

発芽玄米ごはん

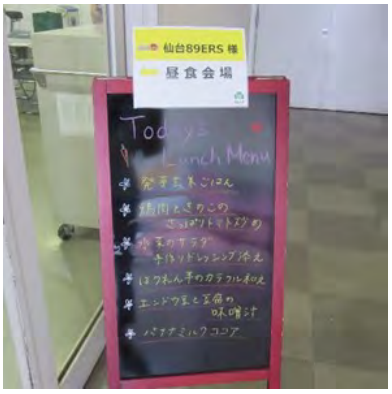
鶏肉ときのこのさっぱりトマト炒め

水菜のサラダ(手作りドレッシング添え)

エンドウ豆と豆腐の味噌汁

ほうれん草のカラフル和え

バナナココアミルク



〇選手たちからは

「栄養価も高くおいしかった」

「測定に加えて食事もパックで用意していただき、今後ともパフォーマンス向上に役立てていきたい」

とのコメントがあり、また、スタッフの方々からも、好評を得る事が出来ました。

これまであまりこのような体力測定などを経験していない選手が多く、実際に測定して、「自分の現在の体力が分かった」、「最近では自身の限界を自分で決めてしまっていると感じた」、「以外ときつい測定だった」などの声がありました。選手は競技力向上のために普段から強くなるための栄養素を意識することが不可欠であると感じたようです。

仙台大学は仙台89ERS様とアカデミックパートナーシップを締結しており、今後もトレーニング、コンディショニング、栄養などの面から、本学の特色を活かしたサポートを継続していきたいと思います。

＜報告：内丸仁教授＞

楽天生命パークで記念写真

球場内を見学する様子

楽天生命パーク宮城にてスポーツ施設見学会が開催されました

7/21（土）に楽天生命パーク宮城において「スポーツ施設管理概論」及び「スポーツターフ管理概論」の授業の補講として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識習得を促進するものであり、今春に仙台大学と楽天野球団との間で締結したアカデミックパートナーシップの一環として、楽天生命パーク宮城の見学会は初の開催となりました。

60名の学生が参加し、株式会社楽天野球団ボールパーク本部長より、楽天野球団の戦略、スタジアムのコンセプト、安全管理体制等に関する講義を受け、その後球場や管理施設を見学し、実際に使用している天然芝生やグラウンド整備の機械や、グラウンドの芝生の生育状態を確認しました。

参加した学生からは「今回初めて開催された見学会に参加できてとても感謝しています。特に普段見ることが出来ない芝生の管理やシステムを学ぶことができたことは大変貴重な体験でした。」と感謝の声が多く上がっていました。この見学会は今秋に第二回を開催する予定となっています。

＜報告：小島文雄体育施設コンサルタント・非常勤講師＞

ポスター発表会の様子①

ポスター発表会の様子②

スポーツ情報マスメディア学科の卒業論文研究計画発表会を開催

7月24日（火）仙台大学LC棟1階にて、スポーツ情報マスメディア学科4年生の卒業論文研究計画発表会を開催しました。開催の主な目的は、①これまでの進捗状況を整理すること②スポーツ情報戦略とスポーツマスメディアの領域を超えて議論し研究を深めることです。発表会の形式はポスター発表で、時間内フリーディスカッションにて行い、この日は、本学科3年生も参加しました。

現在3年生は卒業論文における所属研究室希望調査期間で、参加した学生の一人は「研究テーマの設定や進め方についてとても参考になった」と感想を述べました。この時期に発表会を開催することは、スポーツ情報マスメディア学科にとって初めての試みでしたが、3・4年生ともに有意義な時間になったと感じました。

4年生は、残り約6ヶ月で卒業論文を完成させることになります。大学4年間の集大成として、これまで得た知識・スキル・思考力等を活かし、それぞれが設定したテーマを引き続き探究してほしいです。

＜報告：溝上拓志助教＞

中国上海体育学院での記念写真

上海体育学院卓球競技サマースクールへの参加

7月5日～8日1日、仙台大学の国際交流締結校である中国上海体育学院において、卓球競技のサマースクールが行われ、同学院の国際交流合作処および卓球学院からの招待を受け、本学より卓球部所属の運動栄養学科2年生の小林寛美さんを派遣しました。

本プログラムは、中国国技の卓球および伝統スポーツの武術を通して、国際交流を発展させることを目的に、上海市当局の支援の下で上海体育学院が主催しており、主に上海体育学院と提携している海外の大学に対して、一大学当たり1名の学生への招待により実施されています。プログラム内容について、卓球競技に関しては、他の国からの参加者および現地学生との卓球練習をメインとし、このほか、中国語、中国書道、伝統切絵、雑技の鑑賞などの多彩な文化体験により構成されています。本プログラム実施での使用言語は中国語および英語であり、派遣学生にとっては言葉の心配がありました。しかし、本人の積極性と真面目さで、10数ヶ国からの参加者と意欲的に中国語および英語でコミュニケーションをとり、プログラムの参加や日常生活に支障が出ないほど交流内容をこなしていました。また、各国留学生とともに寮生活を行い、普段の授業から日常生活まで、深い友情を築きました。中盤からの現地引率となりましたが、本人がすっかり現地の生活に慣れていた様子を窺うことができました。卓球学院の監督からは、「彼女は、卓球練習も授業参加もとても真面目な姿勢で取り組んでいるので上達が早い。」と高評価を頂きました。本人は「卓球強国の本場で卓球を学ぶことができたことと、プログラムの実施を通して、他の国からの参加者とも仲良くなり、大変良い経験ができました。」と、いきいきと語りました。短い期間ではありましたが、中国卓球の精神と技能に触れる機会となり、卓球に対する理解をより深めることにより、今後の成長につながるものと思います。

本プログラムは、参加学生にとって学んだことを活かし将来に役立てられる知識・経験等を得る良い機会となりました。今後、上海体育学院・卓球学院の素晴らしい環境および資源を活かして、卓球部間の交流や卓球授業の単位互換が可能となる長期留学制度の導入が、仙台大学の学生教育にとって有意義なものとなることを確信しましたので、是非、実現したいと考えております。

＜報告：馬佳濛准教授＞

スペシャルオリンピックス日本　ユニファイドフットボールカップ・シカゴ大会に黒羽秀選手（健康福祉学科2年）が日本選手団として出場しました

7月17日～21日に行われたスペシャルオリンピックス日本　ユニファイドフットボール・シカゴ大会の日本選手団として本学の黒羽秀選手（健康福祉学科2年）が出場しました。ユニファイドとはひとつになるという意味で、障がいのある方もない方も垣根を越えて1つのチームになり、競技をすることで相互に理解を深めることを目的としています。結果は2敗1分けで残念ながらグループステージ突破はなりませんでしたが、初めての海外における大きな大会で得たものは大きく、今後の活躍に期待しましょう。

○結果

第1戦　対イタリア（0-0）

第2戦　対ジャマイカ（1-4）

第3戦　対ナイジェリア（0-3）

大会中の黒羽秀選手

今年度校長職に就任された先生方

宮城県、仙台市新規採用教員の方々

第19回「校長職就任祝賀会」 第8回「宮城県、仙台市新規採用教員激励会」を開催

7月28日（土）第19回「校長職就任祝賀会」第8回「宮城県・仙台市新規採用教員激励会」が、ホテル白萩（仙台市）で開催され、朴澤理事長・学事顧問、遠藤保雄学長始め同窓生や本学関係者60名程が校長就任と教員新規採用をお祝いしました。

今年度は、仙台大学の第13回卒業の渡辺勝典先生（八木山中学校）、第16回卒業の鎌田孝悦先生（鶴ヶ丘小学校）、第16回卒業の福田功先生（船岡中学校）と仙台大学大学院1期生の土生善弘先生（気仙沼支援学校）、仙台大学大学院5期生の鈴木秀利先生（登米高校）の5人がめでたく校長職にご就任なさいました。また、宮城県、仙台市の教員として22名が新規採用され、今回12名の先生方が出席しました。

朴澤理事長・学事顧問の挨拶、遠藤保雄学長の祝辞があり、教職支援センター長の金井講師の乾杯の音頭の後、恩師や出席者の皆さんとの懇親が和やかに行われました。

校長職に就任されました4名（鈴木校長は出張で欠席）の校長先生方からは大学時代からこれまでのエピソードや校長として新たな気持ちで学校経営に取り組んでいくとの決意が述べられ、また新規採用された教員の方々からは仙台大学出身者としての自覚、誇りを持って何事にも積極的に励みたいとの抱負が語られました。

最後の中締めの挨拶では、ユーモアあふれる針生教授の「伊達の一本締め」、そして校歌斉唱、村石松ヶ浜校長の万歳斉唱で２時間半の盛会を終了しました。 今回の司会は40回卒業の藤田雅士金ヶ瀬中学校教諭でしたが、落ち着いて滞りない進行ぶりが好評を博しました。

＜報告：同窓会事務局長 大河原 則夫＞

遠藤保雄学長の挨拶

課題をサポートする学生の様子

教員を目指す未来先生本学学生たち

今年で3回目「仙台大塾」開講しました。

7月30日（月） LC棟フロアを会場に未来先生「仙台大塾」の開講式が行われ、遠藤保雄学長、船迫邦則柴田町教育長、柴田町内の6小学校の校長先生、小学5.6年生169名の児童が参加しました。

開講式では、遠藤保雄学長から「仙台大塾で勉強に励んで充実した夏休みにしてください。」との激励の言葉がありました。また、参加する児童を代表して船岡小学校6年生の瀬尾駿也君から力強い言葉で学習に励みたいと決意を語ってくれました。

この事業は柴田町内の小中学校に通う児童・生徒を対象にして行われている「柴田町トップアスリート事業」の一環として開催されたもので、児童の個性や能力を十分発揮できて、自らの夢実現に叶えられるよう、学習習慣の定着を図るねらいで支援活動を目的としています。

今年は8回の開催が予定されており、児童たちは仙台大学のバスで通いながら、教員を目指す本学学生30名が学習サポート役として夏休みの課題などに取り組むことになっています。

＜報告：青沼一民副学長＞

45M走の様子

立ち幅跳びの様子

結果を発表する進藤亮祐新助手

ボブスレー・スケルトン競技
選手発掘コンバインテスト（身体能力テスト）を開催

7月1日（日）仙台大学陸上競技場にてボブスレー・スケルトン競技の新規選手発掘のためのコンバインテスト（身体能力テスト）を開催しました。冬季競技のボブスレー・スケルトン競技において特に重要視されているスプリント能力に長けている選手を発掘することを目的とし、日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟が主催し、仙台大学を会場に実施しました。

当日は、天気にも恵まれ快晴の中での測定会となり、仙台大学への進学を希望する３名の選手を含む８名が参加しました。お忙しい中、遠藤保雄学長にもご足労賜り、仙台大学がボブスレー・スケルトン競技を行うに当たり、とても良い環境であるという事をお話ししていただきました。

２種目の測定を行い、総合的に４名の選手が日本連盟が主催する日本代表選手選考合宿や若手選手育成合宿へ参加する権利を得ることができました。また、参加した高校生の女子生徒は「冬の競技に興味があった。仙台大へ進学しスケルトン競技に挑戦してみたい」と感想を述べました。

コンバインテスト中はケガや熱中症などもなく、無事に終了することができました。今後も継続的にテストの開催し、仙台大学を拠点に2022年北京五輪・2026年五輪に向けて長期計画で選手の発掘・育成ができるよう活動して参ります。

＜報告：進藤亮祐新助手＞

活動終了後にキャンパスライフサポート登録学生と
参加学生たちとの集合写真

キャンパスライフサポートグループによる学生たちとの交流活動

７月26日（木）仙台大学の学生支援センター前にてキャンパスライフサポートグループによる学生たちとの交流活動が行われました。キャンパスライフサポートグループとは本学の学生支援センターにある組織の一つであり、「大学生活に不安を持つ学生へのサポートを行うことを主目的に、友達を増やしたい、他学年や他学科を超えた人間関係を築きたい、より充実した学校生活を過ごしたい」などの思いを抱いた学生が集まり、人間関係の構築と日々の生活の充実を目的に活動しています。活動はキャンパスライフサポートグループに登録している学生が中心となり、学生支援センターの教職員スタッフが支援する形で企画・運営を行っています。

今回はみんなで体を動かし汗を流す「スポーツの部」、夏の定番メニューを作り、楽しい時間を過ごすことを目的とした「食の部」を同時並行で行いました。「スポーツの部」では終始笑顔が絶えず、真剣な表情でバレーボールとフットサルに取組む学生の姿が、「食の部」ではかき氷と焼きそば作りを行い、活動の情報を聞きつけた学生たちが足を運び、嬉しそうにかき氷を頬張ったり、はじめて出会う学生たち同士でも交流する姿が見られました。

活動終了後には、キャンパスライフサポートグループで一緒に活動したいという新規登録学生が数名来てくれました。本グループの活動は、誰でも自由に参加することを念頭に置いているため、活動を通してサポートグループの「楽しい雰囲気」を感じることができます。今後も多くの学生が参加できる場を設けていくので、是非多くの学生にキャンパスライフサポートグループの魅力に触れてほしいと思います。

＜報告：学生支援室　鈴木雄太＞

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.4

『熱中症と水分補給』講習会　　明成フェスティバル

①『熱中症と水分補給』講習会開催

生徒が確認できるよう掲示版の設置

講習会の様子

仙台大学川平ATRは毎年7月の夏休みに入る前に熱中症と水分補給について講習会を開催しています。体はどのように体温調節しているのか、WBGT（暑さ指数）について、熱中症について、運動中の熱中症対策、運動中の適切な水分補給の仕方について講習しました。講習はそれぞれの部活動環境に合わせ、わかりやすくすぐに実践できるように具体的に講習するように工夫しています。夏休みを目前に控え、各部活動の練習に変化がある時期です。夕方の練習時間から日中へと練習時間が変わり、2部練習などもあり、遠征や合宿など練習場所なども変わってきます。いろいろな変化に順応していくためにどのように体を準備してくのか、講習を通してみんなで話し合うことができ、生徒達は気温や湿度への理解はもちろん、WBGT値で熱中症リスクがわかるようになりました。「WBGTが29だって！今日は危険だね!!」など、生徒同士の注意喚起が聞こえるほどになっています。

②明成フェスティバル

6月30日、7月1日に第3回明成フェスティバルが明成高校と仙台大学川平キャンパスで開催されました。明成フェスティバルは明成高校の運動部が主導して行うスポーツの祭典ですが、今年は調理科の参加、介護科の『ふくしわいわい祭り』が合同開催されました。開会式では健康スポーツコース代表男子サッカー部キャプテンが挨拶し、介護科の生徒が手話で歌を披露しました。

第3回明成フェスティバルの様子

調理科の生徒たちは来場者に昼食を調理しました。約600名分の昼食を用意することはとても大変ですが、生徒達が手際良く調理していたことに驚きました。介護科で地域住民の方々をお招きすると、昔ながらのゲームや遊び、工作など訪れた高齢者の方々は童心に戻るかのように子供たちと一緒になって遊んでいました。模擬店では近隣の福祉チームと一緒に焼き鳥やポップコーン、駄菓子、手作りパンなどを販売していました。また、介護科は車椅子ツインバスケの東北DREAMs とコラボレーションし、参加中学生の約100名は車椅子バスケを体験するなど明成高校の生徒と地域の方々が交流を深める良い機会となりました。

＜報告：白坂広子助手＞

輪投げをする様子

来場者の昼食を調理する様子

地域の方々とおもちゃを工作する様子

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.148　/　2018 AUG.

2018オープンキャンパス　過去最高862名の高校生が来場！

オープンキャンパスの様子

8月4日（土）10:00～本学でオープンキャンパスを開催し、酷暑の中、高校生（862人）と過去最高の来場者を記録し、保護者（475人）を含めると1337人の方々が来場されました。

オープニングセレモニーでは仙台大学マスコットキャラクターの（エスユーウォ―）と登場した遠藤学長が挨拶を行い、在学生から6学科（体育学科，健康福祉学科，運動栄養学科，スポーツ情報マスメディア学科，現代武道学科，子ども運動教育学科）の学科とイベントの紹介があり、参加した高校生は在学生がどんな専門分野を学んでいるのか熱心に耳を傾けていました。

オープニングセレモニー終了後はアスレティックトレーナ-体験やAED体験、北欧保育の紹介など、各学科ごとの体験コーナーや紹介ブースに足を運び、自分の興味がある専門分野を見て、聞いて体験するなど、大盛況となりました。

各学科以外にも「仙台大学の小論文対策講座」、施設や設備が詳しくわかる「キャンパスツアー」、卒業生の活躍が分かる、「オリンピック・プロスポーツに関する展示会」などのブースを設置され、本学の「今」と「過去」について触れました。

遠くから足を運んで下さった高校生や保護者の方々にとって仙台大学の新しい試みや魅力に触れる充実した1日になったようです。

ニュース番組制作体験

スラックライン体験

〈 目　次 〉

・2018オープンキャンパス　過去最高862名の高校生が来場！	1
・「就活キックオフセミナー第２回戦」を開催しました ・H30年度SD研修会を実施しました	2
・ペットボトルで簡単パン作りを実施しました ・第４回心池会杯争奪剣道大会　報告	3
・本学と柴田町議会が初の懇談会を開催 ・本学を会場に平成30年度 ウィンタースポーツコンソーシアムスケルトンアカデミーを実施しました	4
・女子バスケットボール部　野外活動 ・宮城県教育委員会主催「熱中症事故防止研修会」が開催されました	5
・女子サッカー部 2018東北Liga Student 優勝の報告 ・現代武道学科　集中講義「韓国伝統武道」の実施報告	6
・楽天イーグルスにてインターン研修が行われました ・赤十字救急法救急員養成講習を開催しました	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.5	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

冒頭の遠藤保雄学長の挨拶

講演中の様子

「就活キックオフセミナー第２回戦」を開催しました

8月7日（火）に３年生を対象とした「就活キックオフセミナー第２回戦」を開催いたしました。夏休み期間中ではありましたが、就職活動にむけた意欲をさらに向上させようと実施したものです。

セミナーでは、冒頭に遠藤保雄学長が登壇し、インターンシップ活動の重要性や昨今の就職活動を取り巻く環境などについて訓示され、出席者を激励いたしました。その後、就職専門情報会社の講師の方から就職サイトの活用方法ならびに筆記試験対策について講演頂き、参加した学生からは「今、自分が何をしなければならないのかを再認識することができた」「これまでは自己分析などを中心に行ってきたが、今後はＷｅｂテスト等の具体的な対策にも力を入れて行きたい」などの感想が寄せられました。既に３年生の就職活動は実質的に始まっており、入試創職室では今後もセミナー等を通じて、より一層学生の就職支援に努めてまいります。

＜報告：入試創職室＞

研修中の様子

H30年度SD研修会を実施しました

8月8日（水）9日（木）秋保「蘭亭」にて「H30年度学校法人朴沢学園SD研修会」がおこなわれました。

昨年４月に「大学設置基準等の一部を改正する省令」が施行され、職員が大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上するための研修、いわゆる「ＳＤ」スタッフ・ディベロップメントが義務化となり、大学教育において、学生をどのように成長させるか、保護者の期待にどう応えるのか、どのような人材を社会に送り出すのか等々の多様なニーズに対応することが強く求められており、この求めに対応するために教職員の知識やスキル向上を目的とした研修会で本学園はこれまでも毎年実施してきました。

初日は公益財団法人日本高等教育評価機構　事務局長兼評価研究部長　伊藤敏弘講師による「日本高等教育評価機構による第三期 機関別 認証評価」について、同研修員（仙台大学職員）石森靖明氏によるワークショップ＜独自基準と特記事項を考える＞について行われ、2日目は南條充寿現代武道学科長による「リオ五輪を戦って～2020東京五輪への挑戦について」、本学卒業生で株式会社グラン・スポールあすと長町店 橋本祐馬チーフによる「健康講話～身体改善について」行われ、この2日間、非常に有意義な研修会となり、自分を磨き、視野を広げ、また新たな気持ちで仕事に取り組むことに繋がりました。

また今回の研修会にはベガルタ仙台レディース所属で普段はATルーム川平キャンパス勤務している、仙台大学職員の奥川千沙選手も参加され、この研修会で大学職員と交流を深めました。今後もベガルタ仙台レディースでの活躍を応援しましょう。

奥川千沙選手

パン作り中の様子

ペットボトルで簡単パン作りを実施しました

8月9日（木）に町内の児童クラブに通う小学生約100名を対象に、猛暑の中、熱中症予防に配慮し、平良ゼミの学生と女子ソフトボール部員に協力してもらい、ペットボトルを使って簡単にできるパン作り教室を開催しました。

このパン作りの特徴はペットボトルで作るところです。初めにボウルに強力粉やドライイーストなどパン生地の材料すべてを混ぜ合わせていきます。その時は「砂糖」や「塩」「強力粉」などを味見させ、判別させながらパン生地を混ぜ合わせていきました。すべての材料がまざったらペットボトルに入れ、シェイクして混ぜ合わせます。その後30分間、首からペットボトルをぶら下げて、ゼミと女子ソフトボール部の学生と一緒に体を動かすゲームを行いました。この上がった体温を利用してパンを発酵させます。子どもたちにとって、大学生のお兄さんお姉さんとゲームを行うのはとても楽しかったようです。

発酵した生地が入ったペットボトルはパンパンに膨らんでいます。この膨らんだ生地を牛乳パックで自作した型に移します。ペットボトルを逆さまにしてキャップを外すと「ポンっ」という音ともに生地が飛び出してきますので、子どもたちは大騒ぎで型に生地を流し込んでいきます。型に流し終えるとオーブンで焼き上げます。

焼きあがった自分のパンは自宅へ持って帰っていただき、試食用のパンを皆で食べ、「美味しい」や「楽しかった」「また、作りたい」などの声をいただきました。

最後に、パン作りを通して子どもたちに食育をする機会をいただき、西住・船岡放課後児童クラブの皆様、施設利用にご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。

＜報告:運動栄養学科　平良拓也講師＞

大会中の様子

第４回心池会杯争奪剣道大会　報告

8月11日（土）・12日（日）の両日仙台大学剣道部心池会（OB会）主催の第4回心池会杯争奪剣道大会と第5回心池会剣道練成大会が仙台大学第五体育館で開催されました。当日の参加校は高校48チーム・中学校29チーム出場（420名）と、OB・学生・保護者を含めると約650名となり、広い会場は熱気と気迫に包まれました。中学生・高校生にとっては、新チームでの試合となるため，公式戦初出場の選手や新しいチーム作りを考える監督たちにとっては，絶好の大会となりました。また、中学・高校が同一会場のため互いの試合を観戦することもでき、運営する側も移動や伝達等がスムーズに行うことができました。

大会終了時には、OBによる稽古会や懇親会も開催され、久しぶりの再会と道場での稽古に学生当時を懐かしく思い出されていました。さらに、仙台大学の学生にとっても大会の運営や，審判技術の実践練習の場として貴重な二日間になったと思います。最後に、立派な大会会場をお貸しいただいた大学、準備等にご尽力いただきました大学関係者や学生の皆様に感謝申し上げ、ご報告とさせていただきます。

＜報告：仙台大学剣道部心池会事務局＞

本学と柴田町議会が初の懇談会を開催

～地方大学振興法の活用や本学の地域での経済効果など活発に意見交換～

会議の様子

本学は柴田町議会議員の皆様方との懇談会を8月2日（木）に開催し、「知の拠点・仙台大学」と「地域」との連携・協調の在り方などに関して活発な意見交換を行いました。

今回初めての開催となった懇談会では、まず朴澤理事長・学事顧問から、「地方大学振興法が制定され地域として国からの助成金を確保し、本学の知的資源を活用して地域活性化の事業を行う道が開かれた。今後、その活用に向け連携していきたい」との提言がなされました。また、遠藤学長からは、仙台大塾（仙台大学学生による柴田町の小学生への夏休みの学習塾）、子どもを対象にした柔道塾や新体操教室の開催など柴田町での数多くの社会貢献事業の説明がなされ、更に、本学の柴田町への立地による経済効果を生み、柴田町の財政にプラスとなる地方交付税の収入をもたらしている旨が説明されました。

出席した議員の皆さまからは、この懇談を通じて、近くて遠い存在であった本学について理解を得ることができ極めて有意義であったなどの意見が出されました。特に、本学の卒業生でもある安部俊三議員からは、「スポーツ分野での本学の貢献についての期待が表明され、今後も懇談を続けていきたい」と付言されました。

集合写真

プッシュの様子

本学を会場に平成30年度ウィンタースポーツコンソーシアム スケルトンアカデミーを実施しました

8月27日（月）8：30～LC棟1階にて、平成30年度ウィンタースポーツコンソーシアムスケルトンアカデミーの開校式が行われました。

本事業は北海道庁が主催のもと、8月26日（日）～9月1日（土）まで地域のタレントアスリートの発掘・育成事業において発掘された、高校1年生から3年生の5名が本学の施設や講義棟を利用し、未来のオリンピック選手になるためのプッシュトレーニングやスプリントトレーニング、映像分析、スポーツ栄養、スポーツ心理学などの専門知識を学びます。

開校式でははじめに日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟役員の鈴木省三教授が、「宮城と北海道のタレント発掘で選出された皆さんには是非、仙台大学の素晴らしい環境を活用し、またオリンピックメダリストのドナ・フレイトンヘッドコーチから多くのことを学んでください」と挨拶され、遠藤学長が「ボブスレー・リュージュ・スケルトン競技は国際的競技となっている中、イギリスからドナ・フレイトンヘッドコーチも来ているので、是非この機会に英語も学んでほしい。」更には「プッシュトラックが国内にあるのは本学と長野スパイラルだけになります。総合的に学べる仙台大学を最大限に活用し、ケガをしないよう注意しながら挑戦してください」と話されました。

また選手からの抱負では、北海道出身の1年生臼井貴将選手は「今回の合宿で今後の活動に生かせるようなものをたくさん吸収していきたいと思います」や明成高校2年生の木下凜選手は「今回の合宿でお互いに切磋琢磨しいろんなことを学びたいと思います。」などと力強い抱負を語ってくれました。

開校式終了後には早速、第2グラウンドプッシュトラック場にてプッシュトレーニングを行いました。

集合写真

野外活動中の様子①②

女子バスケットボール部　野外活動

女子バスケットボール部員28名は、平成30年8月13日から15日まで南蔵王野営場にて、2泊3日の野外活動を行いました。目的は、野外活動を通じ個々の発信力を高め、チーム力の強化を図ることです。体育館での練習も勿論必要ですが、いつもと違う環境のなかチームで活動することで、仲間の新たな一面を発見できたり、自分を見つめ直すきっかけになればと思い、一昨年から野外活動を取り入れました。野外教育専門の岡田講師に企画運営を依頼し、岡田ゼミ生の大学院生・4年生に指導スタッフとして参加してもらいました。
今年の登山は、かなりハードな内容でした。初日にキャンプ場を出発し、山の中でブルーシートを使って2泊しました。7人1班になって登山を行い、ビバーク（山中泊）は更に半分に分かれ3-4人で宿泊。2泊目は、希望者はソロ（1人）で宿泊でした（ソロで宿泊を希望した者が4人!!）。
登山は、とても急な上り坂や何かに捕まらないと降りられない道など、本当に大変でした。キャンプ実習名物のジャンボリーコースと屏風の壁も登りました。夜は、上級生がこれまで培った火おこしの技術や、調理の仕方を班員で教えあいました。全ての班に同じ食材を配り、メニューは各班で考えました。色々な料理が出来上がっていて面白かったです。また、どの班も美味く食べられたようです。3日間とも晴天で、暑さにも苦しみました。2泊分の食料や飲料水、寝袋や着替えを詰めたリュックはかなり重く、出発前に心が折れそうになっていた選手もいましたが、なんとか宮城県最高峰の屏風岳を含む3つの山頂を越えゴールすることができました。
感想には、「初日は、あまり後ろを気にかけて登山していなかったが、3日目には、皆が周りの人にも配慮しながら歩くことができた」「たくさん弱音を吐いてしまったことが一番の反省。改めて、仲間の力の大きさを感じた」など、色々な気づきがあったようです。
バスケットボール部は、これから全国大会予選が始まります。日々の練習の成果に加え、野外活動の成果をも発揮できるように、チーム一丸となり戦いたいと思います。
＜報告：女子バスケットボール部監督　菅野恵子助教＞

「熱中症の予防方法・熱中症の対処と対応」（鈴木のぞみ助手）

「栄養学の側面から見た熱中症予防」（真野芳彦准教授）

宮城県教育委員会主催「熱中症事故防止研修会」が開催されました

8月20日（月）に宮城県内高等学校および支援学校の保健体育科の先生方を対象として、宮城県教育委員会主催「熱中症事故防止研修会」が本学で開催され、約110名の方々が熱心に学ばれました。この研修会は、高校生が安全に活動できるように保健体育科主任や各運動部の顧問が熱中症に関する正しい知識と予防方法を身に付けることを目的にしております。「熱中症の予防方法・熱中症の対処と対応」（鈴木のぞみ助手）、「栄養学の側面から見た熱中症予防」（真野芳彦准教授）と本学教員が2つの講義を行い、参加された方からは「専門的なことを具体的に説明していただきとても参考になりました。」との感想が寄せられました。

集合写真

船木里奈選手（3年）がMVPと得点王（14得点）の個人2冠を獲得

女子サッカー部　2018東北Liga Student 優勝の報告

8月8日（水）山形県酒田市北港公園多目的グランドにて行われた2018東北Liga Studentの決勝戦において聖和学園高校を1対1（PK3対2）で破り、優勝・3連覇を達成することができました。また、併せて本学女子サッカー部3年の船木 里奈がMVPと得点王（14得点）の個人2冠を獲得することができ、大変嬉しく思っています。

本大会は、東北の各県トップレベルである高校と大学12チームが参加しました。大会形式は、4月上旬～7月末までの3か月間を使って2グループに分かれた総当たりのリーグ戦を実施し、その後、各グループの上位2チームが8月7日（火）、8（水）に決勝トーナメント（山形県酒田市）を戦うレギュレーションでした。本学は、予選リーグを全勝のグループ1位で突破、8/7（火）の準決勝では常盤木学園高校に2対1で勝利、翌8日（水）の決勝戦において聖和学園高校に1対1（PK3対2）で勝利し、優勝・3連覇を達成することができました。

準決勝、決勝戦では2日間とも大変な暑さの中で本学の選手達は思うように動けず、また、相手チームの素晴らしいプレーに自分達の理想とするサッカーを出せず、苦しい試合展開ではありましたが、大学生として意地とプライドで勝利を手繰り寄せることできました。大会を通じてベンチにいる監督の私には激励よりも叱咤されることも多かったが、選手達が共に助け合い心身ともに逞しく戦ってくれたことに深く敬意を表します。

表彰式では、全チームを前にして主将（4年）の越後希波が「切磋琢磨できる素晴らしい相手がいるから自分達が強くなれたのでここにいる皆さんに感謝したい」とスピーチし、MVPの船木里奈も「自分一人の力ではなく、支えてくれる仲間のおかげで活躍できたので、仲間に感謝したい」とスピーチしてくれたことは、大会を通じて選手としてだけでなく、一人の人間として成長してくれたと実感しており、このような選手育成及びチーム強化の場を与えてくれた対戦相手や大会事務局にも深く感謝します。

そして、本大会で得られた経験や成果・課題を秋から始まる東北地域大学女子リーグ、皇后杯、インカレに生かしていきたいと思います。

＜報告：女子サッカー部監督　黒澤尚講師＞

講義の様子

集合写真

現代武道学科　集中講義「韓国伝統武道」の実施報告

現代武道学科の集中講義「韓国伝統武道（テコンドー）」が8月4日から7日まで第三体育館剣道場で行われました。講師は今年度で3回目となる金址嫺先生（韓国：光州大学）をお迎えして学生24名が受講しました。講義内容はテコンドーの歴史、基本動作、プンセ（形）、用具を使用しての技の練習などであり、最後に基本動作とプンセ（形）の実技試験が行われ無事に終了いたしました。初日は、オープンキャンパスの学科イベントとして授業を公開し約100名の来場者がありました。

＜報告：現代武道学科＞

楽天イーグルスにてインターン研修が行われました

夏休みの期間中に集中授業として楽天イーグルスにてキャリアプランニングⅡプロスポーツコースのうち、３コースにてインターン研修が行われました。

この研修は、3/15付で楽天野球団と仙台大学が締結した「アカデミック・パートナーシップ」に基づくもので、今年から行われることになったインターン研修です。

●試合興行運営コース　平成30年8月20日（月）～22日（水）

・初日は楽天野球団の事業戦略や様々な取組に関する講義を受け、球場の施設見学や詳細の説明を受け、2-3日目は試合興行運営の現場にて、興行運営準備、入場口での顧客対応やエコステーションでのボランティア活動など試合興行運営に係るさまざまな業務を体験しました。

●イベント運営コース　平成30年8月20日（月）～22日（水）

・初日は試合興行運営コースとともに講義と施設見学を実施、2-3日目はステージイベントの補助、観覧車やメリーゴランドでの顧客対応、お子様向けイベントの運営などさまざまなイベント現場での運営を体験しました。

●コーチングコース　平成30年8月22日（水）～24日（金）

・コーチングコースでは、初日球団戦略の関する講義や球場見学の後、一軍練習見学、試合見学を行いました。2-3日目は、東北楽天リトルシニアや楽天イーグルスアカデミー・ベースボールスクールの現場見学を行い、指導方法を学びました。

各コースに参加した学生は「球団職員の仕事の概要を知ることが出来てよかった。入社してまもない先輩の話を聞けて大変参考になった」「普段見ることが出来ない球場施設の内部をみることができて貴重な経験でした」といった感想を述べていました。

＜報告：池田敦司教授＞

胸骨圧迫

搬送法

気道確保

赤十字救急法救急員養成講習を開催しました

夏休み中の3日間、仙台大学に赤十字指導員2名をお招きし、赤十字救急法救急員養成講習を開催しました。受講者はアスレティックトレーナー部、アメリカンフットボール部、陸上競技部、トレーナーコース学生、健康管理センター職員らで、基礎講習は20名、養成講習は13名が受講しました。主な実技にはAEDの使い方、心肺蘇生法、応急処置、搬送方法などが含まれ、受講者らは真剣な面持ちで取り組んでいました。

現代武道学科3年磯崎彩喜子（いそざきさきこ）さんは、講習を受け次のように話してくれました。「私はアメリカンフットボール部のマネージャーをしています。ケガが多いスポーツなので、選手に安心してプレーをしてもらえるよう、この講習会に参加し正しい知識を身に付けようと思いました。私たちマネージャーも、ケガが起きた際に適切な対処が出来れば、もっと選手の力になれると思います」

スポーツ現場に緊急事態は付き物です。あなたは選手の安全を守ることができますか？

＜報告：鈴木のぞみ助手＞

集合写真

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.5

今回は、夏休み期間中の川平ATRの熱中症予防活動と、本学AT学生教育について紹介致します。
（担当：小野勇太助手）

＜夏休み期間の部活動＞

8月の川平ATRでは、対象としている明成高校が夏休みに入り、より運動量の増した練習が各スポーツ現場にて実施されています。今年は一段と猛暑で熱中症予防活動として、我々高校ATの活動が一層、重要な時期となりました。夏休み前に、各部活動毎に、熱中症予防講習会を実施していたこともあり、指導者や選手たちは熱中症の予防知識を活かし、各自様々に実践し、部活動中の重度な熱中症を予防しています。高校ATの活動としては、日々練習会場の気温、湿度、WBGT(暑さ指数)を測定し、掲示板に測定結果を表示、現場指導者と各選手達へ情報提供します。また、水分と塩分補給、こまめな休息を取るよう声がけをしています。運動後には、ATR前に準備してあるアイスバス(氷水を入れた浴槽)にて、運動後の持続した体温上昇を抑え、疲労軽減を促し次の練習へのコンディショニング(準備)として実践させています。普段からの声がけを通して、指導者や選手達の予防意識の高まりを感じています。

①気温・湿度・WBGTを測定

②現場指導者へ情報提供する様子

③アイスバスをする様子

＜学生教育　～Bush Clover Camp(明成高校男子バスケットボール部)への学生ATサポート～　＞

8月8日～15日まで、全国から複数の強豪校や国体チームが明仙バスケラボにて、Bush Clover Campが開催されました。それに伴い、仙台大学の学生ATがトレーナーブースを設置し、テーピングやアイシング、そして試合中の応急処置など、様々な活動を学生主体にて学んでいました。川平ATからも高校ATとして、高校生の特徴や現場の厳しさ、やりがい、今後の職域としての可能性などを伝え、現場での教育にも力を入れています。こういった現場経験を通して将来の「高校スポーツの安全を守る」人材が本学から世に送り出すことができるよう、引き続き学生指導についても力を入れていきます。

④試合を見守る学生AT達

⑤応急処置を行う学生AT

⑥学生ATの指導にあたる様子

次回は、夏休み中のStrength & Conditioningについて紹介予定です。（担当：浅野勝成助手）

SPORTS FOR ALL ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.149 / 2018 SEP.

ハワイ大学アスレティックトレーナー研修 アドバンスコース（通算２７回目）を実施

～学生たちによる初のハワイTV出演・東日本大震災への支援に感謝を込めて

Olilo COMMUNITY MEDIAで収録を終えディレクターのkeoni Alvarez氏、
フェイご夫妻とともにスタジオで撮影

9月3日～9月11日の日程で、ハワイ大学（以下UH）アスレティックトレーナー研修（以下AT）アドバンスコースが実施され、朴澤泰治理事長・学事顧問、高橋陽介講師、白坂広子助手、佐藤美保広報室長、松浦里沙新助手が引率しました。2003年12月から始まった同研修は、ビギナーコースを合わせると27回目となり、参加した３名の男子学生たちは今回の目玉であるUH医学部での献体解剖やATルームでの実習、スパインボーディングと装具・防具の取り外し方法、脳震盪の対処法の講義他、フットボールや女子バレーボール観戦を通してアスレティックトレーナーの働きぶりを見学するなど、多肢に渡るプログラムを熱心に学びました。

研修中には本学を卒業した村上泰司さん（運動栄養学科在学中に同学科の現役学生として初の（現在の呼称）「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー検定」に合格、卒業後、NATA-ATC取得のため現在UH大学院に在学中）が帯同し、あらゆる場面で親身なアドバイスを惜しまず、学生たちのお手本として多いにご協力いただきました。今回AT研修初の大きな試みは、80歳を超えながらハワイにおける健康体操指導の第一人者であるFaye Murata氏の「Faye’s元気体操」というテレビ番組へ松浦新助手と学生3名が出演し、高齢者むけの体操を披露したことです。Faye Murata氏は、UH教育学部学部長であるNathan Murata氏のご母堂であり、過去には本学を訪れ誰もが気軽にできる体操を披露して下さるなど、家族ぐるみでの交流を重ねてきました。また、ご自身の著書「アロハ！満州、広島、ハワイをふるさとに持つ私」では、本学が東日本大震災により犠牲となった３名の学生と、これまで大学在学中に不慮の事故などにより亡くなった学生を悼むために建立した慰霊碑に触れ、いつか自分も仙台大学を再び訪れ、

〈 目 次 〉

・ハワイ大学アスレティックトレーナー研修 アドバンスコース（通算２７回目）を実施～学生たちによる初のハワイTV出演・東日本大震災への支援に感謝を込めて～	1・2
・2年ぶり5回目となる「学生選書ツアー」を開催しました ・楽天生命パーク宮城でのボランティア体験	3
・仙台大学第三者評価委員会委員が大学施設を視察及び学生代表者と面談を行いました ・仙台大学柔道塾：全国大会の壁	4
・日本一に輝く！ 第45回全日本大学選手権大会 ・東日本学生個人選手権・東日本新人選手権大会 個人優勝 ・全日本大学対抗テニス王座決定試合東北地区大会 ・天皇杯東北ブロックラウンド優勝	5
・柔道部：激闘の3位入賞～2018全日本学生柔道体重別選手権大会～ ・吉井准教授 日本コーチング学会 学会賞受賞 ・溝口絵里加講師：第38回三島賞を受賞	6
・宮城県教育委員会主催「平成30年度小学校体育科・中学校・高等学校体育科研修会」が開催されました ・船岡中学校の生徒2名が職場体験	7
・中国瀋陽師範大学海外武道実習および協定10周年記念式典 ・仙台市小学校体育大会 第64回陸上記録会補助	8
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.6	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通 0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

黙とうをささげたいと綴っています。Faye Murata氏より、子息であるNathan Murata氏が永年仙台大学にお世話になっていることと、昨年、本学が開学50周年を迎えたお祝いとして是非本学をPRする場を提供したいというお申し出があり、事前に松浦新助手が指導を重ね、松浦新助手と3名の学生たちのテレビ出演が実現しました。25分という長いプログラムを２本収録した際、4名全員は7年前、東日本大震災の時にハワイから寄せられたあたたかい支援に感謝を込め、少しでも現地の高齢者の方々が健やかな毎日を過ごすことができるよう願いながら、ハワイでも馴染みの「夕焼け小焼け」といった音楽にあわせ、楽しく簡単に実施できる体操を紹介しました。

アスレティック部門トップのMatlin氏

研修に参加したリーダーの前田鉄（体育学科3年生）は、「献体解剖やスパインボードなどとても貴重な学習で、もっと英語がわかったら得られる知識も多かったと後悔もあったため、今からしっかり英語を勉強していきたいと思いました。」石川慧一（体育学科3年生）は、「ハワイAT研修は2度目の参加でより専門的な知識を身に付けることができ、献体解剖や健康体操のテレビ出演など貴重な体験ばかり。全てが大変有意義な短期留学でした。」齋藤翔太（体育学科3年生）は「日本で経験できない献体解剖は、トレーナーとして活動していく中で必ず役に立つ解剖学の知識を深めることに繋がりました。この学びを忘れず、高い向上心でトレーナーを目指します。」と研修の感想・今後の固い決意を述べました。

10月5日（金）、Faye Murata氏からハワイのTV局であるOlelo COMMUNITY MEDIAで、10月4日（木）8:00Am～8:25Amに無事最初のプログラムの第一回目が放送され、日本の若者たちの爽やかなパフォーマンスが大好評だったと連絡がありました。同プログラムはこれから毎週木曜日の同番組で放映され、2回目の収録は11月の毎週木曜日に放送されるそうです。

Faye Murata氏は「学生たちが紹介してくれた左右の指を別々に動かし、脳を刺激する日本の体操は、脳トレーニングとして自分でもやり始めました。仙台大学の学生が、次の機会に番組に出演してくれることを今から楽しみにしています」とおっしゃっています。

また今回の重要事項として、仙台大学が本年度スポーツ庁の「大学スポーツ振興の推進事業」の対象に東北で初めて選ばれたことを受け、日本版NCAA（仮称）についてより深く学ぶため、参考となる本場NCAA(全米大学スポーツ協会)の実情をお聞きするという趣旨で、朴澤泰治理事長・学事顧問は滞在中、UHのアスレティック部門トップであるDavid A.K. Matlin氏と面談し、同氏の幅広い知識と経験に裏打ちされた大変興味深い情報の数々を収集されました。本学に正式にスポーツ局が設置され、本格的な活動が期待されるなか、Matlin氏から今後も惜しみない協力を確約いただいたことで、なお一層充実した展開が心待ちされます。

本研修はUHをはじめ現地の方々に大変ご支援いただきました。このような機会を与えてくださいました朴澤理事長・学事顧問をはじめ関係者のみなさまに深くお礼申し上げます。

<報告：松浦里沙新助手>

修了式後にNathan Murata教育学部長をはじめとするUH関係者と撮影

Faye Murata氏の著者と仙台大学慰霊碑の紹介

2年ぶり5回目となる「学生選書ツアー」を開催しました

イベントに参加した学生5名

図書館1階の階段付近に設置された特別コーナー

9月2日（日）に図書館では2年ぶり5回目となる「学生選書ツアー」を開催しました。
学生選書ツアーとは、学生が直接書店に出向き、図書館に備えて欲しい本を実際に手にとって選ぶというイベントで、今回は5名が集まりました。

当日は、13時に丸善アエル店に集合し、書店の担当者から簡単な説明を受けた後、選書開始の合図とともにそれぞれ店内に繰り出していきました。基本的には、一人一人個別に選んでいましたが、時折、同じ本棚で鉢合わせた参加者同士で話し合いながら選んでいる姿も目にしました。選び方も様々で、店内の検索機を利用したり、店員に場所を訪ねたりしながら本を探す人や、特定の分野の棚からあまり動かないで集中的に選ぶ参加者、反対に書店内を積極的に動き回り様々な分野を物色する参加者がいたりと、「本を選ぶ」という一つの行為でも個性が垣間見られました。選書された書籍を確認すると、すでに図書館で所蔵しているものも数冊あり、それを告げると代替の書籍を探しに行くことになるのですが、またも所蔵済み。何度も取り換えに行く、そんな一コマもありました。

1時間30分かけて選んだ本は合計30冊。この日はこれで終了ですが、参加者には後日、自分で選んだ本についてコメントなどを書いた利用促進のPOPを作成していただきました。どれも渾身の力作揃いです。

これらの図書とPOPは、図書館1階の階段付近に特別コーナーを設けて展示していますので、ぜひ手にとってみてください。全て学生視点で選んでいますので、いつもの図書館の蔵書とは違った雰囲気の本が楽しめるのではないでしょうか。

このイベントは来年も継続予定ですので、関心のある学生へのお声がけを宜しくお願い致します。

＜報告：図書館事務室＞

楽天生命パーク宮城でのボランティア体験

ゴミ分別の環境活動をサポートするエコボランティアに参加した学生達の様子

9月8日(土)・9日（日）に楽天生命パーク宮城で開催された東北楽天ゴールデンイーグルス対北海道日本ハムファイターズの試合で、本学の学生がボランティアとして活動しました。
ボランティアの内容としては、ゴミ分別の環境活動をサポートするエコボランティアで、幅広い年代の方々と一緒に活動を行いました。参加した学生は普段、楽天生命パーク宮城には、試合観戦目的で訪れていましたが、今回のボランティア体験を通じて、球団運営に直接参加したことにより充実感が得られたことはもちろん、多くのボランティアの方々が試合を支えていることを身を以て感じることができました。加えて、スポーツを支える楽しさや世代を超えた交流を通じて様々な学びを得たようです。
両日とも小雨が降る中でのボランティア体験でしたが、試合は白熱した好ゲームであった為、球場内は熱気に包まれていました。

今回、ボランティア体験を受け入れて頂きました、楽天野球団東北楽天イーグルスの関係者の皆様と、ボランティアの指導をして下さった現場の皆様にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

＜報告：福田伸雄講師＞

仙台大学第三者評価委員会委員が大学施設を視察・学生代表者と面談を行いました

学生面談が行われる前の緊張した学生達

学外の第三者に「教育の質の保証」の観点から、これまで仙台大学が行ってきた教育内容等について評価をし、今後の改善点等を提言していただくために設置された「仙台大学第三者評価委員会」の委員4名が、9月27日に大学施設の視察及び学生代表者と面談を行いました。

始めに、高圧高酸素環境を作り出す高圧高酸素室、真夏から真冬まであらゆる環境を想定したデータ収集が可能な人間環境測定制御室（人工気象室）、認定ストレングス＆コンディショニングスペシャリストなどが常に管理・指導に当たっているトレーニングセンター、アスレティックトレーナーの有資格指導者が学生をアスレティックトレーナーに養成するため、講義・実習、研究の場として利用しているATルームなど、体育大学ならではの施設や、ラーニングコモンズ、保育実習室、図書館など学生の良好な学習環境確保のための施設などを熱心に視察されました。

また、各施設では担当教職員から施設の特徴などについて説明がなされ、各委員からは「仙台大学を知る良い機会となった」、「体育大学としての施設、設備の充実度が確認できた」などのお話がありました。

引き続き、各委員と学生代表との面談が行われ、各学生から自己紹介があったあと、委員から学生に対して「入学前の仙台大学の印象と入学後の仙台大学生活ではギャップはありましたか」、「仙台大学らしさとは、どのようなところですか」、「将来不安に思っていることはありますか」、「授業はシラバス通り進んでいますか」などの質問があり、始めは緊張気味の学生も、面談後半には積極的に自分の考えを発言していました。

委員と学生との面談は、終始穏やかなムードで進み、久道茂委員長から参加学生に対し、出席いただいた学生の皆さんの大学生活が充実したものとなるよう、また、それぞれの「目標」「志」がかなうよう、激励の言葉をいただき、終了となりました。

第三者評価委員会では、10月24日に第二回第三者評価委員会を開催し、その後、教育の実施内容に関する改善点等を取りまとめることとしています。

＜報告：法人事務局　安倍寿広常務理事＞

仙台大学柔道塾：全国大会の壁

この夏、仙台大学柔道塾の子供たちが全国大会に出場し、精いっぱい戦ってきました。 全国中学校大会（7/17～20 広島）に出場したのは、男子66kg級の後坊蒼斗選手（六郷中）と、女子70kg超級の佐藤歩瑠選手（金ケ瀬中）の二人。 入賞を目指して出場した二人でしたが、後坊選手は初戦となった2回戦で以前痛めていた肩を脱臼し、悔しい一本負け。佐藤選手は初戦、富山県代表には合わせ技による一本勝ち。2回戦の北海道代表には惜しくも技ありによる優勢負けで、3回戦進出はなりませんでした。両者ともに、目標達成はなりませんでしたが、後坊選手は、高校で活躍するために、また佐藤選手は来年に向けてのいい経験となったと思います。

続く１週間後に行われた全国小学生学年別柔道大会（7/26山口）には、5年生男子45kg級の熊田愛留選手（不二が丘小）が出場しました。いい動きで初戦を得意技の内またによる一本勝ちで上がりましたが、2回戦は奈良県代表に自分の柔道をさせてもらえず指導2で優勢負けの敗退となりました。熊田選手もまた来年があります。全国の壁を経験した分、これからも一生懸命練習に打ち込み、まだまだ恐れずに挑戦を続けていってほしいと思います。 また、全国大会に進めなかった中学生たちを対象に南條充寿塾長による特別講習会の時間を設け、「特訓」を開始しました。

この子たちが来年、さらに代表の座を奪うべく活躍してくれることを祈り、柔道塾はこれからも「厳しい」活動を継続してまいります。

＜報告：仙台大学柔道塾＞

男子66kg級の後坊蒼斗選手（六郷中）

男子45kg級の熊田愛留選手（不二が丘小）

日本一に輝く！　第45回全日本大学選手権大会

男子クォドルプルで優勝した学生

第45回全日本大学選手権が9月6日～9日に埼玉県で開催され、男子クォドルプルで優勝、日本一の栄冠を勝ち取りました。
開催種目は13種目（男8種目、女5種目）。全国から強豪校が大学チャンピオンの座を勝ち取るべく集結し、予選から大激戦が繰り広げられました。
本学からは12種目（男8種目、女4種目）が挑戦し、11種目で入賞。そのうち8種目で決勝進出の大快挙。日本一の総合力を示しました。
○男子結果　エイト 4位、舵手なしフォア3位、舵手付きフォア3位、舵手なしペア3位、舵手付きペア4位、クォドルプル優勝（3回目）、ダブルスカル6位、シングルスカル4位
○女子結果　舵手付きクォド3位、舵手なしペア7位、シングルスカル7位
＜報告：漕艇部＞

東日本学生個人選手権・東日本新人選手権大会　個人優勝

個人53kg級で優勝した渡部詩乃選手（体育4年）

9月7日～9日に神奈川県藤沢市で平成30年度第42回東日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会ならびに第15回東日本学生ウエイトリフティング新人選手権大会が開催されました。
女子は、個人53kg級 渡部詩乃（体育4年）、新人75kg級 遠藤朱李（体育1年）がスナッチ、トータルにおいて優勝しました。
遠藤は、クリーン＆ジャーク種目で大会新記録に挑戦しましたが、惜しくも失敗し、記録更新には至りませんでしたが今後の全日本新人選手権・全日本大学対抗での優勝が見えてきました。
男子は、個人77kg級 大谷祐希（スポ情）が8位、個人105kg級 保科魁斗（体育3年）が6位に入賞しました。新人62kg級 戸嶋響愛(体育1年)は、スナッチで失格になったものの、クリーン＆ジャーク種目で3位に入賞しました。
＜報告：ウエイトリフティング部＞

全日本大学対抗テニス王座決定試合東北地区大会

優勝した硬式テニス部女子メンバー

硬式テニス部（女子）創部初の2連覇となり、10月10日から開催される「全日本大学対抗テニス王座決定試合」（愛媛県総合運動場）に東北代表として出場することになりました。

○1部リーグ＜開催場所：宮城野原公園総合運動場＞
9月11日（火）　対 弘前大学　5－0 勝利
9月12日（水）　対 山形大学　5－0 勝利
全勝をもって、仙台大学の優勝が決定しました。
＜報告：硬式テニス部＞

天皇杯東北ブロックラウンド優勝

優勝後の集合写真

天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会東北ブロックラウンドが9月8日～9日に青森県マエダアリーナ（青い森アリーナ）で行われ、東北大学リーグ1位チームとして出場した仙台大学男子バレーボール部が見事優勝し、12月14日～16日に東京都武蔵野の森総合スポーツプラザで開催されるファイナルラウンドへ出場することが決まりました。
○結果
2回戦（1回戦シード）　仙台大学２（25-16、25-22）０福島
準決勝　仙台大学２（25-23、25-19）０東北高校
決勝　仙台大学２（25-16、25-21）０山形大学
＜報告：男子バレーボール部＞

柔道部：激闘の3位入賞～2018全日本学生柔道体重別選手権大会～

9月29日～30日の両日、日本武道館において柔道の全日本インカレ（個人戦）が開催され、本学から男子4名、女子17名が出場しました。
女子においては過去に2度日本一に輝いているものの、ここ数年は東京五輪に向け、どの大学も強化を進めており、入賞者を出すことさえ厳しい状況が続いていました。今年も、どこに入っても厳しいと思われる組み合わせの中、57kg級の飯塚亜美選手（3年・現代武道学科）が昨年敗れた相手にリベンジするなどの熱い戦いを繰り広げ、トーナメントを勝ち上がり、3位入賞を果たしました。準決勝戦では、現全日本強化選手である香川瑞希選手(東海大)に敗れたものの、苦しい場面で我慢をし続けて3位入賞を果たしたことには大きな意義があると感じました。
また、そのほか今回は70kg級の筒井志保選手(4年・体育学科）、63kg級の高橋仁美選手(3年・体育学科）、52kg級の笹原優希選手（2年・現代武道学科）の3名もベスト8に入賞しており、チーム上げての強化も実ってきております。
来年こそ頂点に上り詰めるべく、さらなる強化に励む所存であります！
＜報告：柔道部＞

写真右　57kg級の飯塚亜美選手
（3年・現代武道学科）

吉井秀邦准教授：日本コーチング学会 学会賞受賞

8月26日～28日まで徳島大学にて開催された第69回日本体育学会の日本コーチング学会総会にて、本学の吉井秀邦准教授が共同研究者として、『平成29年度 日本コーチング学会 学会賞』を受賞しました。
対象となった論文は，平成28（2016）年10月発刊のコーチング学研究第30巻1号に掲載されている「サッカー選手のチーム戦術に対する認識の検討」です。

賞　状
小圷 昭仁 殿
あなたは上記論文によりコーチング学の発展に寄与されました
よってここに平成29年度日本コーチング学会 学会賞を贈ります
平成30年8月25日
日本コーチング学会
会長 中川

〇概要
効率的なコーチングを実践するために、選手のチームコーチングに対する認識を把握することを目的とし、質問紙調査法を用いた。その結果チーム戦術に対する認識は「能力依存」「熟達試行」など7因子構造であることがわかった。また、コーチングの示唆として、「低年齢ではチーム戦術は難しいと感じている」など、技術、戦術行動の理解力などが影響していることが明らかになった。

吉井秀邦准教授のコメント「今回、このような光栄な賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。今後もより一層努力を重ねて取り組んで参ります」と感想を述べました。

溝口絵里加講師：第38回三島賞を受賞

9月2日（日）に第28回体力・栄養・免疫学会大会が行われ、本学教員の溝口絵里加講師が第38回三島賞（体力・栄養・免疫学会学術賞）を受賞しました。
体力・栄養・免疫学会は平成元年に設立した全国規模の学会で、学会設立の意義は、「体力、栄養、免疫に関するすべての研究者が一堂に会し､その研究成果の発表､知識の交換・普及､情報等の提供を行うことに斯界の発展に寄与することを目的とする」ところにあります。
その中で今回発表した「親子体操実施が母親の育児ストレスと身体に及ぼす効果－親子体操介入前後の比例検討－」が機関誌への投稿論文のうち優秀なものであると判断され三島賞（体力・栄養・免疫学会学術賞)の受賞となりました。

第38回三島賞
（体力・栄養・免疫学会学術賞）
溝口絵里加 殿
（仙台大学）
論文題目
「親子体操実施が母親の育児ストレスと身体に及ぼす効果 -親子体操介入前後の比例検討-」
貴殿は体力・栄養・免疫学の分野において、独創的かつ優れた完成度の高い論文を発表されました。
その業績を讃えさらなる研鑽を願い、ここにこれを賞します。
平成30年9月2日
体力・栄養・免疫学会長
中路重之

〇概要
本研究は親子体操の運動が育児ストレスと身体的健康に及ぼす影響を検討した。幼稚園に通う年中児をもつ母親に6ヶ月間の親子体操を実施し、介入前と介入後に測定を行った。結果、親子体操に取り組むことで、育児ストレスとともに抑うつや肥満度の改善がもたらされる可能性が示唆され、その効果は、週に3.5日未満の頻度でも十分に得られる可能性が示唆された。

溝口絵里加講師のコメント「このような立派な賞を受賞することができて、大変光栄です。今後もさらに精進して参ります」と感想を述べました。

宮城県教育委員会主催「平成30年度 小学校体育科・中学校・高等学校体育科研修会」が開催されました

19日、県内の先生約30名が本学学生約20名が模擬授業や指導案作りを学んでいる様子

9月5日（水）と19日（水）の2日間にわたり、宮城県教育委員会主催「平成30年度 小学校体育科・中学校・高等学校体育科研修会」が本学で実施されました。

この研修会は、体育科教育の今日的な課題について理解を深めるとともに、その解決へ向けた研修を通して指導力の向上を図ることを目的として今年度はじめて開催されたものです。

県内各地から約30名の先生が参加し、5日は本学教員が講師となり、実技（陸上・サッカー）を交えての授業づくりや指導法・教材の工夫について研修が行われました。

19日には先生約30名と本学学生約20名が参加し、午前中はバスケットを題材とした指導案にもとづいた模擬授業をし、午後からはその体験を生かし、ねらいの達成に向けた手立てを工夫するよう学生と教員が話し合って指導案を作成しました。また、研修の最後には「学生と現場の教師が話し合うこれからの体育」として、学生が選んだ3つのキーワードについて、参加された先生がたから現場で起きている課題や対応方法などについて丁寧に話をしていただき、それを学生がとりまとめてグループ毎に発表をしました。

今回の研修を受講した学生からは、「実際に指導されている先生の考え方が聞けとても勉強になりました。」「現場で起きている普段聞けないことを聞くことができてとても良い経験になりました。」などの意見があり、将来に向けて大きな一歩となりました。

＜報告：事業戦略室＞

船岡中学校の生徒2名が職場体験

トレーニングセンターを取材する様子

図書整理の様子

私たちは9月11日（火）12日（水）の2日間、仙台大学で職場体験をしました。初日は総務室でナンバリングという協定証書の整理や図書館事務室では図書の整理を行い、2日目の事業戦略室では国際交流館の清掃活動、広報室では大学内の取材を体験しました。

今回は広報室の職場体験で取材させていただいた第3体育館にあるトレーニングセンターを紹介します。

トレーニングセンターには学生がケガをしない体を作ることや、パフォーマンス向上の為、どんなトレーニングをしたら良いか指導してくださる白坂牧人先生や小野雅洋先生がいます。S&C（ストレングス＆コンディショニング）という資格をアメリカで取得し、学生たちに毎日、指導を行っています。現在、指導している部活数は14クラブで私たちが取材しているときには男子バスケットボール部がトレーニングをしていました。その時に使用していた「プレート」と「プラットフォーム」は表面がゴムでできており、ウエイトリフティングの競技でも使われ、安全にできる器具だそうです。私たちは50kgのダンベルに挑戦してみましたが全く動かず、それを使ってトレーニングをする人もいると聞いてとても驚きました。

この2日間を通して初めての体験ばかりでしたが、どんな仕事も一生懸命行うことが大切なんだと気づきました。学校生活でも生かしていきたいと思います。

＜報告：船岡中学校2年　船迫こと美・菅生竜＞

中国瀋陽師範大学海外武道実習および協定10周年記念式典

9月23日～30日に中国瀋陽師範大学にて海外武道実習を行いました。引率教員は井上雅勝教授、馬佳濛准教授、参加学生が現代武道学科2年の奥田大喜さん、甲斐元揮さんでした。例年どおり、本プログラムは中国武術をメインとして、中国語学習や中国文化体験から成っています。2名の学生が中国武術の刀術および棒術を学び、武術の演武も鑑賞できて、短い期間でしたが、本場での中国武術を体験することができました。瀋陽師範大学の教員からは、2名の学生がとても真面目で各プログラムに積極的に取り組み、中国武術技能の習得および中国語の上達はとても早いと好評価を頂きました。参加者の奥田さんは、中国武術に興味を持つようになり、いろんな中国文化に触れるとても有意義な1週間でした。また、2名の学生とも瀋陽師範大学の方々がとても親切に接してくださり、機会があればまた留学に戻りたいと熱く語りました。

仙台大学と瀋陽師範大学は2008年から協定を結び、今年で10周年を迎えました。10周年という節目の年にあたり、仙台大学朴澤泰治理事長・学事顧問、青沼一民副学長、原田健次教授、金賢植准教授が招待を受け、瀋陽師範大学にて学長表敬や学術交流会、陸上競技大会および記念式典が盛大に開催された行事に出席しました。

学長表敬では、朴澤理事長・学事顧問が今年赴任の赫徳永学長、韓国海副学長と会見し、両大学の交流について語り合いました。赫学長は、仙台大学と10年間で交換留学生および教員、学術交流など密に交流を行い、瀋陽師範大学の教育発展に尽力した朴澤理事長に感謝の意を表しました。朴澤理事長・学事顧問からは、今後はより両大学の交流を深めるように交流領域を拡大していきたいと答礼がありました。

陸上競技場大会は2年一度大きいなイベントであり、我々がゲストとして出席し、朴澤理事長・学事顧問および青沼副学長がスターターピストル、表彰式の贈呈者を務めました。また、今回の実習生やOBの留学生が参加選手として、100mや100m×4リレーで優勝し、所属した国際教育学院に貢献するなど良い成績を収めました。学術交流会では、幼児体育をテーマに原田教授および金准教授が講演され、両国の幼児体育について活発な意見交換および今後の共同研究について合意に至りました。

また、両大学の10周年記念式典では、10年間の振り返りのビデオが放映され、瀋陽師範大学側は中国武術、狮子踊りパフォーマンスを披露、日本側が剣道および空手の演武を披露しました。

仙台大学と瀋陽師範大学との次の10年に向けて各分野での交流が、より一層発展していくことが期待されます。

＜報告：馬佳濛准教授＞

仙台市小学校体育大会 第64回陸上記録会補助

本年度も、仙台市教育委員会、仙台市小学校校長会、仙台市小学校教育研究会体育部会主催による仙台市小学校体育大会が9月12日・13日・14日の3日間、仙台市陸上競技場で開催されました。この仙台市小学校体育大会では122校、約8,000名の小学6年生が3日間に分けて大会に参加し、100m走、80mハードル、走り高跳び、ソフトボール投げなど7種目の競技を競い合いました。

本学からは1日目13名、2日目21名、3日目18名で合計52名の学生がボランティア役員として参加し、会場準備、児童の整列・誘導、記録の測定、救護係りの補助などを担当する中で、児童と触れ合う場面も多く見られました。

大会期間中はボランティア学生も積極的にコミュニケーションを図り、児童の為に精力的にサポートを行い、救護係の学生も子どもたちの応急手当など真摯に取り組みました。

また、教員志望の学生は現場で働く担当の教員からの多くのアドバイスを受けながら活動ができ、とても良い経験になったようです。

＜報告：学生支援室 学校支援担当 大久保 成実 臨時職員＞

ボランティア活動中の様子

川平キャンパスAT・S&Cレポート

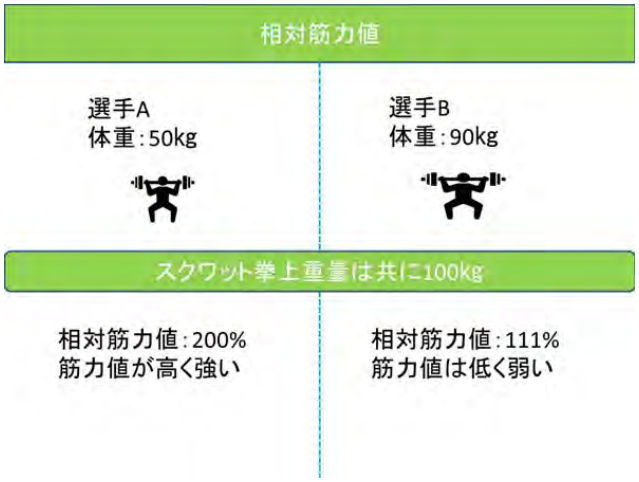
「高校スポーツの安全を守る」Vol.6

夏休みは冬の大会へ向けて集中的にトレーニングに取り組める最後の期間です。合宿や遠征など、競技練習の合間を縫ってトレーニングを積んできました。今回は夏休み期間中に実施したS&Cについて綴ります。

（担当：浅野勝成助手）

【体力テスト】

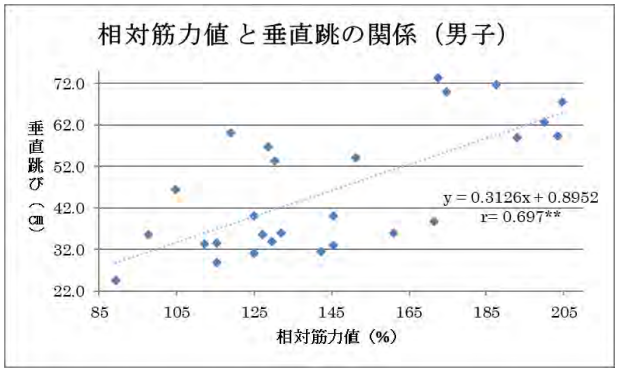
5つの部活動が夏休み中に体力テストを実施しました。テスト内容は体組成、垂直跳び、最大筋力です。最大筋力はスクワットを用いて絶対筋力と相対筋力を算出します。絶対筋力は最大挙上重量（1RM）で表され、1回の試技でどれだけの高重量を持ち上げられるかで決まります。相対筋力は1RMを挙上者の体重で除して%で算出される値です。例えば、体重70kgのアスリートが140kgを挙上できれば相対筋力値は200%となります。加速・減速・跳躍・方向転換などの自身の身体をコントロールする能力が高く要求される競技（特に球技系）では重要な因子です。 よく“アスリートは体重の2倍の重量を挙げるべき”と言われますが、こういった理由が背景にあるからです。



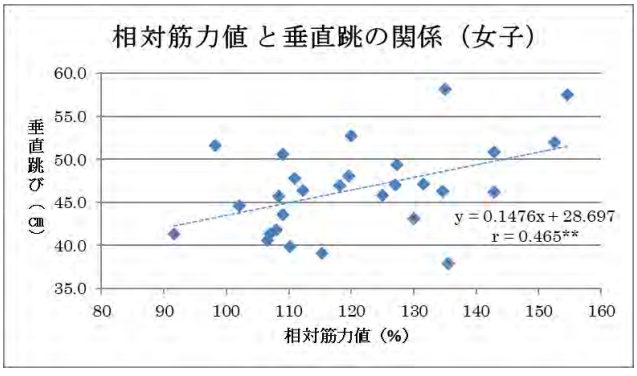
（図1. 相対筋力値のイメージ）

垂直跳びは瞬発力を測定するツールとして用います。静止状態からの垂直跳びは実際の競技場面では多く見られないですが、垂直跳びと加速や方向転換の速さは高い相関性があると報告されています。時間や環境面の関係上、加速や方向転換の測定が難しいため、垂直跳びのみで瞬発力を測ります。

高い瞬発力は多くの競技で求められます。前回（Vol.3）の記事に書いたように、瞬発力の土台は筋力であり、筋力向上によって垂直跳びなどの数値の向上が期待されます。今回の測定では男女それぞれの相対筋力と垂直跳びは高い相関性が示されました（図1・2）



（図１．男子の相対筋力値と垂直跳びの関係性）



（図２．女子の相対筋力値と垂直跳の関係性）

トレーニング初心者である高校生が瞬発力を養成するには筋力向上が優先事項であり、筋力強化を目的としたウエイトトレーニングを取り入れるべき理由を裏付けるデータにもなります。今回の測定で得られた数値を基にしたトレーニングで更なる身体強化を図り、冬の大会で各部活動が成果を発揮できればと思います。

次回は健康スポーツコースで行っているトレーナーの授業について（担当：白坂広子助手）

SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.150　/　2018 OCT.

「2018東北こども博」を開催

～近づく2020東京5つの輪　遊べ、オモチャで、スポーツで！～

各会場の様子

10月6日（土）・7日（日）本学を会場に「2018東北こども博」が開催され、2日間で17,300名の方々がご来場くださいました。
「東北こども博」は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の復興支援の一環として「被災地の子どもたちに元気を」を合言葉に始まり、今年で8回目を迎えました。子どもたちに、遊んで、からだを動かし、元気になってもらおうとウルトラマンRやシルバニアファミリーのステージショーやスポーツ体験、おもちゃ遊びコーナーなど全国の玩具メーカーや地元企業など117団体のご協賛があり、本学の学科の特色を生かした子ども運動教育学科の木育広場「木練がっこう」、運動栄養学科の「PETボトルでパン作り」、健康福祉学科の「ロボットと触れ合おう」など、様々な催し物に各会場では大人も子どもも夢中になって楽しんでいました。

木育広場「木練がっこう」

「ロボットと触れ合おう」

本学約800名と明成高校35名の学生ボランティアが2日間に渡り「東北こども博」を支え、無事に閉幕となりました。
皆様のご来場、誠にありがとうございました。

〈 目　次 〉

・「2018東北こども博」を開催 ～近づく2020東京5つの輪　遊べ、オモチャで、スポーツで！～	1
・第4回プラぞり大会を開催 ～ソリ競技の魅力を伝えよう～	2
・スポーツ頭部外傷セミナーを開催しました ・就活キックオフセミナー第3回戦を開催しました ・健康・体力づくり事業財団より本学に感謝状	3
・仙台接骨医療専門学校「包帯巻きコンテスト」デモンストレーション講師として実技講演 ・仙台大学保護者のための就活セミナーが開催されました ・スポーツ情報マスメディア学科：卒業論文中間発表会を開催	4
・男子バレーボール部：秋季リーグ戦全勝優勝（リーグ戦3連覇） ・硬式テニス部：全日本大学対抗テニス王座決定試合の結果 ・男子サッカー部：第43回東北地区大学サッカーリーグ優勝 全国大会出場決定	5
・男子バスケットボール部：全日本大学バスケットボール選手権出場 ・女子バスケットボール部：インカレ出場決定	6
・手話CAFEをオープンしました ・「柴田町環境美化花いっぱい運動」への参加について ・槻木中学校から2名が職場体験しました	7
・上海体育学院と日系幼稚園，中国幼稚園視察報告	8
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.7 ・平成32年度教員採用試験対策「教採塾」がスタート	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。
本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学　広報室
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

第4回プラぞり大会を開催～ソリ競技の魅力を伝えよう～

二人乗りを滑走する親子の様子＝太陽の村

10月13日（土）、柴田町の太陽の村で「第4回プラぞり大会」が開催されました。宮城県内在住の小学1年生から6年生までの児童と保護者の約30名が参加し、斜度25度の芝生の上をプラスチック製のソリに乗って25m先のゴールまでのタイムを競います。第4回目の本大会では、冬季オリンピックの正式種目になっている「ボブスレー・リュージュ・スケルトン」のソリ競技の魅力を知ってもらうことを目的として、宮城県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟と柴田町総合型地域スポーツクラブが主催し、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部が「仙台大学の専門教養演習」の授業の一環として協力し、行なわれました。

はじめに、本学の学生から怪我や事故の無い様に準備運動や諸注意を話した後に、子どもたちにそりを速く滑るコツや乗り方・止まり方などをレクチャーする講習会を実施しました。一本一本滑るごとに、更に速く滑る方法やアドバイスを学生から参加者へ伝え、短い時間で上達できるような時間を設けました。その後にレースを行いました。レースは小学校高学年が対象の「一人乗りの部」と小学校低学年とその保護者が対象の「二人乗りの部」を開催いたしました。初めはなかなかプラぞりをコントロールできなかった児童も本番ではうまく滑ることが出来る様子が多く見受けられました。参加者達は終始、歓声を上げながらそり滑りを存分に楽しみました。

学生から乗り方を指導されている様子

柴田町から訪れた小学6年生の女子児童は、「スピードが速くて難しかったけど、大学生のお兄さん・お姉さんに教えてもらいながら出来るようになったので、とても楽しかったです。来年もまた参加したいです」と話してくれました。

その他に本大会では、ボブスレー・スケルトン競技のことをより知って頂く為の競技紹介ブースの設置・ローラースケルトンの体験会も同時に行いました。実際に競技をしている様子の映像や道具、オリンピックのグッズ、ナショナルチームに所属している学生の「JAPAN」と書かれているウェアの展示、競技にまつわるクイズなどを行いました。また、ローラースケルトンの体験では、地面から数センチの高さで前を見て滑走する日常生活では感じる事の出来ない世界観やスピード・迫力を疑似体験、今まで知る事のなかったソリ競技について体験する機会を設けられました。

ローラースケルトン体験と競技紹介ブースの様子

今回のプラぞり大会を通して、競技運営のリーダーを務めた本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の平山満敬さん（体育学科3年－栃木・烏山高校出身）は「今年で4回目を迎えたプラぞり大会ですが、これまでは自分たちで、イベントを企画・運営し、人間力を養うこと、そり競技を知ってもらい、楽しさを伝えることを目的として毎年行ってきました。今大会より柴田町総合型地域スポーツクラブ柴田町スポーツ振興課のお力をお借りし、柴田町と共同開催できるまで大きなイベントを開催できる事となりました。これまで自分たちで行ってきた大会をもう一度見つめ直し、町と行うことでより良いイベントになるように準備を進めました。時間が合わず、町の方やボランティアの学生を含めて全員でリハーサル等ができず不安な部分もありましたが、本番当日は、私たちや町の方、ボランティアの学生でうまく協力・連携し、無事参加者の方々を楽しませることができ、円滑に進めることができました。このプラぞり大会に携わっていただいた方々に心から御礼の言葉を申し上げます。本当にありがとうございました。」と話しました。

本大会で4回目を無事に終えることが出来ました。これまでたくさんの方々のサポートにより、ここまで大会を発展することが実現しました。年々、色々な事を経験し積み重なる事で新たな発見・課題や反省が見つかります。来年度も柴田町総合型地域スポーツクラブと連携し、更に地域に根付いたイベントを企画・開催していこうと考えております。2022年北京五輪・2026年五輪へと続く冬季オリンピックに向けてソリ競技の中心であり続ける事、自分たちの競技力向上はもちろん、地域の方々にも応援されるような選手の育成・競技普及活動実施を目指して活動して参ります。

＜報告：進藤亮祐新助手＞

スポーツ頭部外傷セミナーを開催しました

セミナーの様子

10月11日（木）仙台大学にてスポーツ頭部外傷セミナーを開催しました。講師は、スポーツ頭部外傷において国内の第一人者である、東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科講師の中山晴雄先生をお迎えしました。中山先生は、国内外問わず様々な現場に自ら足を運ばれ、knowledge translationやスポーツを安全に行える環境の構築を目指し活動されております。今回のセミナー参加者は、教職員・学生を含め50名程で、アスレティックトレーナー関係者やアスレティックトレーナー部学生はもちろんの事、医師、看護師、ストレングストレーナー、養護教諭や保健体育教員志望の学生、コンタクトスポーツ部活動所属学生など、幅広い参加がありました。

セミナーでは、急性硬膜下血腫と脳震盪発生のメカニズム、脳震盪の診断の難しさ、脳神経修復過程について、再発予防対策の大切さ、段階的な競技復帰、現場での競技続行か否かの判断、後遺症について、画像所見を交えての実例紹介など、非常に専門的な内容を分かりやすく解説していただきました。

スポーツ活動中における頭部外傷には、命に関わる病態も含まれ、脳震盪に関しては病態の認識と再発の予防が最も大切だと感じます。特に若年層や女性はより影響を受けやすく、適切な対処が望まれます。頭部外傷への理解は非常に難しいものですが、スポーツに関わる少しでも多くの人が、適切な知識と対処法を身につけていけるよう、我々も尽力しなければならないと感じます。

参加学生らは、脳震盪の怖さを改めて認識し、再発予防には周囲との密なコミュニケーションを取る事や、その選手がなぜ脳震盪になったかを解明する必要性がある事を知り大変参考になった、との声が多く聞かれました。

＜報告：鈴木のぞみ助手＞

就活キックオフセミナー第3回戦を開催しました

真剣なまなざしで説明を聞く受講生

10月16日（火）に3年生を対象とした「就活キックオフセミナー第3回戦」を開催いたしました。今回のテーマは「地元優良企業の見つけ方」とし、数多くの企業の中から本当に自分に合った将来性のある魅力的な１社を見つけるにはどうしたら良いのか。企業の名前や規模だけに惑わされず、優良企業を見分ける選択をするために必要な知識について就職関連業者の専門講師から講話を受けました。

売り手市場で陥りやすい罠にかからないためにも、自己理解をしつつ情報を多く得ることの重要性を再確認しまし、受講生からは「これからの動き方が理解できた」「自分が知らない企業がまだまだあることを知った」という感想が寄せられました。

引き続き、入試創職室では学生がよりよい就職活動ができますよう、サポートしてまいります。

＜報告：入試創職室＞

健康・体力づくり事業財団より本学に感謝状

感謝状

学校法人仙沢学園
仙台大学　殿

貴大学は永年にわたり健康運動実践指導者養成校として健康づくりのための運動指導者育成を行い当財団の事業の発展に貢献するとともに国民への健康づくりの普及啓発に大きく寄与されましたよって財団創立四十周年にあたりまことにより感謝の意を表します

平成三十年九月十三日

公益財団法人　健康・体力づくり事業財団
理事長　下光　輝

本学が養成校である健康運動実践指導者・健康運動指導士の資格認定団体、公益財団法人　健康・体力づくり事業財団が創立40周年を迎え、9月13日（木）記念式典が開催されました（於：東京）。本学は、「永年にわたり健康づくりのための運動指導者育成を行い、国民への健康づくりの普及啓発にも大きく寄与した」ことで、理事長感謝状受賞者「健康運動指導士・健康運動実践指導者養成校の部」で感謝状を授与されました。この場を借りて、関係各位に厚く御礼を申し上げます。式典では、厚生労働省、文部科学省等からの来賓ごあいさつにつづき、寛仁親王妃信子殿下による記念講演「私の健康づくり」などもあり、大変有意義でした。

＜報告：小松正子教授・真野芳彦准教授＞

仙台接骨医療専門学校「包帯巻きコンテスト」デモンストレーション講師として実技講演

専門学生に実技講演する小野勇太助手

10月17日に学校法人東北柔専仙台接骨医療専門学校柔道整復学科にて開催された「包帯巻きコンテスト」の実技審査員および、デモンストレーション「テーピング」実技講師を務めてきました。柔道整復師として最も基本的な治療技術である包帯巻きは、他の代替方法(テーピングなど)の普及により、柔道整復業界の中でも、十分な包帯巻きが行える柔道整復師が減少してきています。そんな中、仙台接骨医療専門学校ではその「包帯巻き」に力を入れている柔道整復師養成校です。年に１度「包帯巻きコンテスト」が開催されており、今回はその第26回目でありました。コンテスト種目は学年毎に内容が異なり、1年生は肩軟部組織損傷、2年生は肩関節前方脱臼、3年生は橈骨遠位端部骨折について、制限時間を設け、柔道整復師特有の厚紙副子や金属副子、綿花、包帯、三角巾などを使用し、各自日頃の成果を競うコンテストとなっております。デモンストレーションでは、今年度より柔道整復師認定実技試験(国家試験)より追加項目の「テーピング」について、私が普段の高校(川平)ATとして実施している方法を、巻き方一つ一つ見解を説明しながら実技講演してきました。内容は大きく3つ、①基本の足関節テーピング②伸縮テープを用いた応用足関節テーピング③スポーツ傷害後の腫脹コントロールおよび実践的なRICE処置について実技を交えながら講演。国家資格を目指す約120名の学生達は、柔整教科書とは違った方法や、スポーツ現場での実践的な知見について非常に興味深そうに聴講しているのがとても印象的でした。アスレティックトレーニング領域としてテーピングも含まれていますが、柔道整復領域にも「テーピング」の概念が普及していることがわかりました。それぞれ専門家としての知見や技術は異なる点があります。どちらが良いということではなく、他職種の特徴を理解しつつ、それぞれが持つ特徴や強みをどう活かしていくことができるかが重要です。本学として力を入れているアスレティックトレーニングの普及発展へ向け、自身の活動に繋げていきたいと思います。

＜報告：小野勇太助手＞

仙台大学保護者のための就活セミナーが開催されました

「仙台大生の就職活動の特徴と保護者の役割」と題し、説明する藪耕太郎准教授

10月27日（土）13時30分からＢ300番教室において、「仙台大学保護者のための就活セミナー」が実施され、3年生の保護者の方101名にご参加いただきました。

冒頭に遠藤保雄学長からの挨拶の後、前半では「仙台大生の就職活動の特徴と保護者の役割」と題し、仙台大学の学生に焦点をあてた切り口で藪耕太郎准教授（創職チームリーダー）より説明がなされ、引き続き「教員採用試験の現状と対策」について、教職支援センターの金井センター長より本学生の教員採用試験への出願状況や各自治体の教員採用試験の状況、また本学の教員志望者への支援や取り組みを説明いたしました。後半では、本学OBでもある株式会社ディスコ東北支社の貫洞直希氏より「大学生を取り巻く就職環境と就活における親の関り方」をテーマに、現在の就職環境や就職活動の流れ、保護者が理解しておくべきことや役割について講演頂きました。これからも入試創職部では、目まぐるしく変わる就職環境の中で学生一人一人が十分納得した就職活動ができるよう支援を継続してまいります。

＜報告：入試創職室＞

スポーツ情報マスメディア学科：卒業論文中間発表会を開催

発表会の様子

10月23日（火）LC棟1階にて、スポーツ情報マスメディア学科・スポーツ情報戦略領域のゼミ4年生による卒業論文中間発表会を開催しました。中間発表会は、はじめにひとりずつポスター前で研究概要を発表した後、フリーディスカッションの時間で議論を交わしました。

4年生の発表は、「レセプション返球位置によるスパイク効果率と勝敗の関係」や「フリースローにおけるルーティーンが成功率に及ぼす影響」、「大学野球の配球分析」など、この領域らしい研究テーマが数多くありました。発表会を終えて大橋渉さん（4年）は、「多くのアドバイスを基により詳細な分析をして、質の高い論文を完成させたい」と、3ヶ月後の論文提出に向けた意気込みを語ってくれました。

＜報告：スポーツ情報マスメディア学科＞

男子バレーボール部：秋季リーグ戦全勝優勝（リーグ戦3連覇）

第53回東北バレーボール大学男女リーグ戦9月15日（土）～10月21日（日）まで行われ、予選リーグ、順位決定リーグを10勝0敗で全勝し、昨年度の秋、今年度の春に続き、優勝（3連覇）することができました。
また、多くの個人賞も受賞できました。
＃1堀籠力斗 最優秀選手賞 セッター賞
＃2後藤万澄 スパイク賞第1位 ブロック賞第1位
＃6髙橋生祈 レシーブ賞第2位 サーブ賞第3位
＃10飯田頼 ベストディガー賞 レシーブ賞第1位
＃11十文字龍翔 スパイク賞第2位 ブロック賞第3位
ベストオブサポート賞 仙台大学

優勝後胴上げをされる石丸出穂監督

＜報告：男子バレーボール部＞

硬式テニス部：全日本大学対抗テニス王座決定試合の結果

10月20日（土）に行なわれた、全日本大学対抗テニス王座決定試合東北地区男子1部2部入れ替え戦で9-0の全勝をもって勝利しました。男子が1部リーグに復帰したのは13年ぶりとなります。応援いただきました、関係者の皆様、学内よりご声援くださいました皆様、本当にありがとうございました。

開催場所：仙台大学テニスコート　対 青森大学
ダブルス
①大久一真（2年）・遠藤亜蘭（2年） 6-4, 6-7(3), 6-2 ○
②遠藤義輝（4年）・田中翔馬（1年） 6-2, 6-2 ○
③半杭伸太郎（4年）・飯坂将広（3年） 6-4, 6-2 ○
シングルス
①大久一真（2年） 3-6, , DEF ○
②遠藤義輝（4年） 6-0, 6-4 ○
③田中翔馬（2年） 6-0, 6-0 ○
④遠藤亜蘭（2年） 6-1, 6-0 ○
⑤村上智哉（1年） 7-6(3), 6-2 ○
⑥飯坂将広（3年） 7-5, 2-6, 6-0
ダブルス3-0　　シングルス6-0　　計9-0

男子テニス部メンバー

＜報告：硬式テニス部＞

男子サッカー部：第43回東北地区大学サッカーリーグ優勝　全国大会出場決定

第43回東北地区大学サッカーリーグ第13節
仙台大学対東北学院大学(11：00KO・みやぎ生協めぐみ野サッカー場A)
◇試合結果
仙台大学3-1東北学院大学(前半1-1・後半2-0) 得点者：松尾、本吉、薄葉
◇試合経過
前半11分14番薄葉のシュートが決まり、先制点を決めましたが、その後33分に東北学院大学に1点を決められ、前半を同点で折り返した。後半開始からシュートを打つも決めきれずにいましたが、後半59分10番松尾の勝ち越しのゴールが決まると、72分にも9番本吉が追加点を挙げ3-1で勝利しました。
この結果、第43回東北地区大学サッカーリーグ優勝を決め、18年連続35回目の全日本大学サッカー選手権大会への出場権を獲得しました。全国でも勝利できるよう、ご声援よろしくお願いします。

試合前の集合写真

＜報告：男子サッカー部＞

男子バスケットボール部：全日本大学バスケットボール選手権出場

第19回東北大学バスケットボールリーグ兼男子70回・女子65回東北バスケットボール選手権大会が、8月31日～9月2日、8日、9日（1次リーグ）10月12日～14日（2次リーグ）に行われました。1次リーグの上位チームとの対戦では、終始相手を追う展開となりましたが、持ち前の粘り強さを発揮し逆転勝ちすることができ、全勝で折り返すことができました。2次リーグの前にケガ人が出るなど、全員がそろって十分な練習ができない中で2次リーグを迎えましたが、チームの総合力（6勝2敗）で4年ぶりに優勝をすることができました。

今後は、12月10日～16日に行われる全日本大学バスケットボール選手権（インカレ）に出場します。（2年ぶり14回目の全国大会出場）全国の強豪校に勝利することができるよう、日々ハードに、謙虚に練習に励んでいきますので応援よろしくお願いします。

○1次リーグ

仙台大学　○121-49 青森中央学院大学
○120-56 秋田大学
○84-80 岩手大学
○70-67 東北学院大学
○70-49 富士大学

○2次リーグ

仙台大学　×66-68 東北学院大学
○66-52 富士大学
×80-92 岩手大学

○個人賞

最優秀選手賞　鈴木 亮也（4年）
優秀選手賞　山田 亜聖（3年）　半澤 一貴（2年）
アシスト王　鈴木 亮也（4年）

＜報告：男子バスケットボール部＞

記念写真

女子バスケットボール部：インカレ出場決定

第19回東北大学バスケットボールリーグ兼 男子70回・女子65回東北大学バスケットボール選手権大会が、8月31日～9月2日、8日、9日（一次リーグ）、10月12日～14日（二次リーグ）に行われました。

一次リーグでは、3位通過と不本意な結果だったため、二次リーグで巻き返しを図れるように約一ヶ月間の猛練習に励み、二次リーグでは、攻撃の手を緩めず全員で守り、第2位（5勝3敗）2年連続15回目の全国大会出場権を得ることが出来ました。

今後は、12月10日(月)～12月16日(金) 東京 代々木体育館で行われる全日本大学バスケットボール選手権大会に向けて、各地区の強豪校とも張り合えるように、また練習に励みます。
応援よろしくお願いします。

○一次リーグ

仙台大学　○81-74 岩手大学
○75-71 富士大学
×51-72 東北学院大学
×62-80 福島大学
○87-73 山形大学

○二次リーグ

仙台大学　○90-64 東北学院大学
○91-74 福島大学
×69-76 富士大学

○個人賞

敢闘賞 工藤千穂（4年）
優秀選手賞 吉田晴香（4年）
得点王 清水理香子（4年）
3ポイント王 清水理香子（4年）

＜報告：女子バスケットボール部＞

記念写真

「手話CAFE」をオープンしました

平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行され、国立大学では合理的配慮の義務付けがなされています。私立大学はまだ努力義務になってはいるものの、今後の状況を考えると、我が仙台大学も先んじて情報収集等を行っていくことが重要と感じています。そこで学生支援センターでは、手話の認知及び手話技術の向上、聴覚障害に関する理解を深めることを主な目的として、10月22日（月）に第1回目の「手話CAFE」を開催しました。参加者は、学生が16名、教員が3名、職員が9名の計28名が茶菓を楽しみながら気軽に参加できる雰囲気の中、手話を通して学生や教職員など様々な人との交流の場となりました。

講師である新助手の佐々木琢磨氏は笑顔を絶やさず手話を教えてくれたため、参加者も笑顔で活動することができ、取材者やカメラマンも巻き込み、終始にこやかな雰囲気で行われました。

「手話CAFE」には、手話を広めるというねらいの他にもう一つ目的があり、学生支援センターは5つのグループに分かれて活動していますが、その1つに「キャンパスライフサポートグループ」があります。このグループは、大学になじめない、もっと気軽に話し合える仲間が欲しいという学生の悩みに寄り添い、仲間づくりの場を提供する活動を行っています。

「手話CAFE」は上記の2つの目標達成をめざし、毎週月曜日12:00～12:30に学生支援室で開催します。是非、学生のみならず、多くの教職員の皆様も気軽にご参加ください。

＜報告：学生支援室＞

第1回目の手話CAFEの様子

「柴田町環境美化花いっぱい運動」への参加について

10月30日（火）、毎年恒例となった「柴田町環境美化花いっぱい運動」に柴田町商工会女性部と仙台大学柔道部の学生12名が参加しました。今回も船岡駅前で葉牡丹とビオラの植え替え作業と大学までの歩道と学食前に設置したプランターの植え込み作業を行い、作業中は柴田町商工会女性部の方と学生たちは談笑しながら楽しく作業を進めていました。この運動が町内の環境美化並びに地域の活性化の一助となれば幸いです。

＜報告：学生生活室＞

記念写真

槻木中学校から2名が職場体験しました

11月1日（木）2日（金）に仙台大学で職場体験をし、1日目の午後にスポーツ健康科学研究実践機構で11月3日に柴田町で行われる「全国フットパスの集い」の準備の仕事と広報室で取材と記事作りを体験しました。今回はスポーツ健康科学研究実践機構の仕事について紹介します。

スポーツ健康科学研究実践機構は仙台大学講義棟（B棟）3階に部署があり、ジュニアアスリートを発掘したり、地域貢献をする部署で、ジュニアアスリート養成事業では小学生に競技だけでなく、メンタル面や食事などを学んでもらい、もっと競技を好きになってもらう、続けていってもらうことを大切にし、将来「トップアスリートとなってもらうこと」を目的としています。

また今日は地域貢献として「フットパスの集い」のイベントの準備の仕事を体験しました。フットパスとは、柴田町に全国からフットパスに参加したい人々が応募し、柴田町の史跡などを観光するもので、イギリス発祥の集いです。今回の仕事内容は大抽選会を行う為の景品詰め作業や参加者の名札作りを行いました。職員の方にやさしく説明して頂きながら丁寧に作業を行いました。

今回の作業で仕事をすることの大変さを理解できた2日間となりました。

＜報告：槻木中学校2年　安藤夢望　泉田晶斗＞

名札作りを行う様子

スポーツ健康科学研究実践機構の取材をする様子

上海体育学院と日系幼稚園，中国幼稚園視察報告

上海体育学院前で記念写真

職員手作りのドラム缶転がしで楽しく運動する
蘇州珍珠湖幼稚園の子どもたち

10月17日からの5日間、本学子ども運動教育学科の久能学科長、針生教授、金准教授の3人で、上海市にある上海体育学院と日系幼稚園、蘇州市の中国幼稚園の視察を行いました。

初めに視察した上海体育学院は、1952年開設の中国で最も歴史の長い体育単科大学で、本学とは2002年5月13日に国際交流協定を結び、交流を図っています。2008年以降は本学大学院生や学部卒業生を中国国費留学生として同大学大学院へ派遣しています。また、本学大学院では上海体育学院からの留学生も学んでおり、2011年にはダブルディグリー制度が導入されました。広いキャンパスの中にある卓球棟やバスケットボール棟、400mトラックや走り高跳び、走り幅跳びなどの陸上競技が同時に行える室内の陸上競技棟などを見学し、昼食の会場となった学生食堂の2階にある迎賓室では、潘副書記から熱烈な歓迎を受けました。懇談には戸国際交流センター長と2名の職員の方々も同席しました。その席では、両大学のこれまでの学生や教職員間の学術交流、教育事情、幼児教育等が話題となり、この視察の様子は、大学のホームページにも紹介されました。

次に、日本人の子どもを対象とした2つの日系幼稚園の視察を行いました。1996年に開園した上海美しが丘モンテッソーリ幼稚園は、白とピンクを基調とした外壁に包まれていました。中本園長さんの案内で施設見学をした後、情報交換を行いました。中国では、1つの教室の中に幼児の学習室とホール、トイレの3つの設備が必要なことや、職員さがしの状況に大きな変化が出てきていることなどが話題となりました。中本園長さんからの「日本で職員を募集すると、以前とは異なり応募者がなく苦慮している。今の日本の若い人達は、内向きになっているように感じる」という言葉が印象的でした。

2006年に開園したさくら幼稚園は、旧日航ホテルを改修した1階にありました。園長の紀伊さんは、以前は日本企業「味の素」の職員だった経験を生かしながら「株式会社日中社」を立ち上げ、今はその傘下のさくら幼稚園の園長も兼務していました。園舎は以前ホテルだったこともあり、冷暖房完備の強みを生かし、創り出すことの喜びを通じて成長していけるような「創造力」と相手の立場になって考える「想像力」の育成に力を入れながら、体験重視の幼稚園経営をされていました。

中国幼稚園の視察は、上海から新幹線で30分程の蘇州市で行いました。高層ビルに囲まれた広い敷地の中にある、孫文の妻である宋慶齢の精神を受け継ぐ宋慶齢国際幼稚園には、手入れされた芝生が広がり、室内温水プールもありました。また、外観は落ち着いた茶色で統一され、園周辺の緑の樹木とよくマッチしていました。インターナショナルクラスも有り、3階建てのどの教室も整理整頓が行き届いていました。園の給食をいただいた後、本学の金准教授が世界各国における幼児の体力の現状についての話題を提供し、意見交換を行いました。私達の視察の様子は、園のホームページにも紹介されました。

蘇州珍珠湖幼稚園は、市郊外の農村の中にあり、私達が到着した時には園児全員が外で元気に活動していました。園児はボールやミニハードル、ドラム缶転がし、タイヤ跳びなどの職員手作りの遊具で楽しく運動していました。また広場では道路の歩行や横断の仕方などの実地学習も行われていました。園長さんのリーダーシップのもと、職員が一丸となって活動プログラムを考えたり、遊具の制作、配置などを工夫したりしながら、幼児の体力作りに取り組む中国幼稚園の姿を見ることができました。

いずれの視察においても熱烈歓迎を受け、中国における幼児教育の現状について知ることができました。5日間私達に同行し、視察プログラムや通訳も担っていただいた本学卒業生で、現在中国国費留学をしている菊地貴志さんに心から感謝したいと思います。

〈報告：針生　弘教授〉

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.7

健康スポーツコースＡＴ・Ｓ＆Ｃ授業の紹介　（担当：白坂広子助手）

川平アスレティックトレーニングでは昨年度後期より健康スポーツコース1、2年生を対象に保健体育授業でＡＴとＳ＆Ｃ分野を特別授業として教えています。この事業は健康スポーツコースより「スポーツに関する幅広い知識を生徒に身に付けさせたい」という先生方の教育方針から依頼を頂き開始しました。特別授業は年間を通して32時間あり、「コンディショニング」「スポーツ栄養」「テーピング」「運動学基礎」「女性特有のスポーツ傷害」「レジスタンストレーニング」「アジリティ」などスポーツを多方面から学ばせています。授業構成は前半に基本的知識を講義し、後半に実技で応用的に自分たちの競技と関連させ学ばせる方法をとっています。例えば栄養の授業では初歩的な栄養学を講義で学び、実技で日常を例に食品選択を考えさせます。コンディショニング授業の実技では脈の計り方、ＢＭＩ値の計算、関節弛緩性のチェックなどを行います。レジスタンストレーニング授業では講義で身体がどのようにパワー発揮をしているのかを学び、実技で正しいトレーニングフォームを学びます。多くの生徒はスポーツに関する様々な知識に興味を持ち意欲的に授業に参加し、将来トレーナー志望で熱心に勉強する生徒も見受けられます。

健康スポーツコースには部活動に熱心に打ち込み、将来的にスポーツに関する進路や職業を選ぶ生徒たちが大勢います。私達は授業を通してスポーツを「やる」ことだけではなく、スポーツを「考える」ことの大切さを伝え、生徒たちが将来スポーツを多方面から考えることができる人材として成長できるための基盤づくりをしています。

平成32年度教員採用試験対策「教採塾」がスタート

10月23日（火）16:00より、平成32年教員採用試験対策としての「教採塾」がスタートしました。開講式では教員採用試験合格を目指す1～3年生の学生が多数集まり、先生方の話を熱心に聞いていました。

開講式に引き続き、青沼一民副学長による授業が行われ、参加学生は教員になる気持ちを更に深めたようです。

なお、今年度の教員採用試験（10月23日現在）では、既に10名の4年生が現役合格を決めています。教採塾は、週3回～教員採用試験に係る様々な科目を学生に提供する予定です。

<報告：教職支援室>

開講式で説明を行う金井里弥講師

青沼一民副学長による授業の様子

SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.151　/　2018 .NOV

スポーツ庁 鈴木大地長官が本学を訪問

各施設での様子

11月12日（月）スポーツ庁鈴木大地長官が来学され、オリンピックを目指す学生など激励されたあと、本学の教育施設を視察されました。

始めに、遠藤学長から本学での48に及ぶ部活動や日本版NCAAモデル校としての大学スポーツ振興への取り組み、地域での健康運動の展開、東京五輪に向けてベラルーシ新体操チームのホストタウン事業の推進などについて説明、次いで朴澤理事長・学事顧問から東日本大震災で被災し、太陽光発電システムを取り入れて復興した復興記念プールやユニークな利用の仕方を導入した部活動のクラブハウスなど、施設紹介が行われました。また、元サッカー日本代表の平山相太さん（体育学科1年）、デフリンピック・水泳 銀メダリストの星泰雅さん（体育学科2年）、デフリンピック・陸上 金メダリストの佐々木琢磨新助手のそれぞれ自己紹介があり、鈴木大地長官は「この大学のシンボリックとなる選手、今後もみんなの憧れる選手であって欲しい」と激励されました。その後、震災復興記念プールやトレーニングルーム、アスレティックトレーニングルームを視察されました。最後に全国の大学で本学のみ整備されているプッシュトラックで2人乗りボブスレーに試乗されるなど体育大学ならではの施設を見学されました。

視察を終えられた鈴木大地長官から、「仙台大学は地域のスポーツの核となる大学。選手の強化や学生の教育、地域貢献に密着などこれからの大学を先取りしていて、素晴らしい」とのお言葉をいただきました。

その後、鈴木長官は本学が主催する「第14回スポーツシンポジウム」でのご講演のため仙台へ向かわれました。

〈 目　次 〉

・スポーツ庁 鈴木大地 長官が本学を訪問	1
・「第14回スポーツシンポジウム」を開催しました	2
・「健康タウンしばたプロジェクト2018」開講式を開催 ・スポーツ情報マスメディア学科3年の山崎雄太さん所属チームがJSAA Analytics Challenge Cupで優秀賞を受賞	3
・第2回「楽天生命パーク宮城」スポーツ施設見学会 ・「留学生ｳｪﾙｶﾑﾊﾟｰﾃｨｰ」を開催しました	4
・駐日ベラルーシ特命全権大使ルスラン・イエシン氏が来学されました ・蔵王町より朴澤理事長・学事顧問が表彰されました ・元サッカー日本代表平山相太さんの船岡中学校での講演	5
・スポーツ情報マスメディア学科：スポーツ情報戦略実習を実施 ・健康づくり運動サポーター事業上級実習を実施しました	6
・楽天イーグルス・アカデミーコーチが講義を行いました ・仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲームを開催 ・スポーツ局開局記念サッカー対抗戦開催しました	7
・Maui Invitational視察報告	8
・第11期卒業生「還暦同期会」開催 ～島根県から北海道まで43名が参会　大いに旧交を温める～ ・硬式野球部による学童野球交流会を開催 ・楽天イーグルス管理栄養士の講義を行いました	
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.8	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

「第14回スポーツシンポジウム」を開催しました

11月12日（月）18：00～20：30、仙台市・せんだいメディアテーク1Fオープンスクエアを会場として、仙台市・河北新報社・仙台大学の共催及びスポーツコミッションせんだいの協力により「第14回スポーツシンポジウム」が開催され、約250名の方々が聴講されました。

今回のテーマは『スポーツの持つ力とスポーツのある街仙台を考える～市民・ボランティアの力がささえるスポーツ～』であり、基調講演、スポーツリレートークによる各講演者の講演が行われました。

初めに、基調講演として、「スポーツが持つ力と地域活性化」をテーマに、鈴木大地スポーツ庁長官からの講演が行われ、スポーツは感動を与えるだけでなく、地域へ社会的効果・経済効果を創出し、スポーツによる持続的なまちづくりが地域活性化に繋がって行くことの大切さを強調され、スポーツによるまちづくり・地域活性化の推進のためには地元自治体や大学、企業などでつくる「地域スポーツコミッション」の拡大の必要性の呼び掛けがありました。

次に、基調講演を受けて、三名の講演者によるスポーツリレートークが行われ、スポーツの持つ力や地域活性への拡がり、各地域でのスポーツへの独自の取り組み、スポーツをささえる市民ボランティア活動の現状と実例をもとに考察報告がなされました。

＜スポーツリレートーク＞

「海よ、ノーサイドだ。私たちは未来だ」
岩崎昭子氏 浜べの料理宿宝来館女将/一般社団法人根浜MIND代表理事
東日本大震災からの復興の目標の一つ、2019年ラグビーワールドカップ招致を実現した釜石市。開催に至る想いと釜石とラグビーの関わり、特にラグビーの聖地としての釜石を世界に知ってもらいたいと期待感を語りました。

「スポーツで勇気と笑顔の共有」
石田卓士氏 新潟県立中央病院内科部長/新潟大学医学部臨床准教授/医学博士
病院の子どもたちにスポーツ観戦をとの思いから始めた病院ビューイングは医療関係者、クラブ、サポーター、ボランティアの連携で大きく広がっており、その経緯と成果についての事例報告を話されました。

「スポーツを通じて『する・みる・ささえあう』まちへ」
泉田和雄氏 市民スポーツボランティアSV2004代表理事
日本有数のスポーツボランティアのまち・地域となった仙台・宮城、その要因と活動のこれまでとこれから、「支え合う」ことから生まれる可能性について、地域の取り組み事例を含めて語りました。
最後に、池田敦司教授がスポーツの持つ力と街に及ぼす影響をもとに、スポーツのある街づくりを進めていくために、「ささえるスポーツ」という関わり方もあることを強調しリレートークのまとめが行われました。
次年度以降においても、産官学共催という本シンポジウム開催の趣旨を大局的な観点から捉えて、より一層発展させていく取り組みが大切となります。
＜報告：学術会＞

「健康タウンしばたプロジェクト2018」開講式を開催

10月30日（火）仙台大学LC棟で「健康タウンしばたプロジェクト2018」の開講式を開催いたしました。「健康タウンしばたプロジェクト2018」はスポーツ庁の補助事業として柴田町が採択され、本学に委託を受けた事業になります。本事業は、運動やスポーツに関心がない方、関心はあるが参加したことが無い住民を対象に気軽に参加できる環境を整え、運動を始めるきっかけづくりや運動の継続を促すものです。「心浮き浮き」をテーマに①「健康運動・スポーツ促進教室」と②「ノルディックウォーキング」の2つのプログラムを実施します。

開講式では、柴田町滝口茂町長より「健康に関心を持つ町民が増え、運動実施率が現在の41%から50%に高まり、健康タウンを宣言したい」とご挨拶をいただきました。遠藤保雄学長が「大切なことは楽しみながら気軽に、心浮き浮きして運動に取り組むことです」と述べました。出席された柴田町民約５０名の方々へ、小池和幸教授と高崎義輝教授からこれから始める2つのプログラムについて内容をお伝えし、健康体操やニュースポーツ・ノルディックウォーキングなど様々な体験をしていただきました。1人ではなかなか運動をできない方も、複数で一緒に運動することで楽しさや達成感を共有することができたためか、笑顔が絶えない時間となりました。今回出席していただいた方の中から、各プログラムに対しての質問や申し込みもあり、積極的な姿勢が伺えました。

「健康タウンしばた」の各プログラムを実施するにあたり、健康づくり運動サポーターをはじめ、学生も参加しております。住民の方々と会話などの関わりから楽しい時間を共有し、「運動は楽しい」「続けてみようかな」と感じてもらえるようサポートや運動指導もおこないます。

体育系大学としての専門的な知識や技術を活用し、これからも柴田町民の運動実施率が向上し健康な町づくりに発展できるよう尽力して参ります。

＜報告：松浦里紗新助手＞

スポーツ情報マスメディア学科3年の山崎雄太さん所属チームがJSAA Analytics Challenge Cupで優秀賞を受賞

JSAA Analytics Challenge Cup（主催：日本スポーツアナリスト協会）本戦において、スポーツ情報マスメディア学科3年 山崎雄太さん<弥栄高校(神奈川県）出身）の所属するチームが優秀賞を受賞しました。

本戦はエントリーした42チームのうち審査を通過した10チームが出場し、11月3日（土）から1泊2日の合宿形式で開催されました。出場チームはJリーグクラブの観客数増加施策の提言を目的として、初日に日産スタジアムでフィールドワークを実施。2日目のプレゼンテーションで山崎さんのチームは、大学生をターゲットとした集客施策を提案しました。

大会を終えて山崎さんは「今回のイベントを通して他のグループからも学ぶことが多く、とても貴重な経験になった」と、充実した表情で2日間の取り組みを語りました。

<スポーツ情報マスメディア学科＞

スポーツ情報マスメディア学科3年 山崎雄太さん

<弥栄高校(神奈川県） 出身）

第2回「楽天生命パーク宮城」スポーツ施設見学会

グラウンドの上で記念撮影（向かって左端が川田ボールパーク本部長）

草刈り機説明の様子

10月27日（土）に楽天生命パーク宮城において「スポーツ施設管理概論」及び「スポーツターフ管理概論」の授業の補講として第2回スポーツ施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性及び自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を習得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来、しかもスポーツ施設が安全に保たれる管理手法を身に付けられるように構成されております。県内にあるスポーツ施設【グランディ・21、ユアテックスタジアム、表蔵王国際ゴルフ倶楽部、泉パークタウンゴルフ倶楽部、楽天生命パーク宮城など】を実際に見学して実務経験の不足を補いながら知識習得を促進するものであります。

今春に仙台大学と楽天野球団との間で締結した（担当：池田敦司ＩＲ部長）アカデミックパートナーシップの一環として、楽天生命パーク宮城の見学会は2回目の開催となりました。担当の小島文雄非常勤講師（兼体育施設管理コンサルタント）の引率の下14名（前回は60名参加）の学生が参加いたしました。

はじめに、株式会社楽天野球団ボールパーク本部長　川田　喜則　氏より楽天野球団の経営戦略、スタジアムのコンセプト、安全管理体制に関する講義を受け、その後球場や管理施設を見学し、実際に使用しているグラウンドの天然芝生の生育状態を観察したり、グラウンド整備の機械を視察したり、見聞を広めました。

参加した学生からは「サブエアシステム等沢山の事を学ぶことが出来て大変良い経験になった」、「普段見る事が出来ない天然芝生管理施設やシステムを学ぶことが出来て貴重な体験が良かった」、「連鎖的に満席になるように少しずつ施設の規模を拡大したり、工夫を凝らした施設を企画したりしている経営戦略を聞き知識も増えて有意義な時間を過ごすことが出来た」などと感謝の声がアンケートに記載されていました。

＜報告：小島文雄　体育施設コンサルタント＞

「留学生ｳｪﾙｶﾑﾊﾟｰﾃｨｰ」を開催しました

遠藤保雄学長の挨拶

留学生と交流を深める様子

後期より、台湾・台東大学５名、韓国・龍仁大学校４名、中国・瀋陽師範大学２名、中国・上海体育学院２名、タイ・シーナカリンウィロート大学２名の留学生を新たに本学に迎えたことから、１０月３１日（水）に学生食堂なちゅらで「留学生ウェルカムパーティー」を開催しました。 パーティーには、教職員や学生も多数参加し、交流を深めました。また、参加した留学生等からさまざまなパフォーマンスが披露され、会場が大いに盛り上がりました。

＜国際交流センター＞

駐日ベラルーシ特命全権大使ルスラン・イエシン氏が来学されました

記念写真

剣道場の見学時

11月8日（木）駐日ベラルーシ特命全権大使ルスラン・イエシン氏が来学されました。初めにLC棟で、今年の7月30日に第5体育館で行われたベラルーシ新体操ナショナルチームの公開演技会や昨年行われた開学50周年記念式典の様子を観ながら、運動栄養学科の学生が考案した東北6県弁当に舌鼓を打ちつつ、昼食後は25記念館の栄養管理システムやC棟3階の人工気象室と低酸素環境室、第3体育館のトレーニングセンター及び剣道場、第4体育館のATルームなど、本学の整った施設をご見学頂き、有意義な一日となりました。

イエシン氏はベラルーシ国立体育スポーツ学院と2002年以来、新体操を通じて国際交流を続けてきた仙台大学について理解を深められ、2020年のオリンピックにむけてのホストタウン交流の重要性を再確認し帰途に着かれました。

蔵王町より朴澤理事長・学事顧問が表彰されました

感謝状

学校法人 朴沢学園
理事長 朴澤泰治 殿

貴学園は本町が招いたパラオ共和国女子柔道オリンピック強化選手の指導及び施設使用に協力されるなど本町のスポーツ振興に貢献された功績は他の模範とするところであります
よってここに記念品を贈り深く感謝の意を表します

平成三十年十一月九日

蔵王町長 村上英人

11月9日（金）蔵王町古里文化会館にて、今年の7月に蔵王町招へいのパラオ共和国女子柔道オリンピック強化選手のキーシャ・トゥーロップ選手が本学で強化合宿を行い、指導等に協力するなど、スポーツ振興に貢献された為、蔵王町より篤行者に対する感謝状が贈呈され朴澤理事長・学事顧問が表彰されました。

元サッカー日本代表平山相太さんの船岡中学校での講演

講演中の様子

11月12日（月）柴田町立船岡中学校にて、元サッカー日本代表平山相太さん（体育学科1年）が全校生徒約450名の前で「七転び八起き」と題して講話を行いました。

平山さんは「ですます調での話し方では距離があるので普段通りに話をします」と始め、自分の生い立ちやサッカーを始めたきっかけ、小学校からプロサッカー選手を終えるまで良かったことも辛いこともたくさんあり、その経験の中で「自分に自信を持ってあきらめず信じることが大切」ということを講話の中で伝え、平山さんにとってのサッカーという存在について話をしました。

最後には、生徒たちに「自分を好きになって、自分の好きなことを周りから何を言われても、100%でやってほしい。自分の人生は自分のもの。自分の人生を自分で楽しんで日々を過ごしてほしい」というメッセージを残し、講話は終了しました。

その後、行われた質疑応答の時間では、平山さんが生徒たちと友達のように話す様子に笑顔が溢れ、大きな賑わいを見せていました。

今回の講話で、今を一生懸命生きている生徒たちにとって、将来を考える大きなきっかけとなりました。

<教職支援室>

スポーツ情報マスメディア学科：スポーツ情報戦略実習を実施

スポーツ情報マスメディア学科2年生を対象に開講している「スポーツ情報戦略論実習Ⅰ」。本年度も全日本バレーボール高等学校選手権大会 宮城県代表決定戦の期間中（10月25日（木）～27日（土））に、宮城県総合運動公園施設（宮城県利府町）で2泊3日の実習を実施しました。本実習は、スポーツ情報戦略活動を実践的に経験することを目的としています。

この授業は、「競技フィールド系」と「地域スポーツ・政策支援系」の2グループに分かれて活動します。競技フィールド系はデータバレーを用いて全試合のデータを収集し、地域スポーツ・政策支援系は現場で取材および撮影した情報を基にニュースレーター発行と映像の放映を行いました。実習を終えて現在は、テクニカルレポートと次回大会に向けた提案書の作成に取り組んでいます。

＜スポーツ情報マスメディア学科＞

「地域スポーツ・政策支援系」

「競技フィールド系」

健康づくり運動サポーター事業上級実習を実施しました

健康づくり運動サポーター事業は、運動指導者を養成するプログラムで学内独自の認定資格であり、取得には養成講座終了後、初級は体験実習、中級は指導実習、上級は地域のイベントを企画・運営・管理する実習をおこないます。 今回は健康づくり運動サポーター上級実習として、本学の学生4名がイベントの計画から実施までをおこないました。

10月21日(日)に船岡生涯学習センターで、柴田町第12A区行政区民を対象とした「第4回 健康まつり2018」を開催しました。“健幸の花を咲かせよう”をコンセプトに子どもから高齢者まで幅広い年齢層が健康について学び、地域交流や学生交流を通し笑顔を咲かせるまつりにすることを目的に実施し、健康まつり2018を担当したリーダーの四日市綾香さん(運動栄養学科4年)は、「実習を通して自分自身のレベルアップにつながりました」、忠鉢礼菜さん(大学院2年)は、「学生生活で滅多にできる経験ではなく、自分の将来に繋がるとても良い機会でした」と話してくれました。

12A区　集合写真

11月4日(日)は槻木体育館で、柴田町第16区行政区民を対象とした「第9回 秋の健康収穫祭 みんなこっちさ、ございん～」を開催しました。自分のからだについて学び、楽しみながら健康づくりを継続し、世代間交流を通して地域の絆を深めることを目的に実施しました。秋の健康収穫祭を担当したリーダーの鈴木萌子さん(健康福祉学科4年)は「イベントを成功させるためには、地域の方や大学関係者の団結が大切だと感じました」、引地あゆみさん(健康福祉学科4年)は「企画を運営するにあたり準備の大切さを学び自分自身の成長に繋がりました」と話してくれました。

16区　活動の様子

両イベント運営は、区長はじめ各行政区役員、柴田町福祉課、柴田町地域包括支援センター、槻木包括支援センター、小池和幸教授、松浦、田中、蘇の各スタッフ、健康づくり運動サポーターの学生合計31名によって行われ、大きなケガや体調を崩す方も出ず、たくさんの笑顔に溢れ、とても明るい雰囲気で開催することができました。今後も、たくさんの笑顔や笑い声に溢れ、健康について関心の深められるイベント運営ができるよう、学生のサポートをおこなって参ります。

＜報告：田中　亨新助手＞

楽天イーグルス・アカデミーコーチが講義を行いました

平成30年度集中授業「スポーツ指導の基礎」（担当：武石健哉准教授）において、11月23日（金）本学OBである東北楽天ゴールデンイーグルス・アカデミーコーチ坂下達徳さんに講義をいただきました。
坂下コーチは平成18年体育学部体育学科卒業、在学中は硬式野球部で副キャプテンを務めています。
ミッション、ブランドや指導・コーチングの現場における重要な視点、後輩である仙台大学の学生が社会に出るにあたって先輩として注意しておきたいこと等ご自身の経験に基づく知見に関して、熱く講義をしていただきました。
　受講した学生からは、「現場で実際に指導している方のお話が聞けて貴重な経験でした」「原理原則が重要なことが分かりました」といった声があがっておりました。

本学OBである東北楽天ゴールデンイーグルス・アカデミーコーチ坂下達徳さん

仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲームを開催

　11月25日（日）「仙台大学Presents 仙台89ERSホームゲーム」仙台89ERS vs 愛媛オレンジバイキングスの試合がゼビオアリーナ仙台で開催されました。
　仙台大学ブースでは、本学マスコットキャラクターの「エスユーウォー」が来場者をお迎えし、学生によるキーホルダーの配布や写真撮影など大盛況となりました。
　仙台89ERSチア・体育学科のKANAEさんによるTip Offセレモニーによってスタートし、ハーフタイムには、新体操競技部による美しい演技で観客を魅了しました。

記念写真

　試合は１ゴールを争う白熱したゲームとなり、大きな歓声のなか仙台89ERSが74対72で勝利し、試合後に行われたＭＶＰ賞表彰では、運動栄養学科4年・新体操競技部の高橋葵さんがプレゼンターとなり、仙台89ERSの阿部潤選手に本学が様々な健康効果に関する実証研究を行っているアイリスオーヤマ社製の「体幹ストレッチコアトレーナー」がプレゼントされました。
　今後も仙台89ERSとの連携をさらに深め、スポーツ栄養やスポーツ情報分析、スポーツコーチングなど多岐にわたる分野で、プロの現場での実践的な 学習や人材育成、チームや選手の補助の機会を提供して参ります。
＜報告：事業戦略室＞

スポーツ局開局記念サッカー対抗戦開催しました

　11月18日(日)、仙台大学のスポーツ局開設を記念して、11:00から仙台大学サッカー場にて仙台大学男子サッカー部対東北大学の対抗戦、15:00からは仙台大学女子サッカー部対常盤木学園高校との試合を開催しました。
◇試合結果
　仙台大学男子サッカー部6-0東北大学
　仙台大学女子サッカー部2-3常盤木学園高校

　この試合はスポーツ局開設記念試合として、選手は地元の子供たちによるエスコートキッズとともに入場、ハーフタイムには、仙台大学新体操競技部やチアリーディング部の演技披露、サッカー部有志によるアトラクションを行い試合を盛り上げ、2試合合計で384名の観客の方から熱い声援をいただきました。
また、試合をインターネットにてライブ配信を行い、1,800PVと多くの方々にご覧いただきました。
　今回ご協力いただきました東北大学・常盤木学園高校の皆様、ありがとうございました。

Maui Invitational視察報告

「ワァー！」という大きな歓声がハワイ州マウイ島にあるおよそ2,500人収容の小さなアリーナ、Lahaina Civic Centerに響き渡る。その大歓声のもとにいたのは、Gonzaga大学男子バスケットボールチーム選手とチームスタッフ一同であった。

去る11月19日から21日までの3日間、アメリカ合衆国ではThanksgiving week（収穫祭）にあたる週に、Maui Invitationalと呼ばれるカレッジバスケットボールトーナメントが開催され、朴澤理事長・学事顧問と高橋が視察した。そのトーナメントは、ハワイ州ホノルルにあるNCAA Division IIのChaminade大学がホスト校として1984年よりおこなっている歴史の深い大会である。また、ESPNという全米でも1・2を争う大規模なスポーツテレビ局が放映権を持っており、アメリカ全土で放映されている。ハワイ州のローカルスポンサーも多くついており、この大会の運営をサポートしている。アリーナ周辺では、多くの大会グッズ（Tシャツ，ショーツ，バッグ，サインボールなど）を販売しており、それらは即完売という人気ぶりで、バスケットボールシーズンが始まってすぐの11月下旬に開催されるトーナメントとして全米で”the best in-season tournament in the country”と言わしめる大会となっている。観戦チケットも入手困難で、チケット販売開始時は＄100～200で販売されていたチケットが、大会が始まる直前になるとプレミアが付き、その値段が＄1,000近くまで跳ね上がるという話を聞くほどである。34年間という長い間大会を運営し続けられる理由は、その大会の人気と多くの収益にあるのだろう。

2018-2019シーズンの今大会は、Arizona大学，Auburn大学，Duke大学，Gonzaga大学，Illinois大学，Iowa State大学，San Diego State大学，Xavier大学の全米でもトップクラスの8チーム（アルファベット順）が参加し、Gonzaga大学が決勝戦で強豪校Duke大学を撃破し、優勝を飾った。大会中の熱戦とその盛り上がりは、想像をはるかに超える興奮を観客に与え、全米でも話題沸騰の大会となっていた。そして、その大会を通してMVP選手に選ばれたのが、明成高校卒業後、遠く日本を離れ、米大学への留学を決意して3シーズン目となる八村塁であった。Gonzaga大学に所属する八村のその存在感とチームへの影響力は、目を見張るものがあり、とても誇らしかった。彼のワンプレーワンプレーには、常に魂が籠っていた。大会終了後に八村本人に話を聞いてみたところ、「まさか自分がMVPを取ることができるとは全く期待しておらず、自分の名前が呼ばれたときはなぜ呼ばれたのか最初は把握できなかったです。MVPを取れたことはとても嬉しいことだけど、でもこれはチーム全体で勝ち取ったMVPで自分の力だけではないです。自分はチームメイトやスタッフにとても恵まれています。」と語っていた。Gonzaga大学に入学して3シーズン目となる今シーズン。八村は、チームと共に全米大学バスケットボールの頂点を目指し、またその先の自らの未来を切り開くべく、今シーズンに全精力を注ぐ意気込みが感じられた。今後の彼の成長と活躍を期待し、みんなから愛される選手になるよう応援を続けていきたい。

＜報告：髙橋　陽介講師＞

主な情報源：公式ウェブサイト　http://mauiinvitational.com

第11期卒業生「還暦同期会」開催
～島根県から北海道まで43名が参会　大いに旧交を温める～

仙台大学卒業第11期生の還暦同期会が11月24日（土）に43名の出席の下、盛大に開催されました

この会は、還暦という人生の節目を機に卒業生が一同に会し懐かしい友や恩師と再会し、お互いの近況を語り合い旧交を温めることなどを目的として、第8期生の同期会から始まり今回で４回目の開催となりました。当日は14:00に大学に集合し、まずは38年ぶりの再会を懐かしみ自己紹介をした後、事務局員の説明を受けながらの施設設備の見学。当時から現存の第１、第２体育館、応援練習での伝説のＣ棟3階の階段教室に当時を想起し、震災後復興された屋内プール、第3・第5体育館の最新のトレーニング施設や体育館、陸上トラック等大きく発展した母校に驚嘆と羨望の思いをいだきました。

16:00からは船岡駅前のホテルに会場を移しての懇親会。同期生35名に朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長はじめ来賓、恩師等8名の計43名の参加者で開催されました。久しぶりに再会した部活動仲間や友人、恩師との話に盛り上がりステージ上での自己紹介で出る当時のエピソードに笑いと拍手が起こるなど時間たっぷりと旧交を温め合いました。最後に校歌を声高らかに歌い、参加者代表のエールで会を締めてお開きとなりました。その後、近くの居酒屋へ総移動しての二次会も、苦楽を共にした仲間との語らいは尽きることがありませんでした。

＜報告：同窓会事務局＞

硬式野球部による学童野球交流会を開催

学生が指導を行う様子

11月24日（土）、柴田球場にて柴田町内・隣接町の学童野球チームや野球の大好きな子供達、約120名を対象に本学の硬式野球部が野球交流教室を開催しました。

学童野球交流会は、野球に親しみ、野球ができる喜びを実感して欲しいという地域貢献を目的として行われ、ボールの取り方やバッティングの打ち方はもちろん、ボールやバットの握り方といった基礎から丁寧に指導しました。

参加した子供達も、「お兄ちゃんたちみたいになりたい」「初めて体験したポジションも楽しかった」など目を輝かせていました。

＜報告：硬式野球部＞

楽天イーグルス管理栄養士の講義を行いました

講義の様子

11月30日（金）「キャリアプランニングⅠ」の授業において、東北楽天ゴールデンイーグルスの長坂聡子氏に来学いただき、運動栄養学科１年生を対象に講義をいただきました。

長坂聡子氏は、東北楽天ゴールデンイーグルス チーム統括本部コンディショニング部に所属、管理栄養士・公認スポーツ栄養士の資格を持ち、全選手の栄養サポートを担当されています。

講義においては、ご自身が栄養士を目指したきっかけや、どのようにして専門技術を身に着けていったか、そしてプロ野球のみならず、フェンシングや陸上競技など様々な競技のアスリートの栄養サポートをした経験を伝えていただきました。特に、そのキャリアの中で培った「栄養サポートを行う上で重要なこと」については、聴講した学生も熱心にメモを取っていました。

聴講した学生からは「アスリートを支えている栄養サポートの仕事がハッキリと分かった」「自分も管理栄養士を目指しているので、今から何を身に着けていけば良いのかが良く分かった」といった感想があがっていました。

＜報告：池田敦司教授＞

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.8

今回は、川平ATRによる教育活動について紹介致します。　　担当：助手　小野　勇太

先月号でも紹介させていただきましたが、私達はアスレティックトレーナー(AT)として、またはストレングス&コンディショニングコーチ(S&Cコーチ)として、専門分野について教育しています。10月～11月は、特に我々による授業が多い月となり、「テーピング(膝関節)」「上肢・下肢の筋肉と骨」「スポーツ傷害」「トレーニングの基礎」「トレーニング論」「レジスタンストレーニング」「栄養基礎・スポーツ栄養」といった各テーマを題材として展開し、(写真①、②)専門用語だけでは、高校生には理解が困難となりやすい事を踏まえ、講義では、自身の競技に置き換えて考えるアクティブラーニング形式を随所に導入し、楽しみながら専門的知識を学べるように工夫しています。新しい発見や、普段の運動で行っていたことの目的を再認識することは重要です。普段、練習を指導する監督やコーチの方々に加え、我々のような専門家の指導が加わることで、各々の競技の専門性が高まることを期待しています。

①AT授業(膝関節テーピング：実技)

②S&C授業(トレーニング論：講義)

また、川平ATRが対象とする特定研究指定部活動に対して、年4回計画している傷害予防講習会(第3回目)を開催しています。今回のテーマは「感染症と緊急対応について」です。(写真③)
秋冬にかけて、風邪やインフルエンザを始めとした感染症の流行が多い時期となるので、その予防や対策方法に加え今回は「緊急対応」についても触れています。基本的には、各部活動現場に指導者である大人がいる必要がありますが、必ずしも指導者や我々ATがその現場にいるとは限りません。緊急時にどのように行動すべきなのかを再認識するために、この講習会を通して確認しています。高校生が救急法を実践するわけではありませんが、その場にいる学生達がパニックに陥ってしまったりすると、初動が遅れてしまい、緊急時の最悪な結果を招くことがあり得ます。緊急時はいつ、どこで起こるかわかりません。川平ATRでは、「高校スポーツの安全を守る」を念頭に活動していますので、競技力向上は当然重要視していますが、何より「命」に関する点への教育活動を忘れずに今後も教育活動の充実を図っていきます。

③傷害予防講習会(感染症・緊急時の対応について)

SPORTS FOR ALL ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.152 / 2018 .DEC

「ながら見守り隊」の委嘱状交付式を開催

記念写真

12月10日（月）、本学LC棟を会場に、大河原警察署及び大河原地区防犯協会連合会（柴田町・大河原町・柴田町・村田町の4町連合）から「仙台大学ながら見守り隊」の委嘱状交付式がありました。「ながら見守り隊」とは、今年5月に新潟市で小2児童が連れ去られ殺害された事件を受け、下校時の子どもの安全をどう確保するかが課題になっており、大河原警察署と大河原地区防犯協会連合会が本学へ協力を求めてきたものです。具体的には、本学2,500人の学生の視線を「こどもを見守る視線」に変え、買い物をする際の外出、登下校、部活中の移動、散歩などこれまでの生活パターンを変えることなく「○○○しながら」、「こんにちは」などの声掛け、不審者発見時や、子どもが助けを求めてきた場合の110番通報などの「ながら見守り」を実施するというものです。10月には本学卓球部の女子学生2名が、2歳の子どもが裸足で、1人で歩いているところを発見、保護し、速やかに保護者を探すとともに、警察へ通報しました。両名はこの機転に対して大河原警察署から感謝状を頂いており、まさしく「ながら見守り隊」の実践事例となりました。今後も2,500人、5,000の目で地域の安全安心に貢献し、地域から期待される大学を目指したいと思います。

＜報告：学生部・学生支援センター＞

委嘱状

学校法人仙台学園
仙台大学 殿

柴田郡内における子供たちの安全と笑顔を守るため貴大学学生二、五〇〇名を「仙台大学ながら見守り隊」に委嘱します

平成三十年十二月十日
宮城県大河原警察署長 警視 小野寺 健
大河原地区防犯協会連合会
会長 菊 清志

〈 目 次 〉

・「ながら見守り隊」の委嘱状交付式を開催	1
・栗木教授・橋本教授がジュニアアスリート育成セミナーに登壇しました ・就活キックオフセミナー第4回戦を開催しました ・ゼビオスポーツパークあすと長町にて、運動と栄養プログラム実施	2
・柔道部：仙台大学「柔道」で世界へチャレンジ -出場した2つの国際大会 ・水泳部：宮城県FGST四大学対抗水泳競技大会 男子総合優勝 ・体操競技部：仙台大体操陣、圧巻の強さ	3
・「仙台大学教育実習懇談会」開催報告について ・「平成30年度 健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催 ・「平成30年度仙台大学親睦会総会・忘年会」が開催されました	4
・9年連続でJリーガー誕生！男子サッカー部の金子優希選手がJ３ヴァンラーレ八戸に加入することが内定 ・「2018年 クリスマス会」を開催！	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.9	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通 0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

粟木教授・橋本教授がジュニアアスリート育成セミナーに登壇しました

12月15日（土）、スポーツコミッションせんだいが主催（共催：仙台市・仙台大学）する「平成30年度ジュニアアスリート育成セミナー野球編」が仙台市泉総合運動場会議室にて開催され、本学の粟木一博教授、橋本実教授が講義を行いました。このセミナーは仙台市の小中学生に野球を指導する指導者、保護者を対象に、精神面・肉体面での身体づくりが重要なジュニア年代に関する正しい知識と指導方法を学んでもらう趣旨で、当日は80名余りの指導者、保護者が参加いたしました。

粟木教授は「試合でいつも通りの力を発揮する方法」のテーマで、ジュニア年代がスポーツに取り組むに当たって、動機づけや目標設定の仕方、こころのコンディショニングに関するコーチの役割について講義を行いました。

橋本教授は、「育成期に留意すべきスポーツ障害の特性と対応」のテーマで、年齢による発育速度の違い、体力の発育時期を踏まえた運動指導方法や、発生しやすいスポーツ障害と発生時の対応方法について講義を行いました。

参加した指導者・保護者からは「アイシングの効果とは？」といった実践的な質問が出るなど、参加者はみな熱心に受講していました。

＜報告：池田敦司教授＞

セミナーの様子

就活キックオフセミナー第4回戦を開催しました

11月27日（火）に3年生を対象とした「就活キックオフセミナー第4回戦」を開催いたしました。今回のテーマは「エントリーシート・履歴書の書き方②」とし、添削ワークを利用して、採用担当者が見ているポイントや魅力的な書き方について、就職関連業者の専門講師から講話を受けました。

冒頭に学長から、採用に結び付けるためにエントリーシートは重要となるので、早めに準備を進めてほしい、と激励いただきました。

受講生からは、エントリーシートや履歴書の重要性を再確認し、真剣に取り組む姿勢が見受けられ「具体例やNGワードが聞けて良かった」「提出時のマナーは知らなかったから活用したい」等の感想が寄せられました。

引き続き、入試創職室では学生がよりよい就職活動ができますよう、サポートしてまいります。

＜報告：入試創職室＞

セミナーを真剣に聴講する受講生

ゼビオスポーツパークあすと長町にて、運動と栄養プログラム実施

12月1日（土）10:30～ゼビオスポーツパークあすと長町×仙台大学運動栄養学科協力企画を実施し、「ケガをしない、ケガに強い子どものからだづくり運動と食事」と題し、軽い遊び運動体験と成長期の子どもの食事についてリーフレットや展示物による情報提供を行いました。当日参加制にもかかわらず日頃、サッカーや野球、水泳などの運動をしている11家族14名のお子さんが出席して下さいました。

飲み物に含まれる糖質の量に親子で驚いたり、お子さんたちは、学生たちの優しい指導によって上手に遊ぶことができるなど「たのしかった」と感想を頂きました。

＜報告：運動栄養学科＞

家族で運動を楽しむ様子

柔道部：仙台大学「柔道」で世界へチャレンジ -出場した2つの国際大会

済州cup国際柔道大会に出場した選手

12月8日（土）韓国の済州市で毎年行われる済州cup国際柔道大会に仙台大学が特別に招待され、に柔道部女子6名が大会に出場しました。大学女子の部に出場した部員たちは気迫のある戦いで、5階級のうち、52kg級笹原優希(現代武道3年)、63kg級高橋仁美(体育3年）、78kg級土佐真紀子（現代武道2年）の3個の金メダルをはじめ、銀メダル1個、銅メダル1個を獲得しました。ほとんどが海外での国際大会は初出場で、その独特の雰囲気を味わった部員たちでしたが、表彰式では安堵した表情をみせました。大会は韓国をはじめ、香港、モンゴル、マカオなどの国からも参加があり、これからますます大きな大会になっていく雰囲気を感じました。

試合場が急遽、変更されることや、計量会場のインフォメーションがなかったことなど、日本での大会よりも情報が伝わりにくい中でも逞しく行動していかなくてはならないことなど、今後、世界で活躍する為の貴重な大会参加となりました。

また、9月に行われた全日本学生体重別選手権大会57kg級3位の実績を評価され、12月1日（土）に全日本学生柔道連盟の派遣で、アジアオープン香港大会に日本代表として飯塚亜美(現代武道3年）が参加しました。
この大会は、世界ランキングのポイントを獲得できる国際柔道連盟が主催する公式大会でしたが、惜しくも初戦で優勝をした香港の選手に技ありで負け、入賞とはなりませんでした。
両大会を通じて、学生たちが世界で活躍する為の足掛かりとして貴重な経験となり、これを機に、更なる活躍を期待しています。
＜報告：柔道部＞

水泳部：宮城県FGST四大学対抗水泳競技大会 男子総合優勝

記念写真

12月9日（日）、セントラルスポーツ宮城G２１プール（利府町）にて開催されました「第7回北部学生冬季公認記録会兼第27回宮城兼FGST四大学対抗水泳競技大会」にて、本学水泳部男子総合優勝，女子総合準優勝致しました。男子総合優勝は13年ぶり8回目となります。

本大会は各大学とも新チームとなってシーズン最初の大会と言うこともあり、東北はもとより北海道からも多数選手が参加しており、次年度を占う意味でも重要な大会となりました。特に北海道勢が勢い良く大会新記録を次々更新していくハイレベルなレース展開の中、奥崎健太（体育学科2年）も負けじと200m個人メドレーで大会新記録を樹立するなどして応戦して着実に得点を伸ばしていきました。

男女ともに各種目で得点を重ねた結果、総合順位こそ上げましたが、選手個人で見ると課題も多く見つかった大会でもありました。年内最後の大会を終え、これから冬季のトレーニングに入ります。3月の関東冬季公認記録会でインカレ出場権を獲得できるよう、しっかりトレーニングに励みます。
＜報告：水泳部＞

体操競技部：仙台大体操陣、圧巻の強さ

表彰の様子

12月2日（日）第50回東北・北海道学生体操競技選手権大会が本学の第3体育館で行われ、男子、女子団体とも制しました。

個人総合も男子の玉利敦（1年）、女子の道林千咲希（2年）が優勝し、種目別は男女の全種目で仙台大勢が1～3位を独占しました。

大会には本学のほか、北翔大、弘前大、東北大、宮城教育大が参加し、選手たちは来年度の飛躍に向けて日ごろ鍛えた技を競いました。

また会場について、他大学から参加した選手たちからは「とても演技しやすい。練習環境が整っている」とお褒めの言葉を頂きました。仙台大勢は今回の成績を弾みに悲願の「日本一」へまい進します。
＜報告：体操競技部＞

「仙台大学教育実習懇談会」開催報告について

懇談会の様子

毎年、教員を目指す本学生の教育実習を実施していただいている宮城県内の指定校・協力校の小中学校及び高校の校長先生や実習担当者等との懇談会が、12月7日（金）に行われました。この会は、母校実習以外で教育実習に協力をいただいている県内の学校から校長先生や関係教員の方より、本学学生の教育実習の様子や課題などについてお話しいただき、本学の今後の教員養成の改善に繋げるため毎年実施しています。今年は、29校の先生方に出席いただき、本学からは、遠藤学長と朴澤理事長をはじめ、9名が出席いたしました。
先ずは、金井教職支援センター長から平成30年度仙台大学の教育実習の概要について説明を行い、次に仙台大学における教員養成の現状についてプロジェクタースクリーンを使用しながら話しました。
引き続き、指定校・協力校・通信制とそれぞれ異なった立場からの、教育実習の指導や学生への要望などに対する意見交換が行われ、出席者からは、本気で教員を目指す学生は教育実習においても元気で生徒たちの信頼も厚い一方、そうでない学生との意欲に差があるなどの声も聞かれ、最後に来年度の実習についての協力を要請し、閉会となりました。
＜報告：教職支援室＞

「平成30年度 健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催

認定証書を授与後、記念写真

12月4日(火)に健康づくり運動サポーターの認定証書授与式を開催しました。今回は平成30年度前期の資格認定評価会で認定された初級11名、中級1名に対して認定証書が授与されました。今回を含めこれまで延べ566名が本資格を取得してきました。初級を取得した越河栞理さん(体育学科4年)は「最初の実習ではうまくコミュニケーションをとることができなかったが、そこから1歩踏み出す勇気を学びました」。塩谷晃仁さん(健康福祉学科2年)は「コミュニケーションをとる難しさを知り、この経験を自分の夢である教員の道に活かしていきたい」。石垣美和さん(運動栄養学科2年)は「生涯健康で過ごすための運動指導ができる指導者を目指したい」と3名の学生が今後の抱負を述べてくれました。
この資格取得には、全10回の講義受講と地域の運動教室での現場実習や指導実習が必要となります。実際に地域の方々と関わりながら学生はコミュニケーション能力や指導力、ホスピタリティを身に付けます。
多くの学生がこの活動を経験し、「安全に」「元気よく」「楽しい」運動指導のできる実践力を身に付け活躍できるよう今後もサポートして参ります。
<報告：田中亨新助手＞

「平成30年度仙台大学親睦会総会・忘年会」が開催されました

朴澤理事長・学事顧問のご挨拶

12月7日（金）ウェスティンホテル仙台において、平成30年度仙台大学親睦会総会・忘年会が開催され、総会では、親睦会会長の遠藤保雄学長の挨拶、幹事からの年次・会計報告及び平成31年度の新役員が紹介されました。次に忘年会では早川幹事長の開会後、来賓として朴澤理事長・学事顧問のご挨拶、マーティー・キーナート上級研究アドバイザーの乾杯、その後は大抽選会を行った後、前田事務局長の閉会の挨拶を頂戴し、和やかなひとときはお開きとなりました。今年の親睦会は早川公康幹事長、佐藤周平先生、坪井俊樹先生、溝口絵里加先生、鈴木将士さん、鈴木美生さん、浅野勝成さんが担当しました。
1年間本当にお疲れ様でした。
来年は、新幹事長に末永精悦先生、渡邊泰典先生、高橋徹先生、荒牧亜衣先生、田上紳二郎さん、深谷螢位さん、田中亨さんが選出されました。
来年も、どうぞ宜しくお願い致します。

9年連続でJリーガー誕生！男子サッカー部の金子優希選手がJ３ヴァンラーレ八戸に加入することが内定

本学男子サッカー部の金子優希選手がJ３ヴァンラーレ八戸に加入することが内定しました。

【金子優希（かねこ ゆうき）選手プロフィール】

■ポジション：GK
■出身地：群馬県
■生年月日：1996年4月21日（22歳）
■身長/体重：183cm/81kg
■チーム歴：大野原SSS→鹿島アントラーズジュニアユース→鹿島学園高等学校→仙台大学

【金子優希選手のコメント】

「来季からヴァンラーレ八戸に加入させて頂くことになりました、仙台大学の金子優希です。これまで自分に関わって下さった全ての人に感謝し、チームの勝利のために全力で戦います。よろしくお願い致します。」

「2018年 クリスマス会」を開催！

12月18日（火）に学生支援センター主催でクリスマス会が行われました。

この会は、後期受け入れの留学生の紹介と、3月に卒業する留学生がいるため、日本人学生との交流の機会を作るために行われています。

参加者は以下の通りです。

・教職員27名　・留学生21名　・国際交流サークル学生1名　・外部講師1名
・ボランティア学生（語学支援・ノートテイク・キャンパスライフ・学校支援）10名

総計　60名

9月以降仙台大学に入学した留学生は、中国から4名、台湾から5名、韓国から4名で、会に参加した一部の留学生から一人ずつ、日本語で自己紹介をしてもらいました。

会場には、朴澤泰治理事長・学事顧問から頂いた食材を生かした料理や、遠藤保雄学長から頂いたケーキなどがふるまわれ、手作りで温かい雰囲気の中、大盛況でした。

また、毎年ノートテイク担当学生から手話ソングが披露されるのですが、今回は聴覚障がいを持つ職員及び学生と、その支援を担当する職員や学生、そして、日本文化の勉強に積極的な留学生も参加しました。このような取り組みは初の試みで、学生支援センターで関わりを持つすべての学生と教職員が担当や役割、国籍などの壁を越え、融合することでこれまでにない素晴らしい交流ができました。

この会を通して、学生支援センターの活動がより良いものとなっていくことを改めて感じられる有意義な時間でした。

◆聴覚障がいを持つ　大友　優花さん（運栄・2年）からのコメント

「いつも以上に、ノートテイクの学生や留学生と話す時間が多く楽しい時間を過ごせました。準備はバタバタだったけど、みんなが和気あいあいとパーティーをしていて◎（まる）です」

＜報告：学生支援室　大久保成実＞

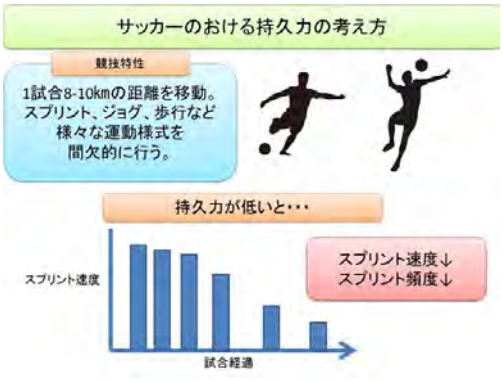
川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.9

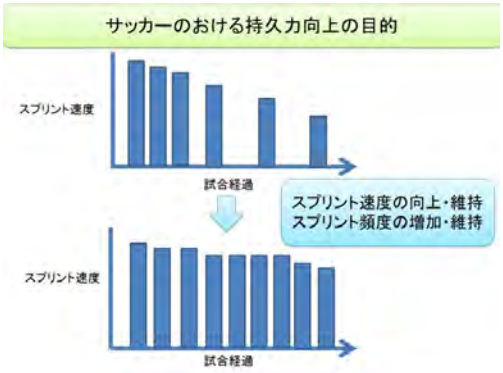
担当：浅野勝成助手

一般的にストレングス＆コンディショニング（S&C）コーチはウエイトトレーニング専門という認識があるかと思います。S&Cコーチはウエイトトレーニングを軸に選手の身体能力の向上をサポートしますが、それのみではありません。そこで今回は、女子サッカー部に指導しているランニングトレーニング（以下ラントレ）について綴ります。

サッカーは爆発的な瞬発力が求められます。瞬発力の土台は筋力であり、筋力の増強にはウエイトトレーニングが効果的です。一方で、ポジションの違いもありますが、1試合で8－10kmもの距離を移動することも特徴的です。移動の様式はダッシュ、ジョグ、歩行と様々で、高強度運動と低強度運動を繰り返すという間欠的なものです。従って、高い瞬発力を維持するため、インターバル間における高い回復能力を軸とした持久的能力が求められます。



持久力向上の手段としてラントレを用います。ラントレと聞くと、マラソンのような長距離走や片道30mを50秒以内で5往復などのシャトルランを複数回行うなどの「とりあえず長めの距離やダッシュを多くこなすような“キツイ運動”をしておけば持久力は付くだろう！」的な考えがあるかと思います。“トレーニング効果を高めるにはキツイものを”という“No Pain, No Gain”的な考えは危険です。一方で、高い効果が期待できるトレーニングは“キツくない”というわけでもありません。明確な目的を持ち、それを達成するための手段を的確に選択しなければなりません。サッカーにおける持久力向上の目的は、単発のスプリント速度の向上、その速度を後半まで維持、スプリント頻度の増加と維持となります。



実際のトレーニングでは、全速力のインターバル走を実施するのかと言うと、それだけではありません。オフシーズン初期（3－4週間ほど）は少し早めのランニングペースでシャトルランを行い、走りのフォームや減速・方向転換時の姿勢や足の使い方を習得します。その後に全速力のインターバルトレーニングを用います。ランニングペースから速度を漸増することで、肉離れ等の不要な傷害のリスクを軽減できます。ラントレを開始すると怪我が起きてしまうという場合は、急激な負荷の増加によるものが多いです。特に正月明けなどの長期的な休み後の練習・トレーニングで、全速力のスプリントを複数回行った結果、傷害が起きてしまうというケースもよく耳にします。

“キツさ”という指標だけを用いるのではなく、明確な目的を持ち、それを達成するための手段を遂行することが大事です。また、トレーニングや競技練習の負荷は急激に上げるものではなく、漸進性過負荷の原則に基づいて徐々に上げていくことが望ましいです。2019年もウエイトにラントレと様々なトレーニング様式を用いますが、それぞれに明確な目的設定と手段を用いて効果的な指導を展開していければと思います。

SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.153　/　2019 .JAN

文部科学省「情報ひろば」新体操競技の体験イベント

鈴木大地長官と記念写真

2月4日（月）文部科学省「情報ひろば」にて新体操競技の体験イベントを開催しました。今回の企画は1月4日（月）～4月19日(金）まで文部科学省「情報ひろば」旧省庁3階企画展示室で「世界に触れる」～東京2020オリ・パラ事前合宿ベラルーシ新体操ナショナルチームへの協力～と題し、ホストタウンとなっているベラルーシ共和国の取り組みを展示しており、そのイベント企画として催したものです。新体操競技の魅力について多くの方々に体験して頂くことで東京2020オリンピック・パラリンピックの普及や啓発の一助になればと実施しました。

この体験イベントでは鈴木大地スポーツ庁長官にもご来場いただき、河野未来講師による映像を使った新体操の紹介を行い、手具体験コーナーでは新体操競技部の阿部楓花さん（体育4年）・川口千尋さん（体育3年）が、訪れた方々を相手に、リボンやフープなどの扱い方の手ほどきを披露、鈴木長官を始め多くの方々に新体操の手具の扱いの難しさと、逆にちょっと慣れた後の扱いの醍醐味を体験いただきました。

ボールの手ほどきを受ける鈴木大地長官

多くの方々にご参加いただきました

〈 目　次 〉

・文部科学省「情報ひろば」新体操競技の体験イベントを開催しました	1
・文部科学省にて本学の取り組みを展示しています！ ・台東大学が蔵王スキー研修を実施しました ・エアリアル競技（フリースタイルスキー）の千葉隆人選手（スポ情2年）がユニバーシアード日本代表に選出	2
・DAN DAN DANCE ＆ SPORTS 15th を終えて	3
・4年連続なでしこリーグへ！女子サッカー部の越後希波選手がなでしこリーグ2部ニッパツ横浜FCシーガルズに入団 ・サッカー部金子優希選手（GK）のJ3ヴァンラーレ八戸FC入団会見を開催	
・楽天イーグルス チーム戦略室室長が情報分析の講義を行いました ・「ながら見守り隊」感謝状贈呈式について ・男子バレーボール部：V1リーグチームに契約アナリストとして帯同	4
・就活キックオフセミナー決勝戦を開催しました ・部・サークル活動における意見交換会を開催しました	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.10 ・本学園仙台地区キャンパス再整備(川平再整備事業)の「地鎮祭」を行いました	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

文部科学省にて本学の取り組みを展示しています！

文部科学省「情報ひろば」企画展示で、本学とベラルーシ共和国の取り組みを展示しています。
○テーマ「世界に触れる」～2020東京オリパラ事前合宿ベラルーシ新体操ナショナルチームへの協力～
○展示期間：平成30年1月4日（金）～平成31年4月19日（金）
○開館時間：月曜日～金曜日　10時00分～18時00分
（入館は17時30分まで　土日祝は休館）
○展示会場：文部科学省情報ひろば「企画展示室」　※入場無料
（東京都千代田区霞ヶ関3-2-2　旧文部科学省庁舎3階）
○主な展示物
パネル
・ベラルーシ共和国について
・ベラルーシ共和国と本学についての取り組み
写真
・新体操公開演技会写真
展示物
・2015年世界大会使用ユニフォーム
・事前合宿公開演技会DVD
・新体操各種目道具（ボール・フープ・クラブ・リボン・ロープ）
○展示背景
2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、仙台大学は、2017年6月に、ベラルーシ共和国のホストタウンとして協定を宮城県柴田町、白石市、ベラルーシ体操協会の4者で締結し、2017年から2020年にかけての事前合宿を実施する予定としています。これまでに行われた、過去2回の事前合宿中の公開演技会などをパネルや映像で「世界の美」として紹介し、2002年から始まった、これまでの本学とベラルーシ共和国の国際交流などの経緯についても掲示していきたいと考えております。
実際に「見て、聞いて、触れて」頂き、2020東京オリ・パラの普及や啓発の一助になれば幸いです。
皆様のご来場お待ちしております。

台東大学が蔵王スキー研修を実施しました

台東大学体育学院の温先生一行が、毎年実施している蔵王スキー研修で、仙台にやってきました。台湾では経験できないスキー体験を約一週間の行程で山形蔵王で実施します。名取教授の音頭で、仙台大学留学の経験があるOB・OG、現在、仙台大学に留学中の学生が集合し、スキー談義に花が咲きました。来週の仙台大学での柔道交流試合、学生の長期研修派遣、3月の陸上競技部投擲部門の合宿訪問と、台東大学との交流が佳境に入る直前のひとときでした
＜報告　朴澤理事長・学事顧問＞

エアリアル競技（フリースタイルスキー）の千葉隆人選手（スポ情2年）がユニバーシアード日本代表に選出

右から2番目千葉隆人選手（スポ情2年）

1月22日（火）にエアリアル競技（フリースタイルスキー）の千葉隆人選手（スポーツ情報マスメディア学科2年）が3月2日（土）～3月12日（火）まで行われる第29回ユニバーシアード冬季競技大会（クラスノヤルスク／ロシア）日本代表に選出されました。
エアリアル競技（フリースタイルスキー）は約55mの助走路を滑走し、キッカーと呼ばれる、高さ2m～4.2mのジャンプ台をジャンプし、空中で宙返りや捻りを行い着地までの演技で得点を競う競技です。
1月30日（水）には遠藤保雄学長を表敬訪問し、競技の魅力や開催国であるロシアについてお話申し上げ、「初めてのユニバーシアードですが、予選の2本をしっかりと着地し、決勝に進むことが目標です」と抱負を述べてくれました。
今後は大会に向けて地元でもある北海道で練習を行う予定です。

DAN DAN DANCE ＆ SPORTS 15thを終えて

オープニング　実行委員と有志の学生

公演を終えて…実行委員との記念撮影

本大学が主催しているダンス公演DAN DAN DANCE ＆ SPORTS(以下、DAN DAN DANCEと略す)は今年で15回目を迎え、2019年1月26日（土）にえずこホールで開催しました。節目となるこの公演で実行委員長を務めることになった私は、実行委員と共に会場を盛り上げ、観客をも巻き込んだ最高の公演になることを目標に日々、DAN DAN DANCEの事を考えていました。

昨年度のDAN DAN DANCEは、実行委員でありながら出演者としてダンスをし、自らの手で公演を盛り上げていきたいという実行委員一同の強い思いにより実現したものです。非常に楽しく、達成感と充実感に満ち溢れ、踊ることの楽しさを身もって感じることが出来ました。私自身、ダンスの経験が殆どありませんでしたが、DAN DAN DANCEがきっかけとなり、ダンスそのものや鑑賞することが好きになりました。私がこのような体験をしたことで、DAN DAN DANCEを通してより多くの方々にダンスの魅力を知ってほしいという考えや、実行委員長としての責任感から、今年度のDAN DAN DANCEにかける思いが非常に強く、加えて、事前準備では自分たちのダンス練習をしながら、座席表やタイムスケジュール等の資料作成や会場での打ち合わせを行い、公演がスムーズに進行出来るよう、当日に備えました。

公演前、誘導について確認し合う実行委員

本番当日、よい緊張感に包まれた会場の中でDAN DAN DANCEが開演しました。今年度の全体テーマは、「想創」(そうぞう)という想像と創造を掛け合わせた言葉にし、出演者の方々が「創造」した作品を「想像」しながら鑑賞して頂きたいという願いを込めました。また、全体テーマとは別に「Favorite～私の好きな言葉～」という作品テーマを設け、出演者の方々に作品を創作して頂きました。出演者は踊ることを通して自分たちの意志や思いを身体で表現し、観ている観客に伝えます。そして観客もただ「見る」のではなく、その作品にはどのような思いが込められているのかを考えながら「観る」ことに繋げたいと考えました。私は、この関係を築き上げることこそが、ダンスの魅力の1つであり価値であると思います。因みに今年度、私達実行委員はオープニングでは「最高のショーの始まり」、エンディングでは「自分らしさ」について作品を通して伝えようと披露し、このような私達の想いを少しでも観客の方々に感じてもらうことが出来ていたのであればと願っています。

私は今回の公演で、出演者のみならず観客の方々も非常に楽しそうに作品に見入っていらしたように感じており、今年度のDAN DAN DANCEも大成功を収めることが出来た証として、これからもDAN DAN DANCEを続けていく上でのモチベーションにもなるよう願っています。

一方、実行委員の仕事を振り返ってみると反省すべきことがいくつかあります。わたしたちは出演者であり実行委員でもあるという難かしい立場ではありますが、あくまでも実行委員として講演を運営・サポートし、それがしっかり出来たうえでダンスをするという、”バランスの取れた体制づくり”が大切だと感じました。私を含め4年生は今回をもって卒業となりますが、反省点を次に活かし、後輩たちが来年より良い成果をあげられるようこれからもサポートしていきます。

伝統ある本公演の重みを感じながら、有意義な時間を多くの方々と共有できたことは私の誇りであり、DAN DAN　DANCEを通し、仙台大学がダンスの楽しさや魅力をみなさんに
伝える発信源となるよう願っています。

DAN DAN DANCE ＆ SPORTS 15th 実行委員長
運動栄養学科4年　坂本　想

4年連続なでしこリーグへ！女子サッカー部の越後希波選手がなでしこリーグ2部ニッパツ横浜FCシーガルズに入団

この度、女子サッカー部の越後希波選手がなでしこリーグ2部ニッパツ横浜FCシーガルズに入団が内定しましたのでお知らせいたします。

【越後希波（えちご きなみ）選手プロフィール】
■ポジション：GK
■生年月日：1996年8月22日
■チーム歴：イーグレッド岩内（小学）ー小樽コルサリオ（中学）ー北海道文教大学明清ー仙台大学

【遠藤保雄学長のコメント】
本学、女子サッカー部の「守護神」であり、主将を務めた越後希波選手がなでしこリーグ2部ニッパツ横浜FCシーガルズに入団が内定しました。1年生の時から全日本大学女子選抜やユニバーシアード日本女子代表候補へ選出され、本学でもGKのレギュラーポジションを1年生から堅守してきた逸材。日本のみならず世界に羽ばたく選手になるよう期待しています。これまで育てて下さった関係各位に御礼申し上げます。

【黒澤尚監督（講師）のコメント】
おかげ様で今年も女子サッカー部からなでしこリーグへ選手を送ることができます。これは越後に小学から高校まで携わっていただいた指導者の皆様の指導の賜物です。そして、何よりも越後本人が目標の達成に向けて努力し続けた結果であると実感しております。越後には日本を代表する選手へさらに成長してくれることを期待しています。
また、私自身も今預かっている選手達が社会で逞しく生きていけるように責任を持って指導・教育していく所存です。

【越後希波選手のコメント】
「この度、ニッパツ横浜FCシーガルズに加入することができ、大変嬉しく思います。これまで支えて下さった方々に恩返しが出来るようプレーで体現します。そして、新戦力として自分ができることを最大限に出し切りニッパツ横浜FCシーガルズのゴールを守ります。
応援宜しくお願い致します。

サッカー部金子優希選手（GK）のJ3ヴァンラーレ八戸FC入団会見を開催

1月10日（木）サッカー部金子優希選手(GK）のJ3ヴァンラーレ八戸FC入団会見を開催しました。
会見で金子選手は「プロサッカー選手になるのが夢でした。次の夢は世界で活躍する選手になることです」と力強く抱負を述べ、本学卒業生でヴァンラーレ八戸FCの菅原公平統括本部長より「技術はもちろんですが、彼のまじめな人間性も素晴らしく、大いに期待しています」とコメントを頂きました。
また遠藤保雄学長は「本学を背負ってヴァンラーレ八戸FCに入団できることは幸せなことであり、同時に責任も重大であると思います。今後の活躍を期待しています」とエールを送り、サッカー部監督の吉井秀邦准教授は「競争の中でもがきながらも切磋琢磨し、その中でもコンスタントに力を発揮してきたことは、彼の人間力だと思います。これを武器としてプロでも活躍してほしいです」と述べました。
これで本学サッカー部は9年連続でJリーガー選手の輩出となり、GKとしては初の快挙となりました。

楽天イーグルス チーム戦略室室長が情報分析の講義を行いました

講義中の様子

1月9日（水）「スポーツ情報戦略論」（担当教員：石丸出穂スポーツ情報マスメディア学科長）の授業に、東北楽天ゴールデンイーグルス　チーム統括本部チーム戦略室 村田慎吾室長に特別講師としてお越しいただき、楽天イーグルスにおける情報分析に関し、講義をいただきました。
現在に至るまでのご自身の経歴から始まり、プロ野球球団における情報分析業務の役割と位置づけや、スポーツアナリストの仕事の概要等、情報分析に関して多岐にわたる内容をお話しいただきました。
講義の最後には質疑応答の時間を設け、「野球の試合の勝敗にもっとも影響を与えるデータは？」といった質問も出るなど聴講した学生は熱心に講義を聞き入っていました。
聴講した学生からは、「アナリストの仕事を具体的に知ることができた」、「情報分析が球団の中でどのように役に立っているのかが理解出来た」といった感想があがっていました。
＜報告　池田敦司教授＞

「ながら見守り隊」感謝状贈呈式について

感謝状を遠藤保雄学長に渡す、大山さく子学生支援センター長

表彰された卓球部女子学生2名

1月18日（金）大河原警察署において感謝状贈呈式が執り行われ、本学の「ながら見守り隊」の活動に対し感謝状を頂きました。このことは大変光栄であり感謝の気持ちでいっぱいです。
「ながら見守り隊」は、昨年、卓球部女子学生2名が町内の児童を保護したとして表彰され、新聞報道もあり学生の間でこのような日常的における気配りが地域の安全・安心に役立つことを認識するきっかけとなりました。
それ以降、学内において組織的に学生の生活を守る学生部、ボランティア活動を支援する学生支援センターが協力し、社会貢献としての対応、認識と気運が高まり、“さりげない・日常の見守り活動”として、本学約２５００人＝５０００の目で地域を見守ることの意義・大切さを改めて認識し、活動に取り組んでいます。
今後も大河原署や地域と連携を図りながら取り組んでいきたいと思います。
「ながら見守り隊」の活動は、本学の学生にとっても良い経験になると確信しております。
＜大山さく子学生支援センター長＞

男子バレーボール部：V1リーグチームに契約アナリストとして帯同

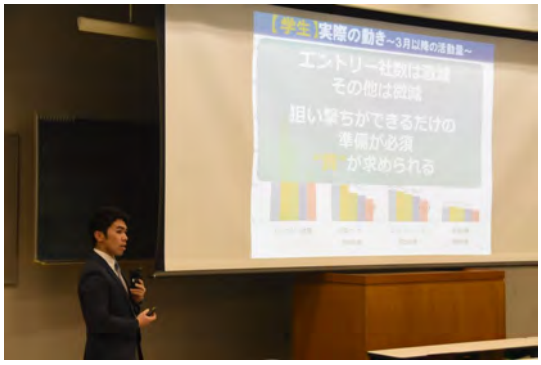
アナリストとして活動している中釜智哉さん

本学男子バレーボール部で、アナリストとして活動している中釜智哉さん（スポーツ情報マスメディア学科3年）が現在V.LEAGUE Division１（V1リーグ）に所属している大分三好ヴァイセアドラーに契約アナリストとして帯同しています。
中釜さんはチームに帯同し、試合でのゲーム分析やデータ収集を通してアナリストとしてのレベルアップに励んでおり、今回の研修で学んだことを本学男子バレーボール部ひいては今後の様々な活動にて還元することでチームの更なる強化とスポーツ情報分野の発展に貢献してほしいと思います。

〇中釜智哉さんのコメント

「トップリーグはレベルが高く、中々勝利に貢献することは難しく苦労しますが、勝てた時の感動と嬉しさは言葉には表せないです。トップレベルを経験しそこで得られるものがたくさんあり、仙台大学男子バレーボール部に還元していきたいです。」
＜報告：男子バレーボール部＞

就活キックオフセミナー決勝戦を開催しました



専門講師の講和の様子

セミナー中、真剣に取り組む受講生様子

1月23日（火）に3年生を対象とした「就活キックオフセミナー決勝戦」を開催しました。

冒頭に学長から激励いただいた後、就職関連業者の専門講師から今回のテーマである「合説直前セミナー～合同企業説明会の回り方・マナー～」について、合同企業説明会の基本的なことから、企業が何を見ているのか、話を聞くポイント、さらにはお願い言葉や立ち振る舞いなどのマナー等の講話を受けました。

受講生からは、いよいよ本格的に始まる就職活動に向けて、真剣に取り組む姿勢が見受けられ「説明会へ参加するマナーや準備の仕方を学べてよかった」「企業選択のポイントを参考にしていきたい」等の感想が寄せられました。

今後も、入試創職室では3月の解禁に向けて3年生全員を対象とした個人面談やSPI対策講座などを実施します。その他、学内合同企業説明会、首都圏就職弾丸ツアーなども企画しているので3年生の積極的な参加をお待ちしています。

＜報告：入試創職室＞

部・サークル活動における意見交換会を開催しました

意見交換会の様子

1月22日（火）本学LC棟1階フロアにおいて、「部活動・サークル活動における意見交換会」が開催されました。この意見交換会では、仙台大学の部活動をより発展させていくための意識共有と意見交換が目的で、本年度に設立されたスポーツ局が主催し実施しました。

会場には43の部・サークルからの部長、監督、コーチに加えて、部活動を支える「アスレティックトレーナー」「ストレングス＆コンディショニングスペシャリスト」「運動栄養サポート研究会」「スポーツ情報サポート研究会」の4分野から46名の関係者が出席しました。

交換会では、鈴木スポーツ局長の司会進行により、朴澤泰治理事長・学事顧問の挨拶に始まり、遠藤保雄学長の挨拶に続いて、大学スポーツの活性に向けた内外の取り組みに関する報告がなされました。

最初に、「大学スポーツ協会（UNIVAS）の設立と加盟大学に提供すること」、続いて仙台大学のスポーツ戦略として「競技力の向上に向けたTop Athlete Group戦略」「部活動運営の充実化を目指すMaking Career Program戦略」の方針が示され、それに対して各部・サークル活動の代表者から意見・感想や改善提案等、多くの意見が出され活発な意見交換会となりました。

今回が初の試みとなりますが、今後もこのような意見交換を積極的におこなってまいります。

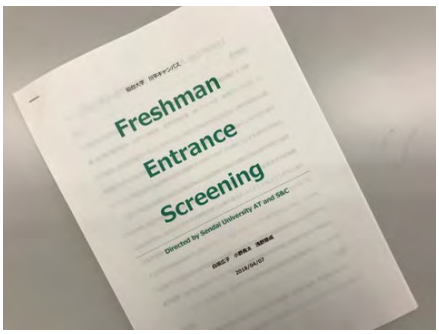
＜スポーツ局＞

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.10

担当：白坂広子助手

①新しい取り組み、FESについて



明成高校には毎年400名弱の生徒が入学し、多くの生徒が運動部活動に所属します。川平ATはスポーツ傷害の対応を日々行っていますが、傷害評価をするときに「この状態では怪我が起きても仕方がなかった」「起こるべくして起こった怪我」と感じることが頻繁にあります。柔軟性不足、筋肉量不足、筋力不足や不利な骨形態は怪我の要因になりますが、生徒本人たちや指導者はこの傾向を知らないまま練習していることがほとんどであり、弱点を知らず改善されることがないまま競技練習を重ね、スポーツ傷害が発生してしまいます。私達は長い間この現状の打開策を考えていました。そして「Freshman Entrance Screening」”FES”（フェス）を実施することを決めました。FESはいわゆるフィジカルチェックのことで、怪我に繋がりかねない要因を評価し本人と顧問に知らせ、その要因の改善方法を競技練習と同時に行わせることが特徴です。近年は多くのプロチームや体育大学所属チームが取り入れているAT・S&Cやフィジカルチェックですが、高校レベルではAT・S&Cはおろか、メディカルチェックは普及していません。だからこそ仙台大学がサポートする明成高校でいち早くこのシステムを取り入れ、高校生の競技生活を充実させ大学レベルへ繋げていく体制を整えたいと考えました。また、FESを実施することで仙台大学が高大連携の最先端を走るにふさわしい施設と人材があることを具体的に示していきたいと感じています。項目は体組成成分測定、下肢アライメントチェック、足趾筋力、下肢柔軟性、下肢基礎筋力、全身動的可動性、そして体幹動的安定性です。現在は来年度4月に実施するために準備を進めています。

本学園仙台地区キャンパス再整備(川平再整備事業)の「地鎮祭」を行いました

地鎮の儀を行う、朴澤理事長・学事顧問

完成イメージ

1月29日（火）本学園仙台地区キャンパス再整備事業(仙台市青葉区川平）の安全を祈願し、地鎮祭がおこなわれました。

本学園（設置校　仙台大学、明成高校）は開学以来、建学の精神「実学と創意工夫」を掲げ、幾多の時代変動の中を歩み、2019年5月に創立140周年の開学記念日を迎えます。

本学園はさらなる高みを目指し、本学園仙台地区キャンパスの再整備をおこない、自然・地域との共生を目指し、防災安全に配慮し、生徒・学生の各々の高大接続その他の新しい学びが実現できる教育環境の整備・充実を目指します。

今後の予定については

①第一期工事

明成高等学校の校舎完成予定（2020年11月完成予定）

②第二期工事

仙台大学川平キャンパス内施設の充実（高大連携教育の充実）

車道にて分断されているキャンパスを連絡橋で結び一体化の実現

③第一、二期通期工事

防災の観点から、表土排水加工、地下貯水槽設置、崩落懸念のある擁壁の施設活用に応じた新設、撤去実施

鳥の鳴き声、古来自生する松等木々に満ちた自然共生キャンパスの実現

となっています。

SPORTS FOR ALL ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.154 / 2019 .FEB

「第2回仙台カップ全国女子学生柔道団体対抗大会」を開催しました

第2回仙台カップ全国女子学生柔道団体対抗大会開会式の様子

2月18日（月）から21日（木）まで、仙台大学柔道場を中心に表題の大会を開催しました。この大会は昨年の仙台大学開学50周年記念事業の一環としてスタートし、全国の女子学生を対象として行われる全国的にも（世界的にも）稀有な大会です。さらに本学と交流のある海外の大学も招待しており、今年は台東大学（台湾）にご参加いただきました。大会の大きな特徴として、試合を行うだけでなく、「学び・競争・交流」というスポーツの持つ特性・魅力を再確認できるようなプログラムとなっています。

18日は大会に参加する200名を超える女子アスリートが本学に集合し、アクレディテーションと計量を行い、その後、全日本柔道連盟・全日本学生柔道連盟共催の「キャリアアップ・セミナー」を開催しました。

19日には試合を実施し、予選リーグと決勝トーナメントから構成され、1チームにつき少なくとも4試合をする構成としました。これは選手強化も当然ですが、普段接することのない選手と対戦・交流することを目的としています。

本大会の結果は次の通りです。

優勝:龍谷大学、準優勝:帝京科学大学、三位:淑徳大学、四位:帝京大学

本学柔道部は惜しくもベスト8という結果でした。いずれの試合も非常に高度な攻防が展開されましたが、インカレ王者である龍谷大学が混戦を制する結果となりました。

試合終了後は学生食堂「なちゅら」にてフェアウェル・パーティーを開催し、北海道から近畿地区の大学、台東大学など、普段深く交流することのないチームも和気藹々、親睦を深めました。この経験とつながりが社会に出てからの彼女たちの人生を支えてくれることと考えています。

本大会の開催にあたって非常に多くの方からご支援を頂戴いたしました。特に大会に協賛をいただきました、株式会社イカイ様、東日本医療専門学校様、株式会社スポーツフィールド様、盛岡医療福祉専門学校様、仙台接骨医療専門学校様、宮城県警柔会様には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

また運営サイドとしましては、昨年以上の盛り上がりを感じております。来年も今年以上の真剣な学び、白熱した試合、和気藹々とした交流を目指して運営していく所存です。

＜報告：柔道部＞

「キャリアアップ・セミナー」の様子

〈 目 次 〉

・柔道部：「第2回仙台カップ全国女子学生柔道団体対抗大会」を開催しました	1
・スポーツ情報サポート研究会が活動報告会を開催しました ・「マイナビベガルタ仙台レディース選手によるサッカー教室」を開催しました	2
・吉田洋志新助手（男子ハンドボール世界選手権・日本代表情報分析スタッフ）が帰国報告 ・「春季海外留学・研修 結団式、危機管理研修会」を開催しました	3
・『平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定』 ・健康タウンしばたプロジェクト2018閉講式を開催	4
・平成30年度健康づくり運動サポーター事業 上級実習「健康まつり」及び「秋の健康収穫祭」合同報告会 ・男子バレーボール部:バレーボールアカデミーを開催しました	5
・2018年度学術講演会を開催しました ・本学の池田敦司教授がUNIVAS専務理事に選任されました	6
・新・卓球部OB会に寄せて	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.11	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通 0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

※仙台大学大学院開設20周年を祝う会の記事については3月号に掲載予定です。

スポーツ情報サポート研究会が活動報告会を開催しました

報告会の様子

2月4日（月）LC棟1階で、スポーツ情報サポート研究会の平成30年度活動報告会を開催しました。本研究会は、約30名の学生が8つのグループ（男子バレーボール、女子バレーボール、硬式野球、サッカー、女子バスケットボール、男子ハンドボール、女子ハンドボール、メディア）に分かれて、競技力向上を目的としたパフォーマンス分析やプロモーション映像の制作など、「情報を活用」したサポート活動を展開しています。
今回の報告会ではLC棟の3面大型スクリーンを活かし、左にプログラム、中央に発表グループのスライド、右に参加者からの質問と感想を表示させました。本研究会の報告会において、質問等をリアルタイムで表示することは初の試みでしたが、アプリケーションを通して80を超える質問が投稿され、活発な質疑応答が行われました。
各サポートグループの報告から、年々活動の質が高まっていることを窺うことができ、次年度の活動にさらなる期待が持てる有意義な報告会となりました。
＜報告：スポーツ情報マスメディア学科＞

「マイナビベガルタ仙台レディース選手によるサッカー教室」を開催しました

柴田町より受託している「柴田町トップアスリート育成事業」の一環として、マイナビベガルタ仙台レディースで本学職員の奥川千沙選手と本学園である明成高等学校卒業生の武田奈々子選手がサッカー教室をおこないました。

柴田町立西住小学校での活動の様子

2月1日（金）柴田町立西住小学校の小学1年生～小学3年生の56名が参加し、ボールを使って、ドリブルやパスの練習、各学年対マイナビベガルタ仙台レディースチーム（奥川選手、武田選手、斎藤コーチ、上野コーチ、熊谷校長）のミニゲームを行い、参加した児童は約1時間大いに楽しみました。
またミニゲームに参加された西住小学校の熊谷浩校長先生は本学卒業生となります。

柴田町立船迫小学校での活動の様子

2月7日（木）柴田町立船迫小学校の小学6年生の69名が参加し、前回と同じくボールを使ってドリブルやパスの練習、また各チームに分かれてボールを集めるゲームなどを行いました。最後にマイナビベガルタ仙台レディースチーム（奥川選手、武田選手、斎藤コーチ、上野コーチ）のミニゲームを行い0-3で船迫小学校チームが勝利するなど大いに楽しみました。
サッカー教室が終了後には選手・コーチからサインをもらいに積極的に交流を深め、児童からは、「選手のプレーを間近で見ることができ勉強になった。機会があれば試合に応援に行きたい。」などの感想を頂きました。

吉田洋志新助手（男子ハンドボール世界選手権・日本代表情報分析スタッフ）が帰国報告

分析活動を行う吉田新助手

遠藤保雄学長に報告後の様子

1月30日（火）吉田洋志新助手（男子ハンドボール日本代表・スポーツ情報分析スタッフ）がドイツ（ミュンヘン）で行われた男子ハンドボール世界選手権大会(2019年1月10日～1月27日開催)において日本代表チームの情報分析サポートのため帯同し、その活動結果を遠藤保雄学長に報告しました。吉田新助手は本学25年度の卒業生で、2018年1月より男子ハンドボール日本代表のスポーツ情報分析スタッフとして活動しています。
2年に1度行われるこの大会は、世界から日本を含む24チームが参加、各グループステージで総当たり方式で戦い、次いで、各グループで上位3チームが決勝トーナメントで世界一を競うもの。この大会にはドイツやデンマーク、スペインなどの世界の強豪チームが参加しました。
日本チームは、残念ながらグループステージで敗退しましたが、吉田洋志新助手はその中でも情報分析の視点から見ても、試合内容をみると収穫があったと次のように総括しました。「グループステージで敗北の内容をみると、①これまで大差で敗れていたスペインやアイスランドに僅差に迫るなど収穫があった。②相手国の選手構成、各選手の癖、チームの戦術等の情報分析が一定の効果を発揮した。とみています。この経験をベースに、今回の大会で情報のなかった選手やチームの戦術の情報をより深く収集・分析し、チームが勝てるようにしていきたい」と吉田新助手の先を見据えた報告を受け、遠藤保雄学長は「国際試合におけるスポーツ情報分析の重要性が一層増していることを認識した」としつつ、「日本のトップレベルの選手のサポートする役割として非常に重要であり、その集めた情報によって勝利に貢献できるよう今後も頑張ってください。」と期待を述べられました。

「春季海外留学・研修 結団式、危機管理研修会」を開催しました

遠藤保雄学長より激励を頂く様子

各プログラムに参加する学生から決意表明の様子

2月1日（金）に「平成30年度春季海外留学・研修 結団式、危機管理研修会」を開催しました。今回は、7つのプログラム（韓国・龍仁大学校／台湾・台東大学／アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校／アメリカ・ハワイ大学／デンマーク・ノアフュンス国民大学、南デンマーク大学／フィンランド・カヤーニ応用科学大学／ニュージーランド・カンタベリー大学、CCEL）に31名の学生を派遣します。各プログラム毎に参加する学生の自己紹介ならびに代表からの決意表明がありました。
＜報告：国際交流センター＞

『平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定』

本学は、現在、在仙の楽天イーグルス・ベガルタ仙台・仙台89ERSの3球団とアカデミック・パートナーシップ協定を結んでいます。
この協定に基づき、プロ3球団との間で、「プロ球団とのアカデミックパートナーシップに基づく地域創生型スポーツ社会モデル形成事業」を推進すべく、文部科学省の平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定いただくよう、予算要求してきました。この度、見事、全国20校の選定校の一つに選定されました。
(157校中、20校が選定)

■「私立大学研究ブランディング事業」について
「私立大学研究ブランディング事業」とは、学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取組を行う私立大学等に対して重点的に支援を行う事業です。
■「プロ球団とのアカデミックパートナーシップに基づく地域創生型スポーツ社会モデル形成事業」について
東北で唯一のスポーツ・健康科学の総合大学である本学では、「スポーツ・フォア・オール（スポーツは健常者・障がいを抱えている者や性別の区別なく、また、子どもから成人・高齢者を含むすべて者にとって楽しみ展開していくもの）」の基本理念のもと、本学学生が、「する・みる・ささえる」のスポーツの3つの側面に何らかの形で参加・関与することを通じ、スポーツ・健康科学を実践的に学んでいます。

その教育研究内容を深化拡充していくためにも、また、その成果を地域社会の活性化に活用し地域創生型スポーツ社会の振興に資していくためにも、スポーツに関する「みる・する・ささえる」事業活動を、プロフェショナルに展開する仙台の 楽天イーグルス・ベガルタ仙台・仙台89ERSの3球団の事業内容に着目し、それを題材として研究ブランデング事業を展開していきます。
具体的には、在仙のプロ3球団とのアカデミックパートナー協定に基づき、本学の教育研究陣が総力を挙げて、プロ3球団のスポーツのもたらす教育的、社会的、経済的な効果を共に解明していきます。
そして、この事業成果は、プロ3球団の事業活動の地域における定着・ファンの拡大はもちろんのこと、地域社会の活性化につなげていくとともに、これら事業研究を通じ、本学としても、学長主導の下、教職員が一体的に取り組み、地域社会の方々とともに、「地域創生に貢献する実践型スポーツ教育研究する大学」というブランディングの確立に努めていきたいと考えています。

健康タウンしばたプロジェクト2018 閉講式を開催

ストレッチでからだを動かす参加者

閉講式の様子

2月24日（日）仙台大学LC棟で「健康タウンしばたプロジェクト2018」の閉講式を開催しました。本事業はスポーツ庁の補助事業として柴田町が採択され、本学が委託を受けた事業になります。「心浮き浮き」をテーマに①「健康運動・スポーツ促進教室」と②「ノルディックウォーキング」の2つのプログラムを設け、9月～3月にかけて実施しております。「健康運動・スポーツ促進教室」は19地区を回り、延べ498名の方々にお集りいただき、体組成測定や健康体操を体験していただきました。「ノルディックウォーキング」は、6回開催し延べ190名の方々がかっこいいノルディックウォーカーを目指し、楽しみながら身体を動かしました。
閉講式では両プログラムの参加者が交流しプロジェクトの振り返りや報告を行いました。
参加者からは「ノルディックの指導者に教えていただき、正しい知識で運動でき大変良かったです」や「自分から進んで動くことが無かったですが、今日教えてもらった事を続けてみようと思います」と感想をいただきました。
今後も町民の運動実施のきっかけづくりの場を提供できるよう、地域のニーズを把握し、柴田町と協力しながら住民の運動実施率の向上のため尽力していきたいです。
＜報告：新助手　松浦里紗＞

平成30年度健康づくり運動サポーター事業
上級実習「健康まつり」及び「秋の健康収穫祭」合同報告会

2月8日(金)にLC棟2階会議室で、平成30年度健康づくり運動サポーター事業上級実習「健康まつり」及び「秋の健康収穫祭」の合同報告会が開催され、本学教職員や柴田町行政区区長が出席しました。

健康づくり運動サポーターは、仙台大学独自の運動指導者資格で、初級・中級・上級と3つの級があります。各級を取得するためには、学内で開講する養成講座を受講し、柴田町をはじめ、近隣市町村での現場実習を経て資格が授与されます。上級は、地域の健康イベントを地域の担当者である行政区役員、柴田町役場、柴田町地域包括支援センター、槻木地域包括支援センターなどと協力して参加者の満足度高める活動などを企画・運営します。

今年度は上級取得を目指す学生が４名おり、柴田町内の２つの行政区を対象にイベントを開催しました。「健康まつり～健幸の花を咲かせよう～」の開催を担当した四日市綾香さん(運動栄養学科4年)は「大きな達成感と多くの学びを得たことが自身に繋がりました」、忠鉢礼菜さん(大学院2年)は、イベントを企画し、実施する経験が今までの人生の中で一度もなかったのでとてもいい経験になりました」と話してくれました。

「秋の健康収穫祭　～みんなこっちさござぃん～」の開催を担当した鈴木萌子さん(健康福祉学科4年)は、「関係者全員で協力し、責任感を持って計画立てする重要性を感じることができました」、引地あゆみさんは「地域のニーズに応えるために、全員で協力し、意見を出し合うことでイベント運営ができるということを学びました」と話してくれました。

両イベントともに、参加者の笑顔に溢れ、とても明るい雰囲気での活動になりました。来年度も参加者の満足度を高め、より明るい雰囲気で、安全なイベント運営ができるよう学生のサポートをおこなって参ります。

＜報告者：田中亨新助手＞

＜健康まつりの報告をする忠鉢さん（左）四日市さん（右）＞

＜秋の健康収穫祭の報告をする引地さん（左）と鈴木さん（右）＞

＜出席者での集合写真＞

男子バレーボール部:バレーボールアカデミーを開催しました

参加した小中学生のレベルにあった指導をする様子

本学男子バレーボール部が1月に小中学生を対象としたバレーボールアカデミーを開催しました。参加した小中学生のレベルに合った指導を行い、楽しくバレーボールを行うことができました。指導にあたった学生も丁寧に教えている姿が印象的で、参加した選手も普段とは違う環境で大学生の指導を真剣に受けていました。全体を通して子どもたちの技術の向上とバレーボールを積極的に楽しんでいる様子がうかがえました。

今回のバレーボールアカデミーでは柴田町以外の地域からも多くの選手が参加してくれました。今後もこのようなアカデミー活動を継続していく予定です。

＜報告：男子バレーボール部＞

2018年度学術講演会を開催しました

講演会の様子

講師の佐藤豊教授

2月14日（木）に本学LC棟にて、2018年度仙台大学学術講演会が開催されました。
学術講演会は毎年、学術会運営委員を担当している教員の方々で企画・運営を行っており、今年度は全体を通して5回目の学術講演会となります。
今年度の講演テーマは「体育科・保健体育科の新学習指導要領で目指すこと」と題し、講師として桐蔭横浜大学の佐藤豊教授をお招きしました。講演では新学習指導要領の本格的な実施に向けて、教育現場で指導を行う保健体育教員はどのような授業を展開すれば良いのか、また、保健体育の教員養成に向けた学生教育の方法などを解説して頂きました。
学術講演会当日は、本学の教員や教職を目指す学生、また、近隣の小・中・高校の先生方にもご参加頂き、講演が進むにつれ活発な意見交換も行われました。
参加して下さった本学教員からは、これからも大学内に限らず大学周辺の方々にも聴講できる内容の講演会をぜひ開催してほしいとの意見も頂戴しました。
学術会では学術講演会を通じて仙台大学が学外に開かれた学術・学問を提供できる場であることをより一層PRできるよう力を尽くして参りたいと考えております。
最後になりましたが、お忙しいなか学術講演会へご参加頂きました皆様へこの場をお借りして感謝申し上げます。
＜報告：学術会＞

本学の池田敦司教授がUNIVAS専務理事に選任されました

池田敦司教授

2月25日（月）に「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の第5回設立準備委員会が開催され、協会常勤の幹部としてその管理運営を担う専務理事に本学体育学部教授の池田敦司氏が就任することとなりました。
池田敦司教授は、楽天野球団副社長、ヴィッセル神戸社長等の豊富な実務経験を活かし、本学で企業スポーツ論、スポーツ産業論等の講義を担当してきました。
「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の設立の検討に際して、スポーツ企業での実務経験を生かし、設立準備委員会主査として、パートナーシップ構築に向けた仕組み作りに寄与しました。
このような実績をベースに、今回、専務理事に就任することとなり、今後、東北地方の大学スポーツ振興の良きパイプ役として期待されます。なお、「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の会長には、鎌田薫氏（日本私立大学連盟会長・前早稲田大学総長）、副会長には川原貴氏（日本臨床スポーツ医学会理事長）、有森裕子氏（日本陸上連盟理事）の両氏が就任することも決まりました。
「大学スポーツ協会（UNIVAS）」は2月25日現在で196大学、31競技団体が参加を表明しており、3月1日に一般社団法人として設立される予定となっております。

◆池田教授のコメント◆
この度「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の専務理事を拝命することとなりました。
「大学スポーツ協会（UNIVAS）」は、大学スポーツの振興と卓越性を有する人材育成を目的とした組織で、学生アスリートが安全に安心して競技に取り組めるための基盤整備や、学業との両立を目指す仕組みの整備、スポーツによる大学のブランディング推進のサポートを行っていく組織です。
今まで競技単位の縦割りであった大学スポーツを、大学及び競技を横断型で統括していくこととなりますので、とてもやりがいを感じております。そして、日本全国の大学関係者の中から仙台大学の私が選ばれたことに感謝をいたしております。
今後の「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の活動をご期待ください。

新・卓球部OB会に寄せて

第2部懇親会での集合写真（中央は熊坂繁太郎名誉教授）

2月23日（土）仙台大学卓球部OB会が開催されました。第一部は大学での交流試合が企画され、その後第二部として仙台一番町で懇親会が催されました。（私は、仕事の関係で第2部のみ参加）

現在、同窓会の全国支部会議（社員総会）には、ほぼ毎年出席させてもらっていますが、自分が打ち込んだ卓球部OB会への参加は、また格別の感動や味わいがありました。昭和42年の開学と同時に卓球部（監督：中田鉄士氏、部員：高橋（現松下）邦雄氏１名）は誕生しました。これまで卓球部OB会と称し、名簿の作成や機会を見て懇親会を行っていましたが、最近では平成19年4月の熊坂繁太郎2代目部長（仙台大学名誉教授）の勇退祝いでしたので、約12年ぶりのOB会ということになります。懇親会は、3時間を経てもなお瞬く間に閉会を迎え会話ができなかった諸兄も大勢いた状況です。近況報告で当日お話させていただいたことに付け加えて感じたことを記します。

今の自分があるのは仙台大学を卒業したからであり、卓球部での切磋琢磨のおかげ。特に恩師中田先生の導き及び先輩諸氏、同輩、後輩とのつながりを抜きには考えられない。

進取の気概に溢れる中にも、アットホームな雰囲気で育てていただいたことへの感謝と多くの感動により成長することができたこと。

現役学生は、自分を見失わず、失敗を恐れず思い切って頑張ることが有意義な学生生活につながること。「ながら見守り隊」発足のきっかけとなったのが、卓球部の学生であることは部の伝統が生きているからこそと現役学生の行動をとても誇りに思うこと。

今回、馬准教授や現役部員の取り計らいでOB会が開催できたことは、大きな一石が投じられものと感じ、卓球部OB会の継続を願うと共に、微力でも学生の皆さんへの支援の一歩となることから、大きく発展させる必要を感じたこと。

翌日、船岡城址公園から見た残雪の蔵王連邦は雲一つ無い快晴で、心身ともに気持ちを新たに元気や勇気をもらいました。今後とも仙台大学並びに仙台大学卓球部の発展を祈念致します。

＜8期生：北海道根室、釧路支部事務局長・卓球部OB　林　良彦＞

仙台大学卓球部OB会

第一部は大学での交流試合の様子

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.11

担当：小野勇太助手

川平ATRでは、明成高校の運動部活動中に発生したケガに対し、①傷害評価、②アイシングやテーピングの応急処置、③医療機関を紹介し医師による診断を得る、④部活動復帰に向けたアスレティックリハビリテーションという流れでケガから復帰に向けてサポートを実施しています。時には、ケガから復帰まで約1年もかかる重症なケガも、残念ながら発生してしまっているのが実情です。高校生活の限られた3年間、不自由なく毎日競技へ打ち込めるということは、大会で結果を出すことや、レギュラーになることと同等に、もしくはそれ以上に価値あることです。

ATの仕事として、ケガをさせないことや、ケガの程度を最小限に済ませることは、非常に価値あることです。ケガの後の処置やリハビリは勿論必要な能力ですが、『予防』の専門家、これこそATが本来あるべき姿と考えています。そこで今回は私がATとして普段実施している「傷害予防トレーニング」について一部、紹介致します。

指導時間帯は主に部活練習後に行います。トレーニング前には練習によって生じた疲労、各部位の違和感、痛みなどをチェックし、必要に応じてストレッチングやアイシングなどのセルフケアを促します。トレーニングが可能な状態であれば、学年、ポジション、身体特性、個人の目標などに合わせて、トレーニングを処方していきます。

主な内容として、関節の可動性を確認し、不足があればストレッチを指導します。それからバランス訓練や自体重で筋力訓練を実施します。関節に負担をかけない正しい身体の動かし方を十分に覚えてから、徐々に重りを利用した筋力訓練も行います。また、スポーツ動作訓練としてジャンプ、切り返し、キック(サッカー部のため)動作を指導します。特に、競技に関わる動作が傷害との関係性が高いため、安全で効率的な身体操作を指導していきます。その他、受身や転び方の確認と練習も行っています。これは、これまでの傷害相談において、転倒時の不適切な受身と転び方によって、生じるケガが多数あったことへの対策です。

これらの指導全てにおいて、選手の自主性向上を徹底的に意識して接します。傷害予防トレーニングで実施しているのは、傷害予防教育であり、その学んだことを普段スポーツ現場で実践していかねば真の予防効果は生じません。また、他人任せの選手は危機管理意識が少なく、結果としてケガ発生が多い傾向にあり、慢性的な痛みに対してもセルフケアを実践していないことが非常に多いです。そのためケガを悪化させてしまい大事な大会にベストな状態で望めないケースはこれまで数多くありました。こういった選手に対して、何かしてあげる処置ばかりをしていくのではなく、ケガ発生や痛みの原因を理解してもらい、どうすれば改善し予防可能であるかを認識してもらう必要があります。最終的に、個人個人の「意識」をどうよい方向へ向かわせるかが、一番の『予防』に繋がるのです。

この冬、選手達は次の大会である高校総体へ向けて日々切磋琢磨しています。十分なコンディションで日々の練習に打ち込めることは素晴らしいことです。ケガのために競技を中断することのないよう「高校スポーツの安全を守る」活動をこれからも継続していきます。

①筋肉・関節の柔軟性を確認している様子

②ストレッチングを実施している様子

③バランス・筋力訓練をしている様子

④スポーツ関連動作をしている様子

⑤転がり運動を練習している様子

SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.155　/　2019 .MAR

第49回 仙台大学体育学部卒業証書・学位記授与式並びに第20回大学院学位記授与式」が挙行されました

答辞を述べる本間桃花さん（運動栄養学科）

3月16日（土）、第五体育館にて「第49回体育学部卒業証書・学位記授与式並びに第20回大学院学位記授与式」が挙行され、今年度は体育学部561名（うち、国際交流締結大学である台東大学（台湾）とのダブルディグリー制1名）の卒業生と大学院12名の修了生が社会に巣立ちました。

遠藤保雄学長は学長告辞で「君たちが巣立つ不確実性の日本社会、それは、君達にむしろ日本のニュー・フロンティアへの挑戦を準備している。なぜなら、君たちは、問題に「体」を張って取り組み、感性豊かな「心」でぶつかり、勝つための「技」を、身のこなしの中で展開し、この日本社会に進むべき道を示し得る力を持っているからだ。飛び立て、大きな羽を広げ、不確実性に覆われた日本社会へ！」と挨拶されました。

朴澤泰治理事長・学事顧問は「今、みなさんの「情報センサー」では、最もインパクトのある出来事は何であると捉えているでしょうか。『平成』の次の時代を創り上げていく担い手は、本日、卒業を迎えたみなさんであります。それだけに「みなさんの情報センサー」、そして、センサーの向く方向は、非常に重要となります。『建学の精神』の下で、学業生活を終えられたみなさんは、次に時代の創造の担い手として、必ずや期待に応えてくれるものと確信しております。大いに自信を持って社会に船出をして頂きたいと思います。」と卒業生と修了生へ向けはなむけの言葉を送りました。

卒業生を代表し、運動栄養学科の本間桃香さんは「思い起こせば今から4年前、私たちは初めて会う仲間とともに、これから始まる新しい生活に大きな期待と不安を抱き、仙台大学の門をくぐったことを覚えております。仙台大学で過ごした4年間は学科の垣根を越えて多くの人と出会い、多くの学びがありとても充実したものでした。仙台大学の4年間でスポーツ栄養に関する専門的な知識や技能を身に付けることができました。」と答辞を述べました。

式中には学生表彰式も行われ、U-23ボート男子日本代表で漕艇部の一瀬卓也さんなど19名が学長賞を受賞したほか、スポーツや文化活動などにおいて優秀な成績を修めた学生に、スポーツ功労賞、文化功労賞、日本介護福祉士養成施設協会会長賞、全国栄養士養成施設協会会長賞、JPSU認定スポーツトレーナー資格取得者表彰、同窓会賞などが授与されました。

〈 目　次 〉

・第49回 仙台大学体育学部卒業証書・学位記授与式並びに第20回大学院学位記授与式」を挙行されました	1
・仙台大学大学院開設20周年を祝う会を開催しました ・「平成30年度 介護実習・社会福祉援助技術現場実習 教育懇談会」を開催しました	2
・平成30年度 学生相談室主催 教職員研修会「発達障害学生への理解と支援」を開催しました ・第6回全国ブロック大学男子バレーボールチャンピオンマッチ報告	3
・平成30年度 陸上競技部投てきブロック春季強化合宿 in 台湾台東 ・本学OBの小林翔汰さんが柴田町役場スポーツ振興課に配属が決まりました	4
・遠藤学長、「東北こども博」の協賛会社、トヨタ自動車東日本（株）様を訪問、白根社長と面談 ・首都圏就職一日弾丸ツアーを実施しました	5
・高校生のための仙台大学「教師塾」を実施しました ・「3×3.EXE GAME in仙台～小学校卒業記念大会」にバスケットボール部が補助スタッフとして参加しました	6
・平成30年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式を開催しました ・平成30年度 健康福祉研究会を開催しました	7
・子ども運動教育学科の上海保育実習	8
・通算28回目 ハワイ大学アスレティックトレーナー研修ビギナーコースを実施 ～学生たちによるハワイＴＶ出演・ハワイ報知新聞取材～	9
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.12 ・「平成30年度(後期)健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催しました	10

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

仙台大学大学院開設20周年を祝う会を開催しました

仙台大学大学院開設20周年を祝う会の様子

2月16日（土）「仙台大学大学院開設20周年を祝う会」が本学で開催されました。退職された先生方や中国からも修了生が駆けつけて下さり総勢140名の方々にご参加頂きました。

第1部の研究集会では、初めに遠藤保雄学長よりご挨拶を頂き、続いて藤井久雄大学院研究科長から「仙台大学大学院20年間の歩み、そして未来」と題し、これまでの様子等を写真で振り返りつつ、大学院のこれからについてお話しを頂きました。

基調講演では、東京大学大学院総合文化研究科 深代千之教授より「体育・健康、スポーツ分野の高度な専門指導者育成に求められる大学院の役割」についてご講演頂き、また研究発表では、本大学院修了生の日本オリンピック委員会マーケティング部 脇本昌樹係長「自国開催を迎えるJOCでの活動について」、同じく本大学院修了生の東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系 神野周太郎特任講師「身体活動における「際に立つ経験」の展望」というテーマで発表を行って頂きました。

研究集会終了後、第2部の意見交換会が学生食堂（25記念館）で行われました。当時の思い出やこれからの仙台大学について語り合い、「大学院開設20周年を祝う会」は盛会裏に終えることができました。

＜報告：大学院事務室＞

「平成30年度介護実習・社会福祉援助技術現場実習 教育懇談会」を開催しました

2月14日（木）14時30分より、仙台ガーデンパレスにおいて、「平成30年度 介護実習・社会福祉援助技術現場実習 教育懇談会」を開催しました。

挨拶を行う遠藤保雄学長

この教育懇談会は、介護福祉士養成のための介護実習と社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習の実習施設指導者へ、今年度の介護実習と社会福祉援助技術現場実習の実習結果及び学生の学びについて報告し、次年度の実習計画について提案させていただきながら、施設実習指導者より実習についてのご意見を伺い、次年度の実習についてご理解とご協力をいただくことを目的としています。

今回、13施設の実習指導者がご参加下さり、平成30年度の実習報告ならびに平成31年度実習計画の報告後、教員と実習指導者と、「学生が実習目標を達成するために、実習指導者と教員双方が、工夫する点、かかわり方」などについて意見交換を行いました。実習指導では、学生の主体性を引き出すために、指導者や職員の皆様が声掛けの工夫をしてくださっている様子や、実習が学生にとって良い体験となるようご配慮をいただいているということが伺えました。仙台大学では、健康づくりをリードできる人材の育成をベースに教育していることや、大学の授業での工夫ならびに課題について、また、介護の人材確保の問題や、地域に開かれた施設の在り方など多岐にわたる意見交換ならびに情報を共有し、大変有意義な時間を過ごすことができました。実習指導者と教員の連携が重要であるという共通理解もさらに深まり、これからも実習指導者と教員との連携を密にして、よりよい実習ができるようにしていきたいと考えております。

また、仙台大学では、スポーツを続けながら、介護福祉士国家試験受験資格や社会福祉士国家試験受験資格の他、養護教諭、保健体育教諭、特別支援学校教諭、福祉科教諭を目指す学生が多く学んでおります。様々な年代の人々に教育・医療・福祉の各分野で健康にかかわる指導者を育成し地域の人々の健康に貢献できる人材育成を目指しています。学生が大学で学んだ仙台大学の強みや特徴を、実習でも発揮できるよう支援していきたいと考えております。

＜報告：篠原真弓准教授＞

平成30年度 学生相談室主催 教職員研修会「発達障害学生への理解と支援」を開催しました

研修会の様子

黄淵熙先生

3月5日（火）LC棟1階にて、平成30年度学生相談室教職員研修会を開催しました。今回は教職員の事前アンケートによる要望が最も多かった発達障害を取り上げ、「発達障害学生への理解と支援」をテーマに、東北福祉大学教育学部の黄淵熙先生より、ご講演をいただき、教職員と教員を志望する学生、併せて36名が参加しました。黄先生は発達障害児の学習困難に対する教材開発や指導方法を専門的として教育研究活動に取り組んでいるだけでなく、大学で発達障害を抱える学生を支援し、学習面、生活面での支援や保護者との面談も行っています。

講演では、発達障害を抱える学生への支援についての法制度に加え、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）について、それぞれの特徴と対応方法についてご説明いただき、発達障害学生が大学生活で出会う困難さや、それに対する具体的な支援策についても、研究や実践活動に基づいたお話をいただきました。

内容として、発達障害と一口に言っても、本人がどのような場面で困難を感じ、どのような支援を必要としているかは様々であるため、学生本人や保護者との面談を通した困り感の聞き取りと支援策の調整が重要であることのほか、発達障害学生は見通しを持つことが苦手であり、適切な時間配分による授業選択や抽選による登録といった変則的な履修が難しい結果、必修科目を取りこぼしてしまう場合もあるため、友人や教職員などと一緒に確認しながら履修を登録する必要がある、それは発達障害学生に共通して見受けられるとのご説明でした。そのほか、講演で取り上げられた授業場面や生活面での支援についてご紹介され、発達障害学生に対し、視覚・聴覚両方から情報を提示することが理解の助けになるため、言葉による説明に加え、図表を用いるなどの視覚的な資料を併せて提示すること、健常な学生よりも集中しすぎてしまい、時間を忘れて目の前のことに没頭してしまうため授業に出られない、昼夜逆転の生活に陥ることもあり、そうした事態を防ぐためには周囲の声掛けによる時間管理が必要であるとのことでした。

本研修会は大学で発達障害を抱える学生を支援している講師から、その実際をうかがえたことで、困難場面やその対応は具体的でイメージしやすく、非常に学びの多いものとなりました。発達障害を抱える学生がどのような場面で困難さを感じるのかを理解し、授業への配慮や支援方法を考えること、学生および保護者だけでなく、関わる教職員と情報共有や情報交換を継続的に行うことの重要性を認識しました。予定していた時間を超過してまで多くの質問が挙げられ、研修会後のアンケートで参加者から「発達障害やその支援に対する理解が深まった」「具体的で分かりやすかった」という感想をいただきました。

何らかの障害を持つ入学生は年々増加しており、発達障害を抱える学生の割合も増加傾向にあると言います。本研修会が本学において、障害を持つ学生の理解や支援を検討する一助になればと考えています。

＜報告：学生相談室＞

第6回全国ブロック大学男子バレーボールチャンピオンマッチ報告

男子バレーボール部は3月11日から14日まで福岡市民体育館で行われた第6回全国ブロック大学男子バレーボールチャンピオンマッチに出場 し、予選リーグは4勝5敗で8位、決勝リーグは1勝3敗6分で9位という結果となりました。

新チームとなり初めての大会で、結果としては満足のいくものではありませんでしたが、その中でもキャプテンの髙橋生祈（スポーツ情報マスメディア学科 3年）が優秀選手賞を受賞しました。今大会を皮切りにさらにチームのレベルアップを図っていきます。

4月から開幕する春季リーグ戦に向けて今大会でてた課題や改善点を克服し、チーム一丸となって頑張りたいと思います。

今後とも男子バレーボール部の応援のほどよろしくお願いいたします。

＜報告：男子バレーボール部＞

男子バレーボール部

平成30年度 陸上競技部投てきブロック春季強化合宿 in 台湾台東大学

陸上競技部投てきブロックは平成31年3月1日（金）から8日（金）まで、台湾台東大学及び台東大学付属高校において、本年度で3回目となる強化合宿を実施してきました。
参加者は26名（指導者2名，選手24名）と昨年度よりも多くなりましたが、台東大学の范先生をはじめとするたくさんの人々に協力をいただき実施することができました。本合宿の目的は温暖な地において、2019年シーズンに向けて効率の良いトレーニングを実施することですが、国内では砲丸投げ、円盤投げ、ハンマー投げ、やり投げの全種目の投てき練習を陸上競技場内のフィールドで認める施設はほとんどありません。しかし、台東大学付属高校は全投てき種目が自由に練習できる陸上競技場やトレーニングルーム、食堂、宿舎のすべてが徒歩５分以内にあり、私たちにとって最高の環境を提供していただいています。そのような環境でトレーニングできることを幸せに思いながら、１週間の強化合宿に取り組んできました。

今回の合宿も「投げる」トレーニングを中心に組み立てましたが、新しい取り組みとして、「ウエイトトレーニング」を充実させることができました。私たちの競技は大きなパワーを必要とし、日々のトレーニングにウエイトトレーニングを積極的に導入していますが、施設内には立派なリフティング場があり、今回はそこでのトレーニングが実現しました。また、オリンピアンを輩出したリフティング部の専属コーチからスナッチやクリーン等の基本動作についての指導もいただき、選手たちは投てき動作とリフティング動作の関連について良き学びがあったようです。コーチが用いていた言葉が英語であったため、はじめは受け身の姿勢も見られましたが、活動を重ねる中で積極的に英語を用いる選手も増えて、良い国際交流となったと同時に、体験を通して英語の必要性を改めて感じる選手がたくさんいました。

天候にも恵まれ、予定以上の良質なトレーニングを行い、全員無事に帰国することができました。ご協力いただいた台東のみなさんに感謝しつつ、本合宿の成果が来るべき2019シーズンの良い結果へとつながるよう、今後もチーム全体で目標に向かい進んでいきたいと思います。
＜報告：陸上競技部 投てきコーチ 宮崎利勝講師＞

本学OBの小林翔汰さんが柴田町役場スポーツ振興課に配属が決まりました

本学スポーツマスメディア学科卒業生の小林翔汰さんが31年度4月より柴田町役場に内定し、スポーツ振興課に配属先が決まりました。

小林さんは本学卒業後、柴田町体育協会、柴田町総合型地域スポーツクラブで働きつつ、柴田町役場の内定を目指し、公務員試験勉強をしてきました。今回の内定を受け、「これまで仙台大学や柴田町体育協会、柴田町総合型地域スポーツクラブで学んだことを活かして今まで生まれ育った柴田町に恩返しをしたい」と意気込みを話してくれました。

小林翔汰さん

「東北こども博」の協賛会社 トヨタ自動車東日本（株）様を訪問し白根社長と面談

遠藤学長から白根社長への東北こども博へのご支援の御礼

3月7日（木）、毎年、東北こども博でご出展のご協力を頂いているトヨタ自動車東日本株式会社様（宮城県黒川郡大衡村）を遠藤学長が訪問し、白根社長とご面談する機会を頂きました。

遠藤学長の訪問は今回が初めて。冒頭、ご多忙の中、応接いただいた白根社長に対し、これまで8年間続いている東北こども博の際に、毎年、2万人もの来場者を頂いていること、特に、展示いただいているトヨタの自動車は子供たちが列をなしての大人気！運転席に我先に座ってクラクションを鳴らしたり、アクセルとブレーキを交互に踏んで感触を楽しんだりと、子どもたちの車への興味を誘っていることを報告しました。そして、2019年度も引き続きご支援、ご協賛をお願い申し上げ、白根社長からは今後も支援協賛に前向きに検討していきたい旨の温かいお言葉を頂きました。

＜トヨタ自動車東日本（株）様ＰＲホール「結ギャラリー」にて。右側が白根社長＞

多忙な中、震災支援など多面的なご活躍を展開する白根社長

白根社長からは、トヨタ自動車東日本（株）としても、また、社長ご自身も大震災の復興関係の委員等を務められ、引き続き東日本大震災の復興支援にご尽力されていることのお話を頂き、更にハンドボール部は全国実業団の大会での強豪であり、その育成強化に力を入れていること、ラグビー部の顧問を経験されていたトヨタ自動車（株）勤務時代には、競技スポーツへのご苦労をされておられたことなどの話を頂き、スポーツ分野での産学連携へと話題が広がるなど、極めて有意義なお話を頂きました。

先端企業での“日本古来の「からくりの技法」をふんだんに使っての品質改善”

その後、工場見学の機会を頂き、シエンタやカローラの生産ラインを見学させて頂き、生産現場では、かの有名な「カイゼン」への取り組みの中、現場の従業員の発案による“日本古来の「からくりの技法」をふんだんに使っての品質改善と働き方改善の視点での製造工程の手直し”や付加価値重視へのたゆまぬ努力、従業員の人材育成を大切に考える社風を感じ取る機会となりました。これらのトヨタウェイは、本学においても十分に学ぶべき点が多く、もっと効率的な大学運営に向けた「カイゼン」意識を教職員全員が日々持てるよう、意識改革に活かせると感じさせる体験でした。

地場の産業界とのスポーツ健康科学分野での交流の必要性

我々のシーズである、運動による健康づくり、競技スポーツのパフォーマンス向上等のスポーツ健康科学の領域で、今後、地元に根付くトヨタ自動車東日本（株）様はじめ、産業界の皆様とWin-winの関係を築くためにも、交流の必要性を感じる実りある会社訪問となりました。

＜報告：学生支援センター＞

首都圏就職一日弾丸ツアーを実施しました

3月3日（日）に首都圏就職一日弾丸ツアーを開催しました。

本学3年生への就職支援の一環として、保護者会からの援助を受け、首都圏で開催される就職イベントに参加するという企画です。事前に2日間にわたる事前指導を受けた上で、いざ本番の合同企業説明会に参加します。今回は体育学科15名、健康福祉学科3名、運動栄養学科4名、スポーツ情報マスメディア学科10名、現代武道学科1名、計33名が参加し、昨年を10名上回る過去最高の参加人数となりました。

当日は仙台駅に8時30分に集合し、新幹線と中央線・総武線を乗り継ぎ水道橋の東京ドームプリズムホールに向かいました。合同企業説明会は12時から17時までの5時間でしたが、一人あたり約5～6社の説明会に参加した後、株式会社文化放送キャリアパートナーズの谷田氏より、今日の経験を今後どのように活かしていくかについて講義が行われ、学生たちは真剣に耳を傾けていました。

講義終了後は首都圏学生との交流会を実施し、早稲田大学4名、明治大学2名、日本女子体育大学4名のいずれも就職に意識の高い学生10名と、貴重な情報交換の場となり、お互いに初対面とは思えないくらい盛り上がりました。また、学生たちは互いに連絡先を交換し合うなど終始和やかな雰囲気で終了しました。

参加した学生からは、「首都圏の学生にとても刺激をうけ、自分に足りないもの等を認識でき、新たな気持ちで就職活動に取り組める」との意見も聞かれ収穫の多い一日となりました。

＜報告：入試創職室 中鉢・鈴木＞

高校生のための仙台大学「教師塾」を実施しました

ダンス実技指導の様子

青沼副学長講座

3月12日（火）9：00～13：40まで、「教師になろう」という高い志をもつ高校生に対し、その思いの実現に向けた教育活動支援を行う『高校生のための仙台大学　教師塾』を開塾しました。

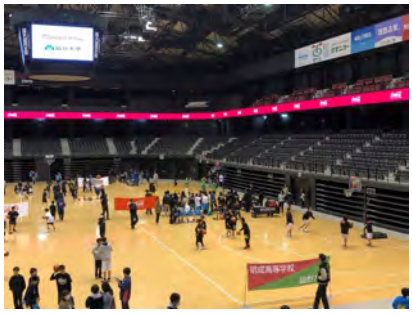
当日は、明成高校や柴田高校など県内7校から34名の高校生が参加し、午前に講義、午後に体育実技（ダンス、バレーボール）を行いました。午前の講義は遠藤学長の「先生の魅力とは何か」と題した講話があり、次に青沼副学長から『「教える」ってどんなこと』と題した講座を行い、その中で教員採用試験に合格し4月から教鞭をとる4年生による講義を行いました。青沼副学長の講座では、「教員のタイプは様々あり、ただしゃべる教師もいれば自らやって見せる教師もいる。しかし、本当に優れた教師は生徒の心にやる気の灯をともすのです。」と教員を志す受講生に教員の在り方について話をしていただきました。午後は、山梨講師がダンスの振り付けの難しさや体を使って表現する楽しさを指導し、その後、井上教授の指導のもと、鈴木貴之職員とバレーボール部の補助学生16名がバレーボールの基本や教員採用試験における実技試験の内容を取り入れて実施しました。お昼は学生食堂で教員や補助学生と一緒に昼食懇談会を行い、受講生には仙台大学での大学生活の一端を経験していただきました。

受講生からは、振り返りシートにおいて、教師塾への希望としては「勉強になる授業だったので今後も続けてほしい。」、「この授業で教師になりたい気持ちが強くなりました。」また、体育実技を体験してみての感想においては、「とても楽しく参加することができ、初対面の人とも一緒に踊ったり、プレーしたりできてよかった」などの意見が寄せられました。

今後も、教職支援室では引き続き教員を志す高校生等への支援などを図ってまいります。

＜報告：教職支援室＞

「3×3.EXE GAME in仙台～小学校卒業記念大会」にバスケットボール部が補助スタッフとして参加しました



ゼビオアリーナ仙台にて補助スタッフとして審判をする学生達

3月21日（木）ゼビオアリーナ仙台にて、「3×3.EXE GAME in仙台～小学校卒業記念3×3バスケットボール大会」が開催され、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部の学生10名が試合の審判や運営など補助スタッフとして参加しました。

この大会は

①トップアスリートが試合を行う同じ場所で、プレーをすることで卒業の思い出としてもらうこと

②バスケットボール(3×3)の楽しさを改めて感じてもらうこと

③バスケットボール(3×3)という共通のツールを通して、親交を深めてもらうこと

の3つを目的として、ゼビオアリーナ仙台と宮城県バスケットボール協会が主催し、朴沢学園も協賛として、CM放送やブース出展をしました。

大会は52チーム、約700名が来場され、白熱した試合に多いに盛り上がりました。

平成30年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式を開催しました

記念写真

表彰の様子

3月13日（水）第5体育館2階大教室にて、学生支援センター主催「平成30年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式」を開催しました。

この贈呈式は、仙台市、名取市、岩沼市、柴田町の各教育委員会の方々が、学校支援ボランティアを行った学生を対象に、感謝状を贈るための贈呈式で、今年度活動した主な学校支援ボランティアの内容は、上記4市町の幼稚園、小中学校を対象に子どもたちの勉強を支援する学習支援、陸上記録会の運営補助などの学校行事支援、部活動を指導する部活動支援などのボランティアを本学生が活動してきました。今年度は延べ139名が活動し、その内25名が式に参加、各教育委員会の方から学生に対し感謝状が贈呈されました。教育委員会の方々から、「仙台大学の学生は子どもたちにとって憧れなので、それを自覚し、行動してほしい」「子どもたちと年齢が近いので教師の目が行き届かないところまで、気付いてくれた」「子どものことを第一に考えた問いを非常に意識していることが良かった」など、学生に対し大変高い評価を頂きました。贈呈式に参加した大森春花さん（運動栄養学科2年）は、「今年度、私は学校栄養士の業務補助のボランティア活動を行いました。作業中、栄養士の方のお話から、給食運営における人手不足やアレルギーを持つ児童が増えたことによる栄養士業務の複雑化などを知ることができたのがボンティアを通しての大きな収穫です。これからの栄養士に何が求められるかを考えるきっかけとなりました。私は将来、小学校や幼稚園などで栄養士として働き、食の面から子供の成長に寄り添える仕事がしたいと考えています。その為、来年度もこの活動を継続し、栄養士さんのサポートをしながら自分の経験と知識を深めていきたいです。また、このボランティアだけではなく他の様々なボランティア活動を経験し、視野を広げていきたいと思います」と話していました。

学校支援ボランティアは将来教員を目指す学生にとって、普段の授業では味わうことの出来ない子どもとの触れ合いや指導することの難しさなど、実際の教育現場でしか味わうことの出来ない様々な経験をすることが出来ます。今後もより多くの学生を教育現場にボランティアとして派遣し、学生たちが将来の夢である教員という職業に就くための手助けとなるよう尽力して参ります。

＜報告：学生支援センター＞

平成30年度 健康福祉研究会を開催しました

「健康福祉研究会」は、介護や福祉・健康づくりなどの現場に勤める方々と、健康福祉学科の卒業生・在学生・教職員が相互に学習研鑽できる環境づくりの構築を目指し、平成16年度より開催してまいりました。

第13回目を迎えた今回は、「仙台大学発 介護福祉士養成を探る」をテーマに掲げ、平成30年3月9日（土）14時より、LC棟1階で開催し、卒業生16名、在学生32名、教員14名の計62名と多くの皆様にご参加をいただきました。

介護における最新情報として、本学の堀江竜弥講師より「我が国の介護福祉士養成の方向性と課題（カリキュラム改定、介護の高度化）」の発表と、卒業生のキャリアの動向について中間報告、福田伸雄講師より「介護ロボットの活用について」、後藤満枝准教授より「外国人労働者の受け入れについて」発表がおこなわれました。

介護福祉領域の実践からは、本学卒業生の特別養護老人ホーム萩の風 施設長 田中伸弥氏（平成15年卒）より「パラダイムシフト−地域ケアの垣根を超える−」と題して、地域福祉における先進的な実践のご発表と、施設にお勤めの外国人ケアワーカーの活躍についてご報告がありました。また、本学卒業生の介護老人保健施設 歌津つつじ苑 介護職員の三浦将詞氏（平成27年卒）より、「歌津つつじ苑における介護ロボット導入の効果について」と題して、平成29年度宮城県ロボット等介護機器導入支援事業の「見守り支援ベッドシステム」導入の実践報告をいただきました。

記念写真

質の高い介護人材養成、人材確保という社会のニーズに対し、人間の身体の専門知識を持つ人材養成ができる仙台大学介護福祉士養成がどうあるべきか、保健医療福祉領域で先進的な実践でご活躍されている卒業生の皆様と一緒に、実践と教育研究との共同研究の必要性を感じる研究会となりました。

＜報告：健康福祉学科＞

子ども運動教育学科の上海保育実習

平成31年2月27日～3月6日にかけて、海外保育実習および中国の幼児教育、保育の実態把握のため、上海体育学院並びに上海市に所在している日系幼稚園、中国幼稚園、保育所、蘇州市の幼稚園の視察を行いました。本学からは、朴澤理事長・学事顧問、久能学科長、馬准教授、金准教授、子ども運動教育学科の1年生5名が参加し、菊池さん（仙台大学の卒業生・上海体育学院博士課程）に現地での案内して頂きました。

子ども運動教育学科の学生が初めて海外保育実習を行った場所は、1996年に開園した上海美しが丘モンテッソーリ幼稚園です。この幼稚園は、日本人の子どもを対象とした幼稚園でありますが、園内での会話は日本語・中国語を両方使うのが特徴でした。一日の保育実習は、参加学生が年年少、年少、年中、年長クラスに分かれて、担任の先生と共に子どもたちの登園から降園までモンテッソーリ教育や外遊びに関わりました。

参加学生の感想は、「日本の幼稚園と比較して園内の遊具の配置や教育プログラムの違うところが多かった。中国のイメージは、余りよくないニュースが先行して良いイメージではなかったが、実際に来てみると中国の素晴らしさを体験する事が出来た」など熱く感想を話しました。実習を終えて、森副園長から「日本から来た子どもたちが、家庭の環境・社会の環境により、自立性・社会性・体力低下が予想されるので、日・中比較調査の必要性があります」、「日本人の保育士の海外への挑戦を期待しています」という言葉が印象的に残っています。短い期間ではありましたが、子ども運動教育学科の学生が、今後グローバル的な感覚を有する幼児教育者・保育者になる貴重な経験をさせてもらいました。

上海Yangpu Red Balloon 幼稚園は、上海市の中でも、富裕層が住んでいる地域にあるため、子どもが生活しやすい環境でした。この幼稚園には、１つのクラスの定員は20名ですが、先生の数は3人体制で（英語圏の先生、中国人先生：担任、副担任）英語教育が充実されているほか、園内で多様な種類の運動あそび器具が多く配置され、子どもがどこでも手軽に運動あそびができる環境が素晴らしかったです。この他、上海滞在中、複数の保育・幼児教育関係施設の視察も実施したので、今後の子ども運動教育学科の教育研究の運営に役立てていくことと思われます。

上海体育学院と仙台大学とは、これまで大学院留学生受入・交換留学、教職員間の研究の交流を行って来ましたが、今回の保育実習を目的とした短期研修派遣は初めてであり、陳院長からは、子どもを対象とした研究やプログラムを通じて、両校の交流がより一層発展することを願うとの話がありました。今後、定期的なサッカー試合や中・長期の単位交換留学制度の実現など、さらに交流を拡充していくことを確認しました。

上海体育学院の陳院長と朴澤理事長・学事顧問

国際卓球博物館

＜報告：金賢植准教授＞

通算28回目 ハワイ大学アスレティックトレーナー研修ビギナーコースを実施
～学生たちによるハワイでのＴＶ出演・ハワイ報知社取材～

2月27日ハワイのテレビ局Oleo Communitg Medaiaにて

3月1日ハワイ大学関係者と共に研修のクロージングでの様子

2月25日～3月5日の日程で、ハワイ大学（以下ＵＨ）アスレティックトレーナー研修（以下ＡＴ）ビギナーコースがハワイ大学で開催され、1年生の学生9名が参加し、江尻雅彦教授、山口貴久准教授、佐藤美保広報室長、内野洋材助手が引率しました。本研修は、ビギナーコースとアドバンスコースとに区分され、先進的専門技能や知識の習得を目的として、年2回ハワイ大学と本学との提携により行われ、2003年12月を皮切りに今回で通算28回目を迎えました。

今回参加した学生は全員がアスレティックトレーナー部に所属するなど例年にはない顔ぶれで、学内での学びや実習等の成果もあり、1年生ながら高い意識を持って研修に参加することができました。その結果、ＵＨ関係者からは優れた評価と同時に、将来を期待するメッセージを頂きました。

研修中はＵＨの学内での講義、ＡＴルームの実際の様子、ベースボールやバスケットボールの試合観戦、さらにはマッキンリー高校での見学を通して、ＡＴの動きや役割など多くのことを学ぶことができました。

研修中には本学を卒業した村上泰司さん（卒業後、ＮＡＴＡ-ＡＴＣ取得のためＵＨ大学院に在学中）が帯同し、あらゆる場面で親身なアドバイスを惜しまず、学生たちのお手本として大いに協力してくれました。

今回研修の目玉のひとつ、80歳を超えながらハワイにおける健康体操の第一人者でMurata教育学部長のご母堂であるFaye Murata氏の「Faye’ｓ元気体操」というテレビ番組に学生たちがオリジナル体操で出演し、ＮＧなしで高齢者むけの体操を披露し無事収録を終えることができました。その模様は4月と5月の毎週木曜日に4回づつ現地で放送されることとなりました。

また、Hawaii Houchi（ハワイ報知社）をＵＨマノア校Dr.Nathan Murata教育学部長、同教育学部の田村薫里准教授、仙台大学江尻雅彦教授、山口貴久准教授、佐藤美保広報室長、Faye Murata氏で訪問し、学術交流の一環で行われている「アスレティックトレーナー研修」について、交流までの経緯や研修内容を説明しました。特に、ＵＨの田村薫里准教授からは、「日本ではＡＴについての認知度が低い現状である。仙台大学のＡＴに関する考え方、知識、設備等は日本ではトップクラスなので是非日本をリードしてほしい」との期待を寄せられました。また、Dr.Nathan Murata教育学部長からは、「仙台大学との交流をさらに充実させるためには、今後とも最大限の協力を惜しまない」との力強いメッセージを頂きました。

2月28日ハワイ報知社にて

本研修を通じて、世界のスポーツ界を支える若者たちの育成のため、仙台大学が科された使命感の大きさを改めて実感することができました。

また、学生たちからは本研修を通じて、「英語や海外の文化、生活様式の違い、さらにはＡＴに関する取り組み等について深い学びを体験することができました。今後ライセンス取得へ向け、インターネットを活用しての遠隔授業やアドバンス研修などへ意欲的に取り組みたいです」との意気込みが報告されました。

○平成30年度　ハワイＡＴ研修ビギナーコース参加学生

グループ①リーダー	金子　茂紀（体育　秋田）	藤本　　樹（体育　宮城）
	大久　勇樹（体育　宮城）	長内　杏衣（体育　青森）
	野ヶ本早芳（体育　静岡）	
②リーダー	塩田　浩貴（運栄　青森）	千葉　右太（体育　宮城）
	石村　颯太（体育　青森）	星　　周根（体育　宮城）

＜報告：江尻雅彦教授＞

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.12

担当：浅野勝成助手

「今日のラントレ（ランニングトレーニング）はキツイですか？」。ちょっと前に選手からよく耳にしていたフレーズです。極めつけは会った際の挨拶代りに「今日キツイですか？」、まるでパブロフの犬のようです。

苦痛なことは可能な限り避けたいという気持ちは分かりますし、聞いてくる心情も理解できます。しかし大抵の場合は「キツイよ」と答え、その後に「キツイと思ってしまえばキツイ。出来ないと思ってしまえば出来ない。負けると思えば負ける。どうせトレーニングは行うのだからネガティブ思考ではもったいないよ」と言います。ですが、ただ「ポジティブ思考でいなさい」と伝えるのも中途半端です。

セット数やレップ数などの回数はトレーニング前に決めており、選手にも伝えます。それはラントレでもウエイトトレーニングでも同じです。ラントレを10本行うと決めたら絶対にそれ以上増やさないこと。終わりが分からないことは「キツさ」に繋がります。予め本数を把握していれば、10本のみだから一本一本は全力で行おうと考えることが出来ますし、トレーニングの質も上がります。選手個人やチームの雰囲気がポジティブになるための工夫は大事です。もちろん、ポジティブな雰囲気を作り上げることがトレーニングの目的ではないですが、身体強化という目的を達成するための一つの工夫と捉えています。

もう一つの工夫は、選手達がギリギリ越えられそうな強度や量を設定すること。選手の耐久性を凌駕する程の強度や量は、身体的でなく心理的にも負担が大きいです。ギリギリの所を設定し、選手達がそれを達成する。達成感を得られることで次も挑戦しようとする。そうするとチーム全体の雰囲気が良くなってくると思います。ポイントは漸進性過負荷で、身体的にも心理的にもとても重要な原則と感じます。

上手くいけば各選手がリーダーシップを持って、トレーニングに挑戦しようという良い雰囲気がチーム内で作り出せます。それが出来れば、身体強化にも好影響を及ぼします。そこへ持っていくための前提として各選手やチーム事情を知ることが必要ですが、週1－2回のトレーニングでそれを把握するのは難しいです。従って、積極的に競技練習の見学に出向いて、選手や監督とコミュニケーションを図ることが重要と感じています。練習見学時には、どのようなプレーや動き方をするのかという技術的・身体的な面のみでなく、表情や仕草、言動などから心理面の観察も心がけています。

次回はFreshman Entrance Screening（FES）について（担当：白坂）

「平成30年度（後期）健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催しました

3月15日（金）に健康づくり運動サポーターの認定証書授与式を開催しました。今回は平成30年度後期の資格認定評価会で認定された初級21名、中級4名、上級4名に対して認定証書が授与され、今回の認定者を含めこれまで延べ595名が本資格を取得してきました。

中級を取得した宋秉臻さん（大学院2年）は「友人と楽しく活動することで、人前で話すことが怖くなくなりました」上級を取得した忠鉢礼菜さん（大学院2年）は「みんなの協力があって上級を取得することができました」引地あゆみさん（健康福祉学科4年）は「上級実習を通して、人と話す楽しさ、指導の大切さを知りました」鈴木萌子さん（健康福祉学科4年）は「4月から社会人となるので、上級実習で学んだことを活かしたいです」四日市綾香さん（運動栄養学科4年）は「活動を通して、長所を伸ばし短所を改善し、新しい自分を見つけることができました」と学生が今後の抱負を述べてくれました。

この資格取得には、全10回の講義受講と地域の運動教室での現場実習や指導実習、上級の場合には、地域での健康イベントの企画立案・準備・実施・結果報告まで行うことが必要となります。実際に地域の方々と関わりながら学生はコミュニケーション能力や指導力、ホスピタリティを身に付けます。

多くの学生がこの活動を経験し、「安全に」「元気よく」「楽しい」運動指導のできる実践力を身に付け活躍できるよう今後もサポートして参ります。

＜田中亨新助手＞

今回認定された学生と教職員で記念写真